

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

TVチャンピオン裏話

Off-Air Stories on the "TV Champion"

西川誠司 Nishikawa Seiji

折り図 Diagrams

魔法使い (2008年改修版)

Wizard (rev. 2008)

北條高史

Hojyo Takashi

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

ライオン

Lion

堀口直人 Horiguchi Naoto

ペーパーホルダーの横顔 Paper Folders on File

加瀬三郎さんご逝去

Obituary: Kase Saburo

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

つまみおり Information

訃報:伏見康治さんご逝去

Obituary: Husimi Kodi

第14回 折紙探偵団コンベンション
参加募集開始

Registration Information on
the 14th Origami Tanteidan Convention



通巻 109 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、
外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する
2. 批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザ
インの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活
動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both
domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques,
criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the
intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami,
expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and
so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold

山折り線
Line indicating
mountain fold

手前に折る
Fold paper
forwards

後ろへ折る
Fold paper
backwards

折り筋を
つける
Making a crease line

段折り
Pleat fold

裏返す
Turn paper over

引き出す
Pull out

図の見る
位置が変わる
Rotation

図が大きくなる
A magnified view

見えない
ところ
A hidden line

押す、
押しつぶす
Push paper in

切る
Cut

魔法使い (2008年改修版)

作：北條高史 (P.22)

Wizard (rev. 2008)

by Hojyo Takashi (P.22)

■最初の創作からすでに16年。初出の第2回コンペション折り図集では収録されていない「帽子バージョン」について、全体の工程を徹底的に整理してみました。いつのまにか左右非対称造形にたどり着いてしまう、この不思議な感覚を体験してみませんか？

(解説：北條高史) Comments : Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. **109**



Wizard (rev. 2008) : Hojyo Takashi

クローズアップ／Close-up

P.11

TVチャンピオン裏話

Off-Air Stories on the "TV Champion"

西川誠司
 Nishikawa Seiji

折り図／Diagrams and Crease Pattern

P.22

魔法使い

(2008年改修版)

Wizard (rev. 2008)

北條高史
 Hojyo Takashi



P.34 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

ライオン

Lion

堀口直人 Horiguchi Naoto

カラーページ／Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー

Origami Photo Gallery

解説・北條高史
 Comments : Hojyo Takashi

折り図／Thematic Series with Diagrams

P.4

知子の部屋

Tomoko's Room

V字135度

135° V-Shape Module

布施知子

Fuse Tomoko

P.8

おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

ゾウ

Elephant

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

読み物／Articles

P.14

過去の折り紙に学ぶ

Learning from the Paperfolding of the Past

デビッド・リスター

David Lister

ロバート・ハービン著『Paper Magic』について・前編

A Commentary on "Paper Magic"

by Robert Harbin. Part One.

翻訳：羽鳥公士郎

Translator : Hatori Koshiro

P.16

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

小松英夫

Komatsu Hideo

「ビバ! おりがみ」

"Viva! Origami"

P.18

スキップで折紙散歩

Origami Sampo Skipping Every Other Step

前川 淳

Maekawa Jun

日曜日の長い午後

The Long Sunday Afternoon

P.33

ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

加瀬三郎さんご逝去

Obituary: Kase Saburo

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

コラム／Columns

P.7

折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.32

折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司

Nishikawa Seiji

情報／Information

P.35

つまみおり Rabbit Ear

第14回折紙探偵団コンベンション参加募集開始

Registration Information on

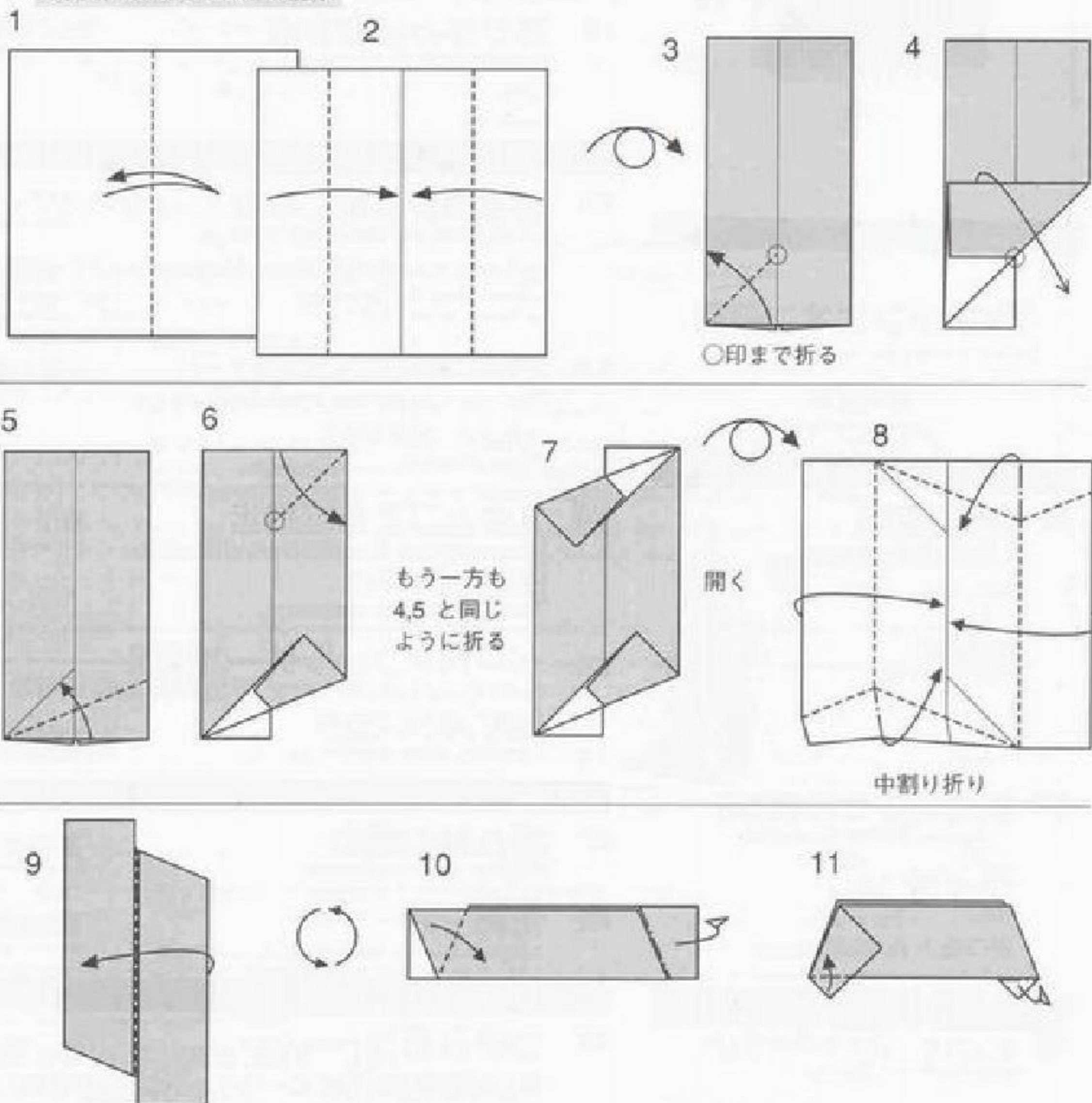
the 14th Origami Tanteidan Convention

V字135度 135° V-Shape Module

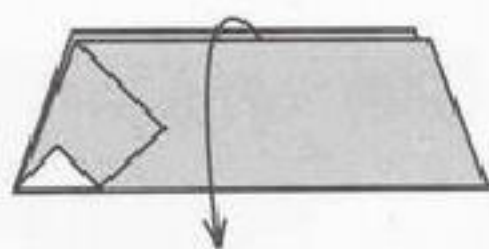
出来上がりが丈夫なユニットです。このユニットは長方形から折るものをすでに著書の中で発表済みですが、本編では正方形から折るものと、辺に加工したものを紹介します。



用紙：7.5 × 7.5cm が基準

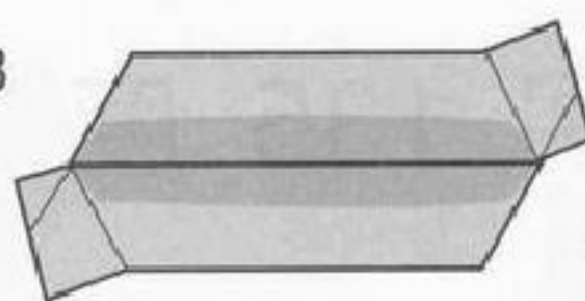


12



開く

13

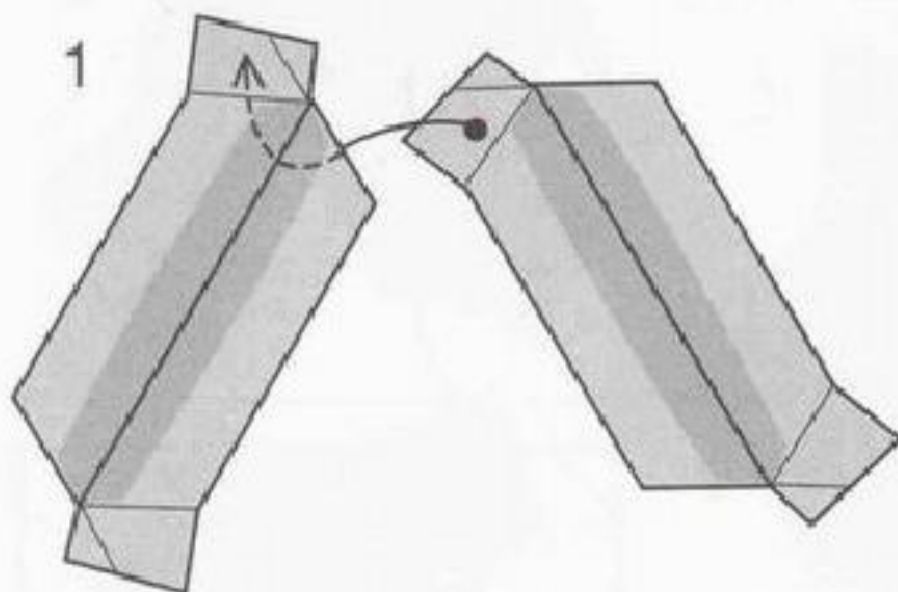


(× 30)

V 字にくぼんでいる

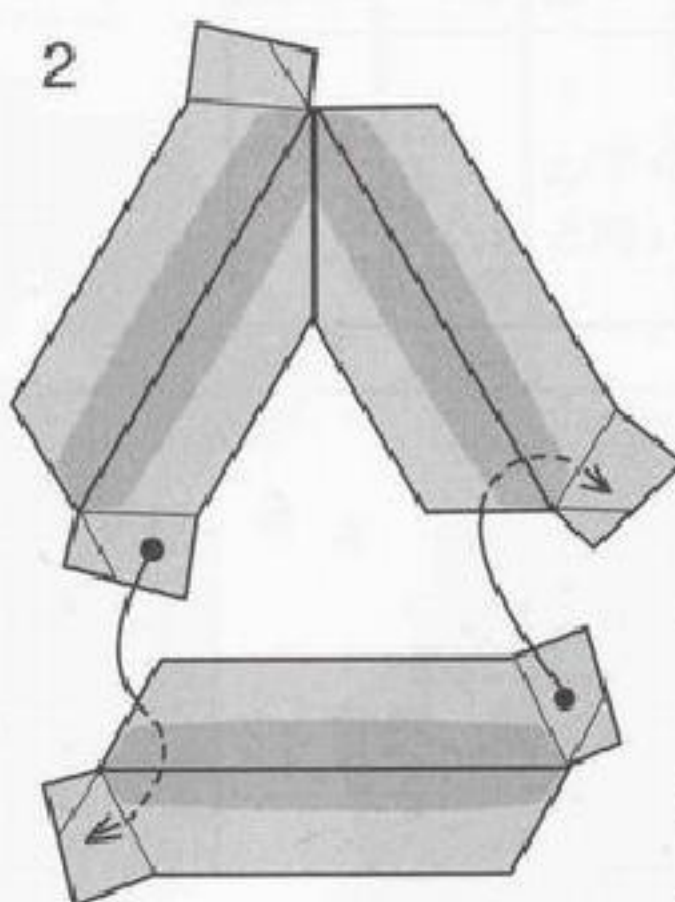
[組み方]

1



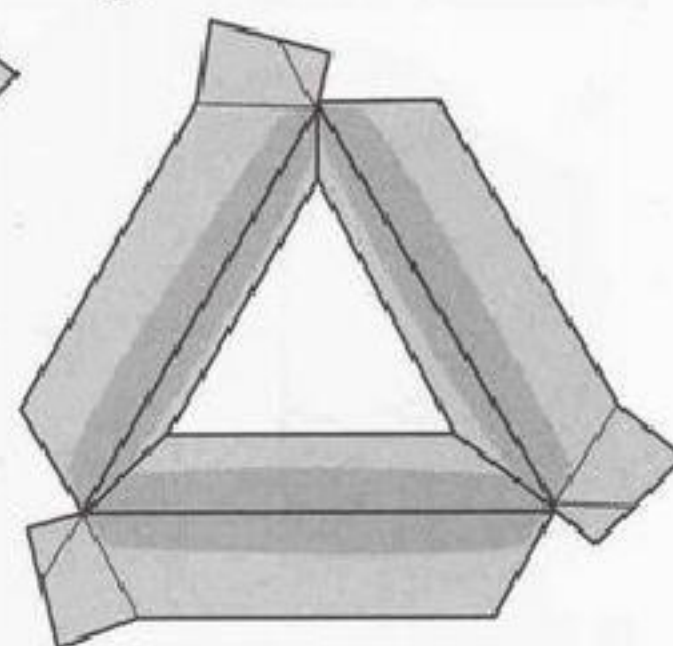
小さい三角は V 字の谷を越えて
差し込む

2



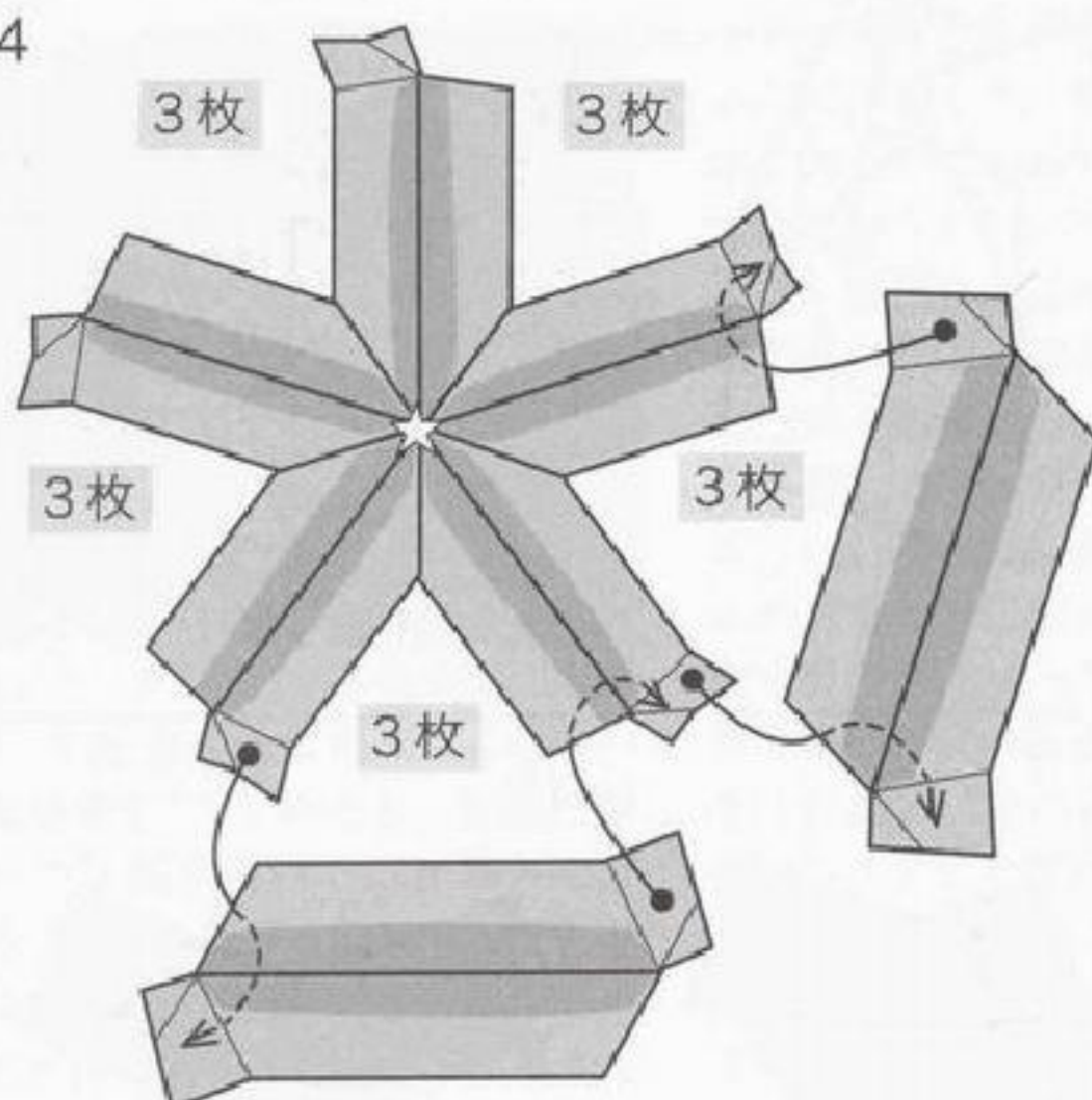
基本 3 枚組

3



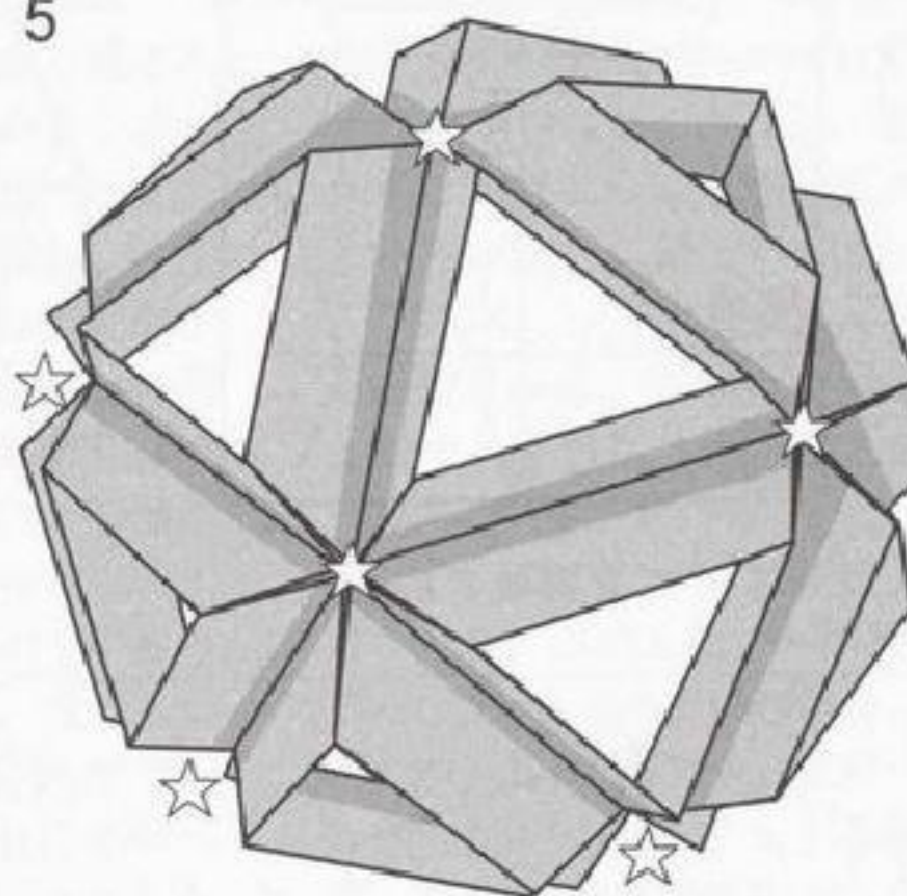
まず 5 枚を組む

4



30 枚組

5



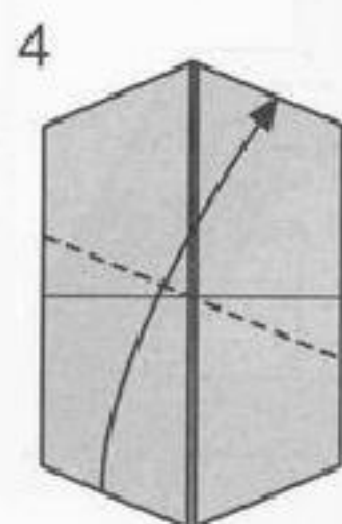
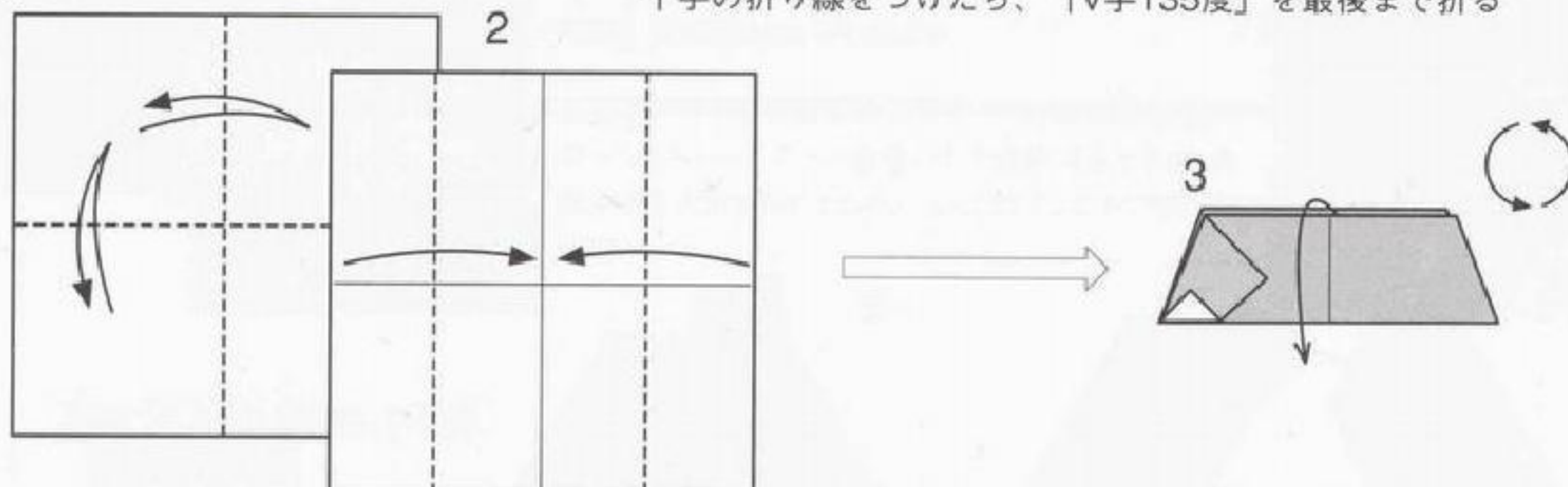
☆印に 5 つ集まるように組む
(☆印は全部で 12 か所)

他の組み方もたくさんできます

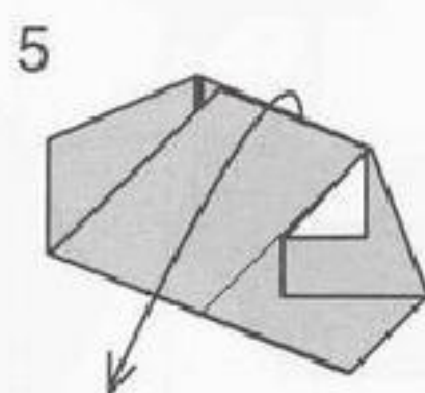
中折れ V 字 135 度

用紙：7.5 × 7.5cm が基準

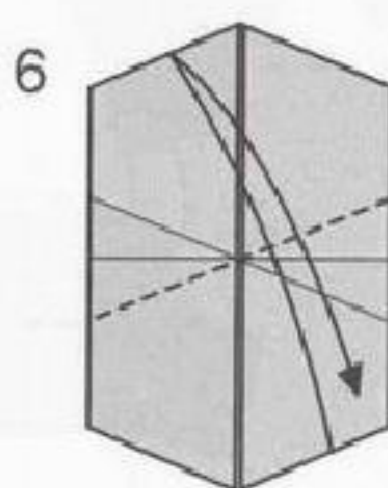
1 十字の折り線をつけたら、「V字135度」を最後まで折る



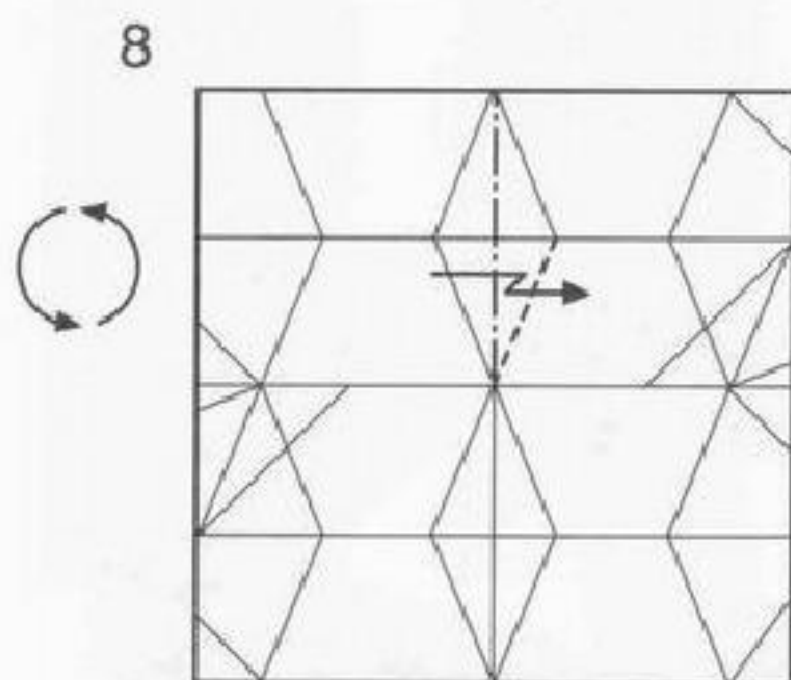
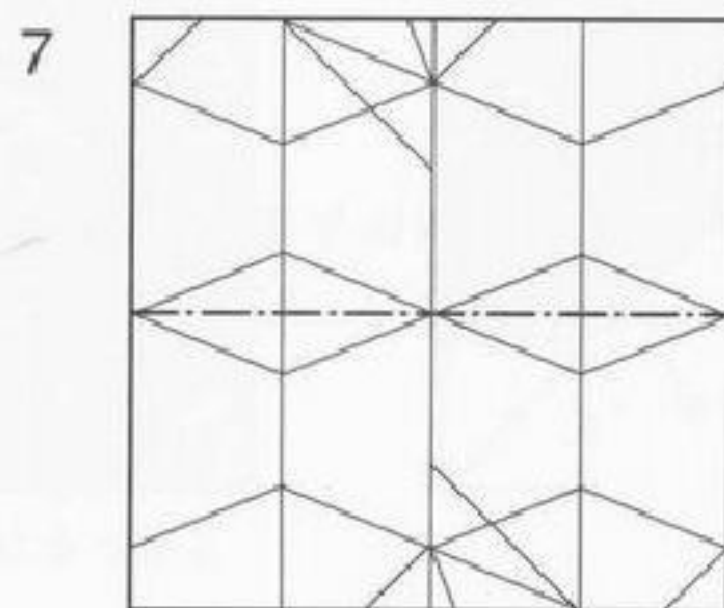
辺を合わせて折る



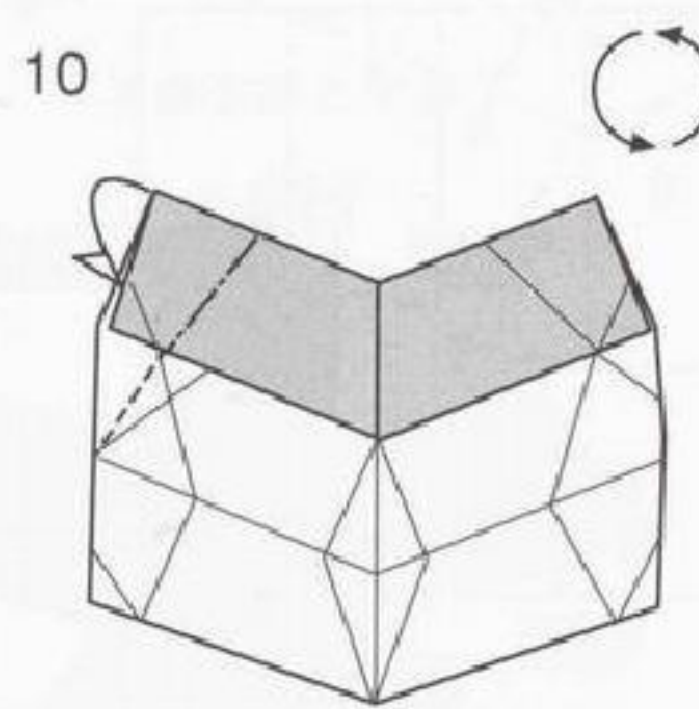
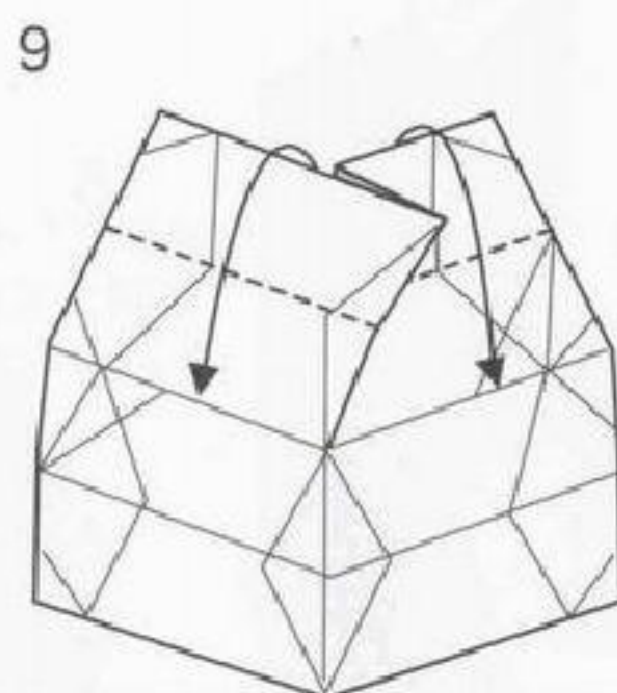
もどす



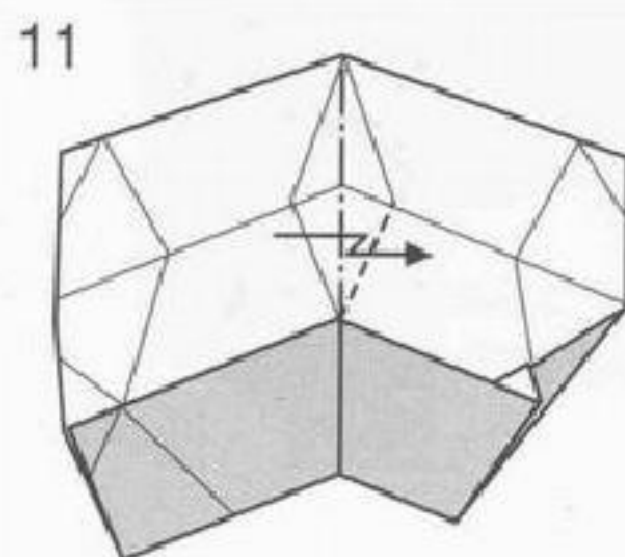
もう一方も同じように折ったら、みんな開く



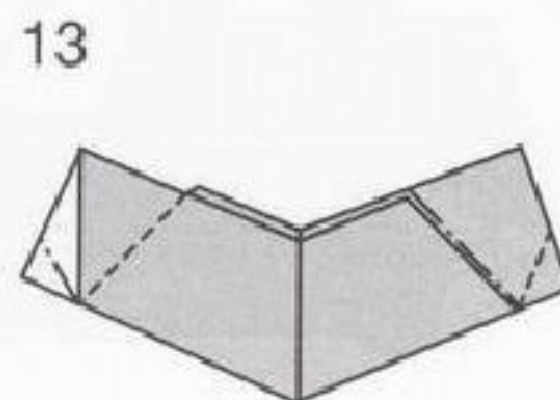
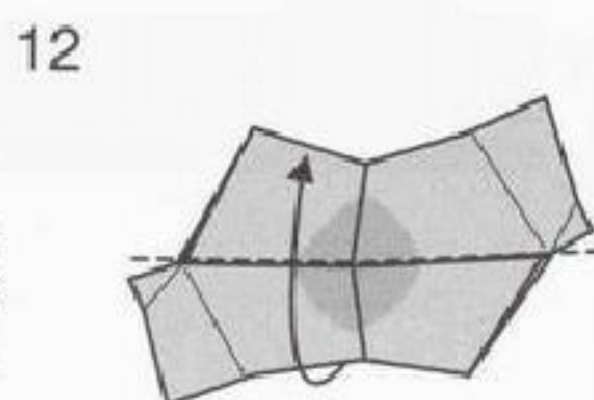
ひだを寄せて折る



中割り折り

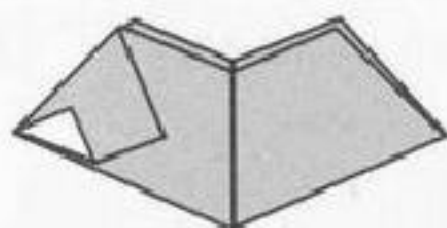


もう一方も
9,10 と同じ
ように折る



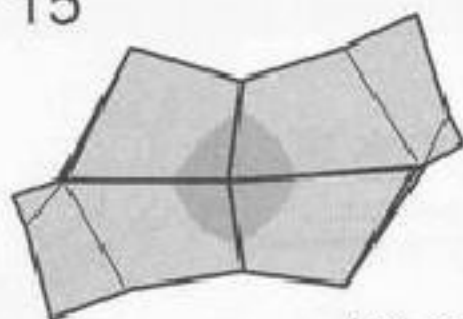
端を 3 の状態に畳む

14



軽く開く

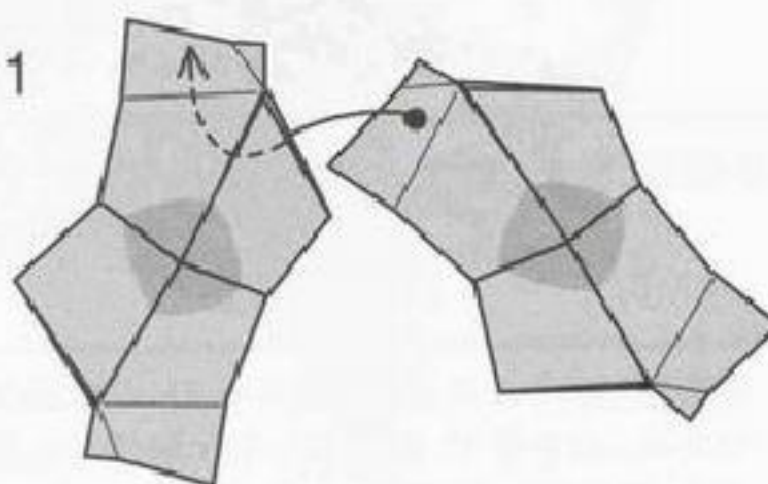
15



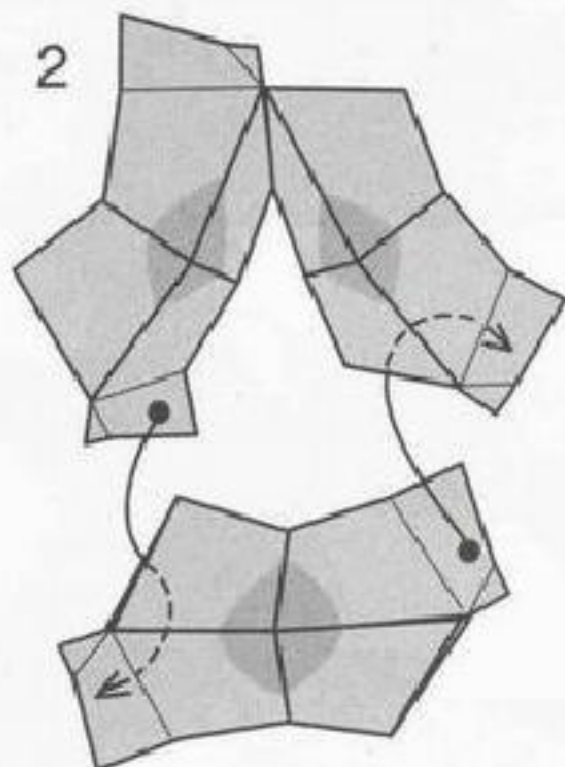
(× 30)

[組み方]

1

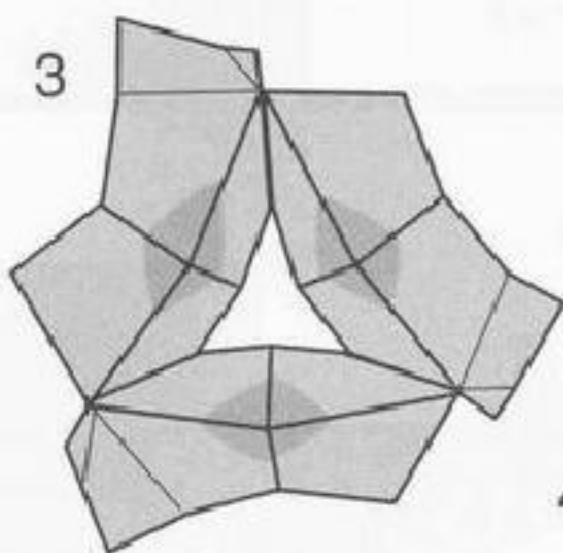


2

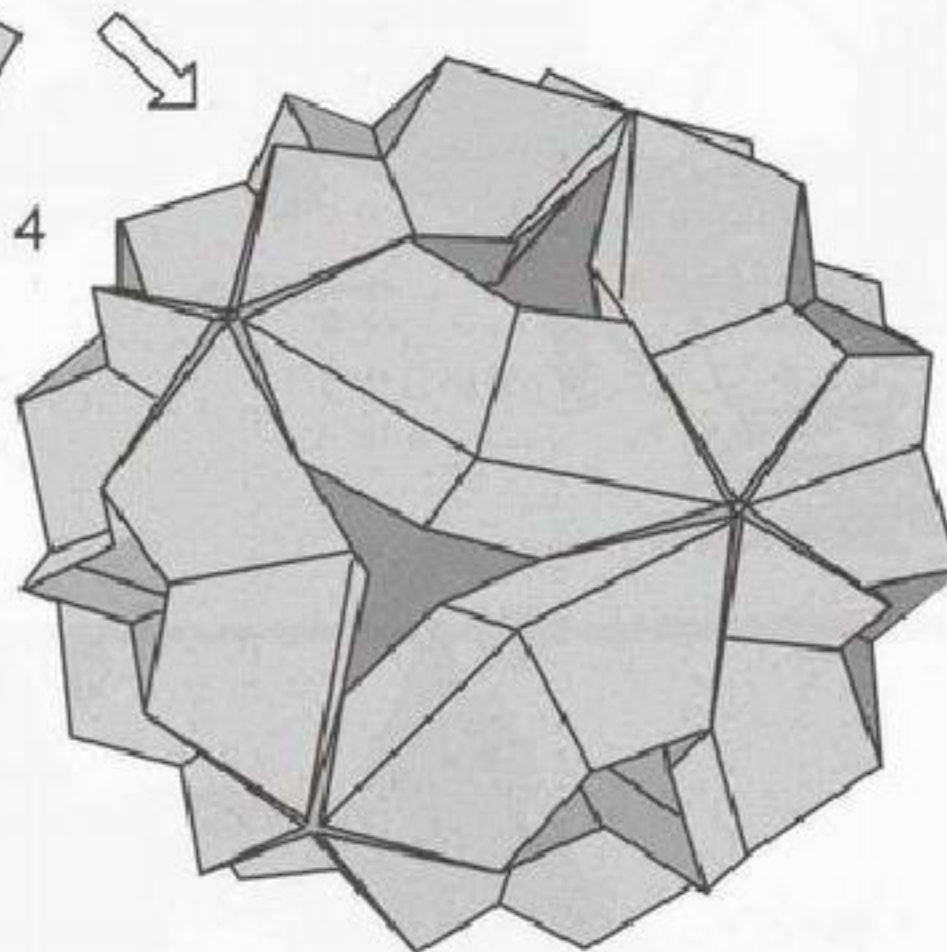


基本 3 枚組

3

以下 5 ページ 4 から
と同じ要領で組む

4



折り紙の 周辺

第 29 回

追悼、加瀬三郎 /
くず餅の味

Obituary: Kase Saburo

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

オランダ折り紙協会創立 25 周年記念大会に出席するための出発準備をしていたとき、加瀬三郎さんの計報を聞いた。加瀬さんに初めてお目にかかったのは、ご自宅を訪問したときで、笠原邦彦さんに連れて行っていただいた。加瀬さんは、個展の準備をなさっているところで、作品はすべて白で折られていた。なぜ白を選ばれたのかと笠原

さんが尋ねると、盲人だから見る人はその方がわかりやすいかなと思って、というような答えだった気がする。笠原さんはみなすばらしい作品ですね、と敬意をもったおだやかな口調でおっしゃった。私はたいそう緊張して座っており、会話もおぼろにしか頭に入らなかった。加瀬さんのご母堂もご健在で、やがてくず餅を出してくださった。このくず餅のきな粉と黒蜜の味だけは、今でも鮮やかに蘇る。その後あちこちのコンベンションでたびたびお目にかかった。折り紙についてビジョンなどをお話する機会はなかったが、インドで拾ってきたボダイジュの葉をいただいたり、アフリカでテントの中でバナナを食べてゾウに襲われそうになった話などたのしくうかがった。

最後にお目にかかったのは 2006 年の九州コンベンション。懇親会会場で加瀬さんは吉澤章氏とのいろいろを熱心に語ってくださった。このときは、ぐっと接近して話される加瀬さんに、私は靴の先をずっと踏まれており、そのことを言うチャンスがなかなかめぐってこずに困った。変なことばかり覚えているものだ。ごめんなさい加瀬さん。そんなこともありましたかね、とほがらかに笑ってくださる気がする。

折り紙界を照らす大きな星だった。希望だった。勇気だった。いろいろは笑顔にかくして加瀬さんはとほうもなくタフだった。ありがとうございました。

おりがみ 我楽多市

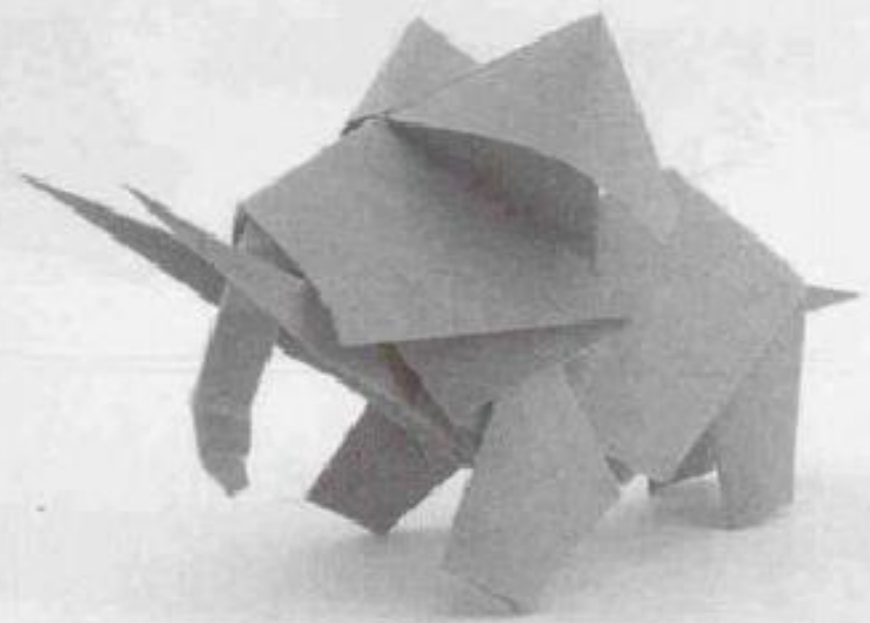
Origami Odds and Ends

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

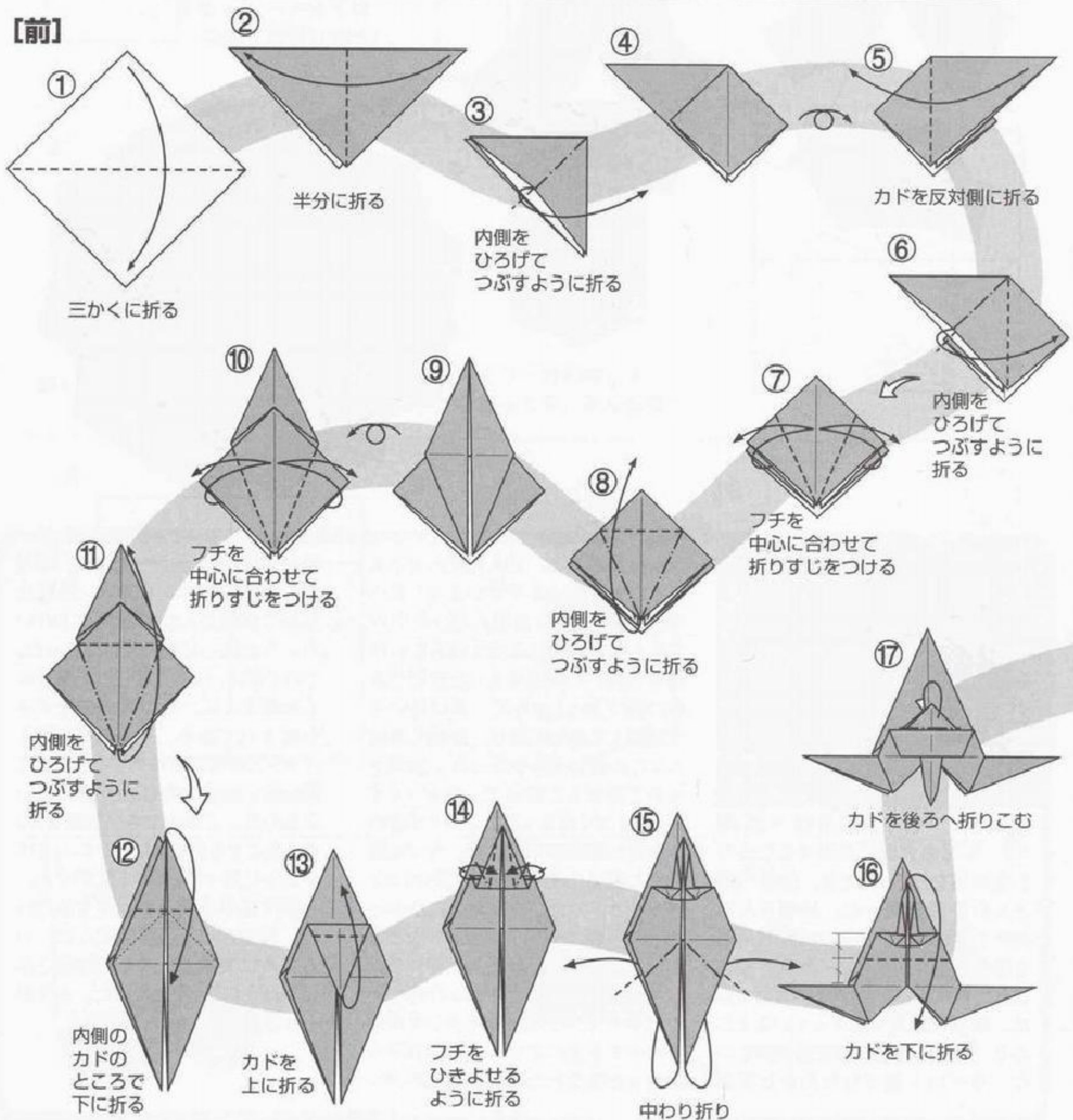
第30回 ゾウ
Elephant

作・加瀬三郎
Kase Saburo

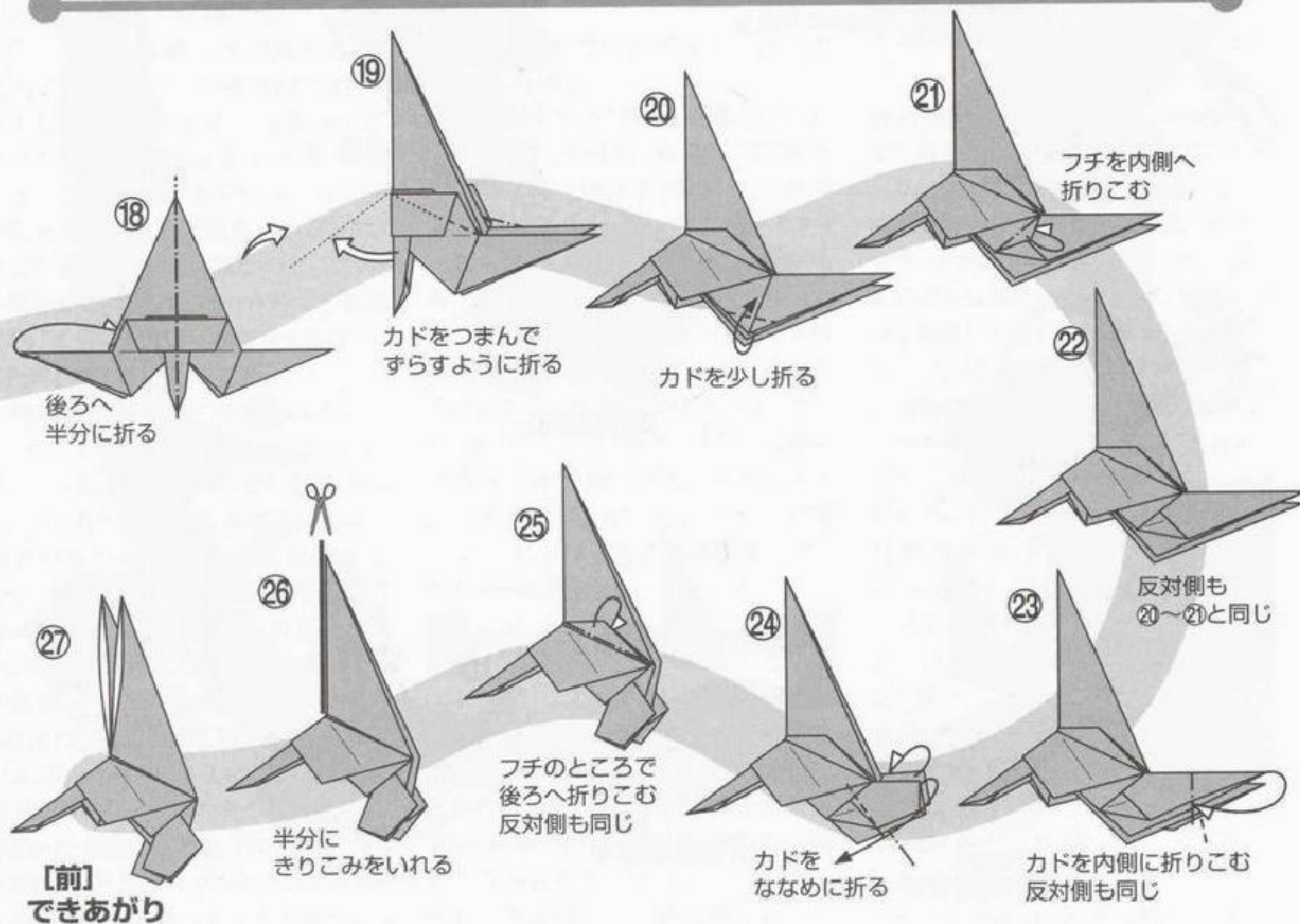
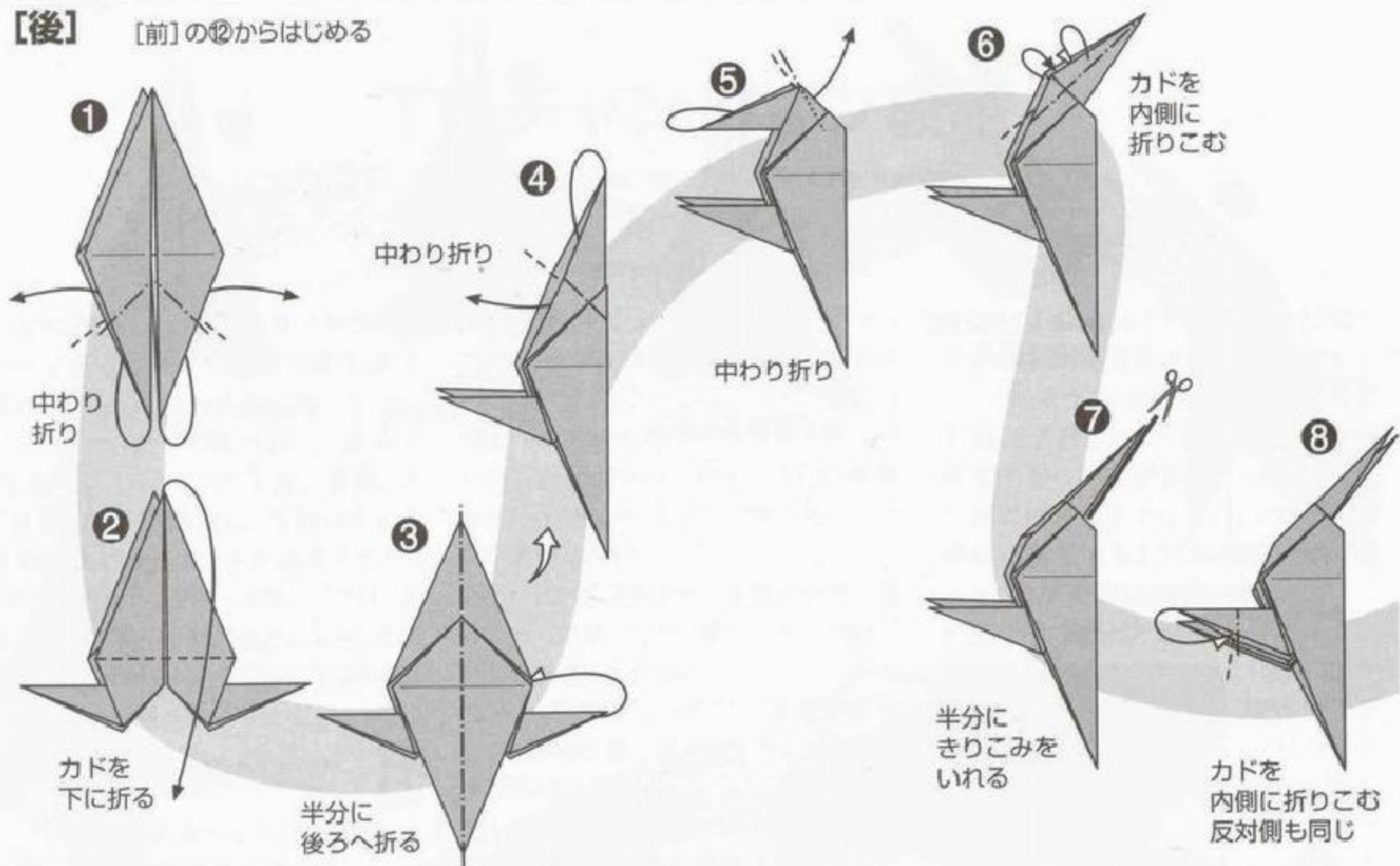
この象はおりがみはうすのギャラリーで開かれた加瀬さんの個展「旅とおりがみ」の主役で、加瀬さんの代表作でもある。ぐらゐ折りの多い作品なので、写真等を参考にして形を調整してほしい。

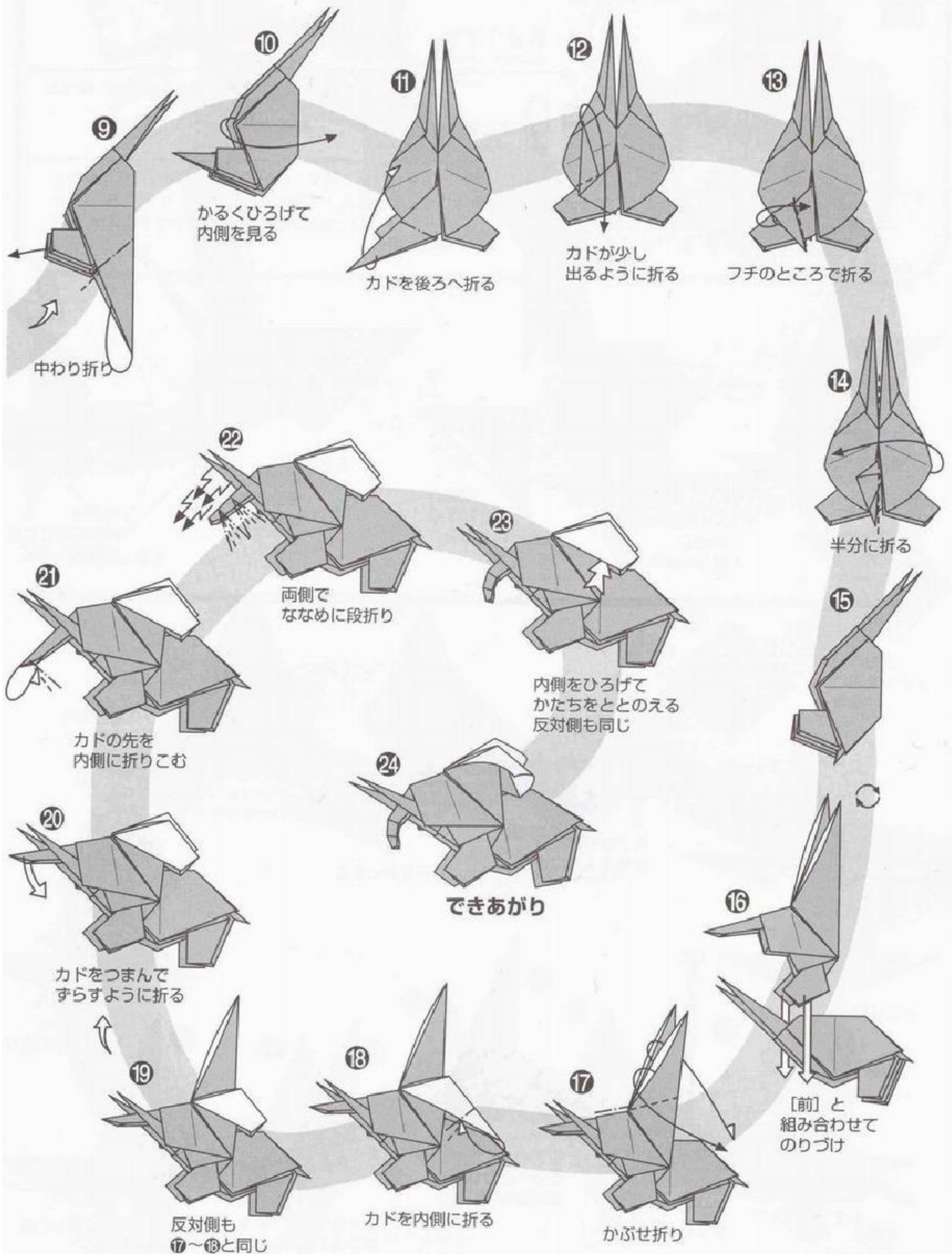


【前】



【後】 【前】の⑫からはじめる





TV チャンピオン裏話

Off-Air Stories on the "TV Champion"

西川誠司

Nishikawa Seiji

3月13日にテレビ東京系で放映された「TVチャンピオン2 折り紙王選手権」は、およそ3年半ぶりの企画となった。「TVチャンピオン」の第3回から4連覇中(足掛け9年にわたって王座に君臨)のご存知、神谷哲史氏に、今回は4人の若者から勝ち残った1人が挑戦するという形式を採った。クローズアップでは、出場者によるコメントや放送されなかったエピソードを交えながら今回の「TVチャンピオン」を振り返る。

出場選手の決定

王者神谷に挑戦するのは、東京の大学生4名。本誌購読者であれば、コンベンションやネット上の活躍で知っている方も多いはず。年齢順に、金沢隆史君(東京大学 20歳、ブログ趣味のブログ)、勝田恭平君(東洋大学 21歳、ブログ新世代雑記部屋)、宮本宙也君(明治大学 21歳、ブログささみストリート)、堀口直人君(首都大学東京 24歳、ブログ山と谷)の4名だ。4選手のプロフィール撮影が実際にはかなりの時間と手間をかけて行われたが、残念ながらほとんど放映されなかった。

制作会社からの企画の相談は、コーディネーターの山口真氏(おりがみはうす)にしばしばある。テレビの影響力は大きいだろうし、出場者募集を行えば応募者が出てくるのではと考える人もいるかもしれないが、テレビ局や制作会社の持っている折り紙に関する情報は乏しい。第1回以来、実力、パーソナリティ(多少馬鹿げたことに前向きにつきあえる?)など含め、山口氏の推薦が頼りにされている。選手候補の適正は、各地の探偵団友の会例会や国内外コンベンションで様々な角度から審査されている(言うまでもなく、それだけが目的ではありません)。実際、海外の実力者も検討され

ていて、かつてはジェレミー・シェーファー氏の出場が実現している。こうなると日本のマスメディアとてこのネットワークには歯が立たないだろう。そんなわけで今回も企画の話があって前述の4名が推薦された。出場を打診された時の各自の思いを聞いてみよう。

勝田「とうとう来たか。高校のとき一度オファーがあったが、嫌だった。でももう逃げられないだろうな」

宮本「このタイミングで! 準備期間がテスト期間の真っ最中だ」

金沢「なんで?」

堀口「その内、打診があれば断れないと思っていたけど。大学院入試と完全に重なる」

とそれぞれ、当惑しながらもそれなりに予想していた様子。

さて、選手が争う種目も問題になる。折り紙のいろんな技巧、創意をうまく見せたいと同時にバラエティ番組としての要素も必要とされる。かつては、バラエティ色豊かに“水中で折る”なんていうものもあったが(鼻から水がでるまで頑張った方、今更ながらご苦労様でした)、今回は、なるべく作品を競う“技巧とアイデア”の勝負を中心にするとの基本方針となった。選手たちには、事前に大まかな種目の内容が説明されるが、それぞれが話してくれているように、大学のテスト期間とバタニングするなど準備期間は決して十分とは言えない。

4分の1の勝ち抜き戦

4人のうち2人ずつ同じテーマで5時間以内に作品を折り上げる。4人の選手が折り鶴のくじ引きで1回戦の組み合わせを決める。1回戦は海の生物対決が金沢vs.宮本、陸の生物対決が勝田vs.堀口の組み合わせとなった。そして、それぞれの勝者同士が人物造形で戦うこと

になる。勝敗は、3人の審査員の得票で決定される。審査員は、TVチャンピオンペーパークラフト王の大熊光男氏、東京芸術大学教授のたほりつこ氏、日本折紙学会から筆者が務めた。ジャッジは3人が同時に札を上げるが、それぞれが事前に相談するようなことは一切無く、ぶっつけ本番の1回勝負である。

<海の生物対決>



宮本宙也君

海の生物対決は金沢君が背中と腹の色分けをした「カニ」、宮本君が「ミノカサゴ」。本番で、海の生物

対決と決まった兩名だが、陸を引き当てた場合のために用意した作品はお蔵入り。なおかつ、同じ海の生き物でも全く同じ題材とならないように、事前に制作会社サイドから調整があったようだ。つまり、それぞれは各テーマについて複数の作品を準備しておかなくてはならない。これは、ただでさえ時間のない中で相当ハードな状況だったようだ(没作品例参照)。

さて、そもそも判定基準は審査員それぞれの感覚にまかされているので絶対的な基準はない。それぞれ微差に悩みながら、一方に決めなくてはならない。この「カニ」vs.「ミノカサゴ」対決は審査員2対1で「ミノカサゴ」に軍配が上がった。



金沢隆史君

<陸の生物対決>

陸の生物対決は、堀口君の「ミヤマク

TVチャンピオン裏話

Off-Air Stories on the "TV Champion"

西川誠司

Nishikawa Seiji

○宮本宙也(みやもと・ちゅうや)=1987年生まれ。ブログ(<http://sasamistreet.blog23.fc2.com/>)にて、より詳細な裏話を公開しています。

○金沢隆史(かなざわ・たかし)=虫や動物を折るのが好きな、都内の大学に通う大学生。好きな生き物:猫。嫌いな生き物:(本物の)虫、爬虫類。



堀口直人君

ワガタ」と勝田君の「フクロウ」。最終的に5時間の勝負となったが、事前情報で3時間くらいとの情報もあったそう
で、5時間と3時間では大違い。紙をジャバラに何十等分にすることで1時間程度は掛かるのだから、5時間は意外に短い。勝田君の「フクロウ」は既存作品であるが、準備期間を有効に使うにはテーマに合わせた既存作品を上手く使うのも当然の作戦。一方の堀口君は、既存作品の昆虫類が5時間ではむしろ足りない。この勝負のために試作なしの展開図のみの未
完成作を本番で最終仕上げに臨む。しかし、勝負は時の運、審査員の運である。「フクロウ」の完成度は、皆認める
ところだが「ミヤマクワガタ」のパッション



勝田恭平君

に2票入った。

<人物造形対決>

1回戦を勝ち抜いた、堀口君と宮本君が人物造形を競う。両名は既に1回戦で5時間を戦い、疲労を抱えながら更なる5時間の対決である。堀口君の「フィギュアスケーター」と宮本君の「ピエロ」の対決。人物造形は堀口君の得意とするところ、宮本君は未知数。さて、前の方でも書いたが、今回のTVチャンピオンは、「技巧とアイデア」の勝負に主眼を置くという方針だがやはりそこはテレビである。バラエティ的要素が欲しい。幸か不幸かその味付けをほぼ一身に受けたのが宮本君だ。戦いが進むに従って独特のキャラが立ち、司会の松本明子さんに格好の突っ込みどころを与え続ける。ちょっとイケメンの顔立ちと対照的なまったりした受け答えに、放送中からネット上でもずいぶん人気者になった。折っている姿も寝そべったり、隣に視線を送ったり確かに突っ込みどころは多い。「ピエロ」の制作も撮影現場にいた筆者もドキドキする進行具合。本当に最後の10分くらいになっても、折り上がっていないところがそこかしこに。放送ではこのヤキモキ感はいまよく伝わらなかったかもしれないが、宮本君のこの綱渡りのスタイルは決勝まで続く。それでも、結果はインサイドアウトが印象的な「ピエロ」が2票を得て、都合10時間の対決で勝ち残ったのは宮

本君。放送でも王者神谷が「何をやってくるかわからない」と未知数の可能性を語った。

決勝 王者に挑戦

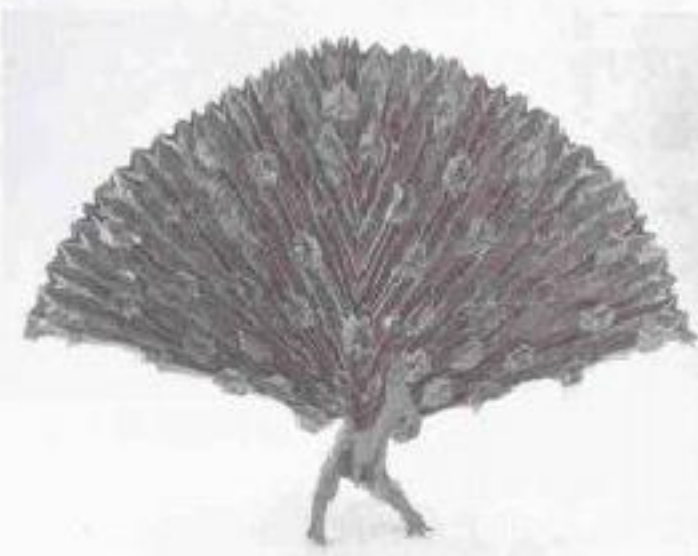
1週間後、勝ち残った宮本君は王者神谷と4つのテーマで競う。まずは、スタジオ外で3つの勝負、そして最後はディオラマ勝負。

<ノーマル折り紙対決@幼稚園>

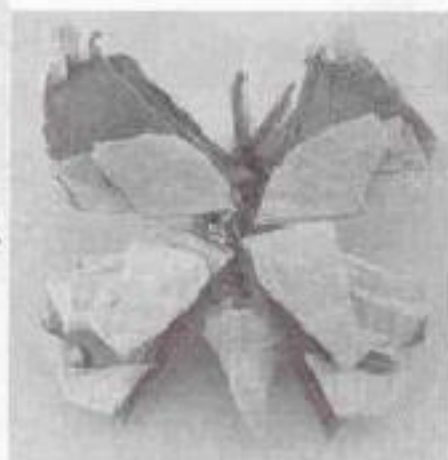
15cm四方の普通の折り紙でどれほどのものが出来るのか、幼稚園の先生を審査員にして行われた。王者神谷が折ったのは「スズメバチ」。エルメスのウィンドウにも飾られたことのある緻密なハチは、神谷氏の手に掛ければ15cmの紙でも見事に折れるのだ。対する宮本君はインサイドアウトの「トラ」で対抗。審査員は「スズメバチ」に軍配を上げたが、ここで事件が起こる。制作中からギャラリーの園児の心を自然につかんでしまった宮本君。先生方の判定に園児からブーイングとともに猛烈な「トラ」コール。現場は、宮本勝ちの空気で包まれていた。放送では、「負けた気がしません」という宮本君のコメントが脈絡無く採用されたが、その言葉の裏にはこのような状況があった。後日、神谷氏が「試合に勝って勝負に負けた」と漏らしている。

<折り紙似顔絵対決>

似顔絵折り紙も事前の準備段階で没作品が山積み。もともと4人の出場選手は誰が挑戦者になるかわからなかったのだから、それぞれが事前に決勝での作



没作品1 宮本君のクジャクも没に(プロフィールでは一瞬映った)



没作品2 陸の生き物で用意された模様をインサイドアウトした蝶(金沢君、宮本君)も没



没作品3 没となった海の生き物



○堀口直人(はりぐち・なおと)=1983年神奈川県生まれ。現在は大学院生。昆虫、キャラ物という、テレビ受けしにくいものをよく折る。

○勝田恭平(かつた・きょうへい)=都内の大学に通う学生。折紙界の若手が集うサイト『おりがみ新世代』の管理人。折紙を始めたのは幼稚園のとき。創作歴は約7年。好きな創作対象は虫、鳥を中心に生き物。



○西川誠司(にしかわ・せいじ)=第1回のTVチャンピオン。他に『タモリ倶楽部』、『所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ!』などに出演。前JOAS代表。

品を用意していた。勝田君は「タモリ」、金沢君は「東国原宮崎県知事」、堀口君が「朝青龍」を準備していたらしい。挑戦に残った宮本君は当初「アインシュタイン」。ところがここへきて制作サイドからリクエストが入る—「テレビでよく見る旬の人で括りたい」。結局、宮本君は「朝青龍」を改めて考えることに。やくみつるさんはじめ、審査員の判定はシンプルに上手く「イチロー」を表現した王者神谷に。これで王者の2-0。

＜即興折り紙対決＞

焼肉チェーン「牛角」でのメニューやレシートを使った折り紙対決。これは、アイデアの勝負となる。メニュー、前かけ、レシートの3本勝負なのでポイントの稼ぎどころ。宮本君巻き返せるか。メニューで王者神谷が1本取った後、前かけで折った「牛角マーク」(宮本)—「イカ」(神谷)、レシートでの「牛角の店員(エプロン着脱可能)」(宮本)—「牛の親子」(神谷)で宮本君が連取。王者3-2で勝負的には面白くなった。「牛角の店員」のエプロン着脱も宮本君曰く「結果的にそうなった」ということだが、アイデア勝負では実力発揮。即興的折り紙での宮本君には期待出来ると推薦していた山口氏の予言的中といったところだ。

＜ディオラマ対決 テーマ“対決”＞

王者神谷3ポイント、宮本君2ポイントで迎える最終決戦は、“対決”をテーマと

するディオラマ対決。審査員は1回戦の3名に加え、やく氏、株式会社トーヨーの真下社長、空手家アイドル小林由佳さん。対決繋がり登場の小林さんは、審査員紹介で得意の型を披露するも残念ながら放送では使われなかった。

それぞれの題材は、有名なギリシャ神話の一場面から「空から降りてきた英雄」vs.ヘミングウェイの小説から老漁師と巨大カジキの対決を表現した「老人と海」。宮本君は、このテーマの題材を決めかねていた。これまでの戦いに全力を尽くさなければならなかったし、制作会社の要望(子どもがわかるものにして欲しいとか)も二転三転。1回戦を勝ち抜き、1週間後のスタジオ外での3勝負の移動中にもその翌日のディオラマテーマの試作を続ける。当初、「ドン・キホーテ」で風車との対決のアイデアを構想するも「老人と海」に変更、その後、「闘牛」を検討、そして最後の最後で「老人と海」にもどした。対決中もハプニングが発生。10時間の制作時間のうち3時間くらいを要して作った“老人”をやや紙の選択を誤り、別の紙で“老人2号”を折り直し。“老人1号”の方が顔の表情が筆者の目にも良いように思われたので残念だった。それでも、「(可愛い)小林さんに1ポイント入れてもらえてホッとした」と宮本君。勝負は、神谷作品の完成度が高くついに5連覇。

おわりに

今回挑戦した金沢君、勝田君、堀口君、宮本君にとって苦しいことも多かったろうが、良い経験にもなっただろう。反響と感想を聞いてみた。

堀口)「突然、昔の友達からメールが届いた。魚をテーマにしたことが無かったので良い機会だった」

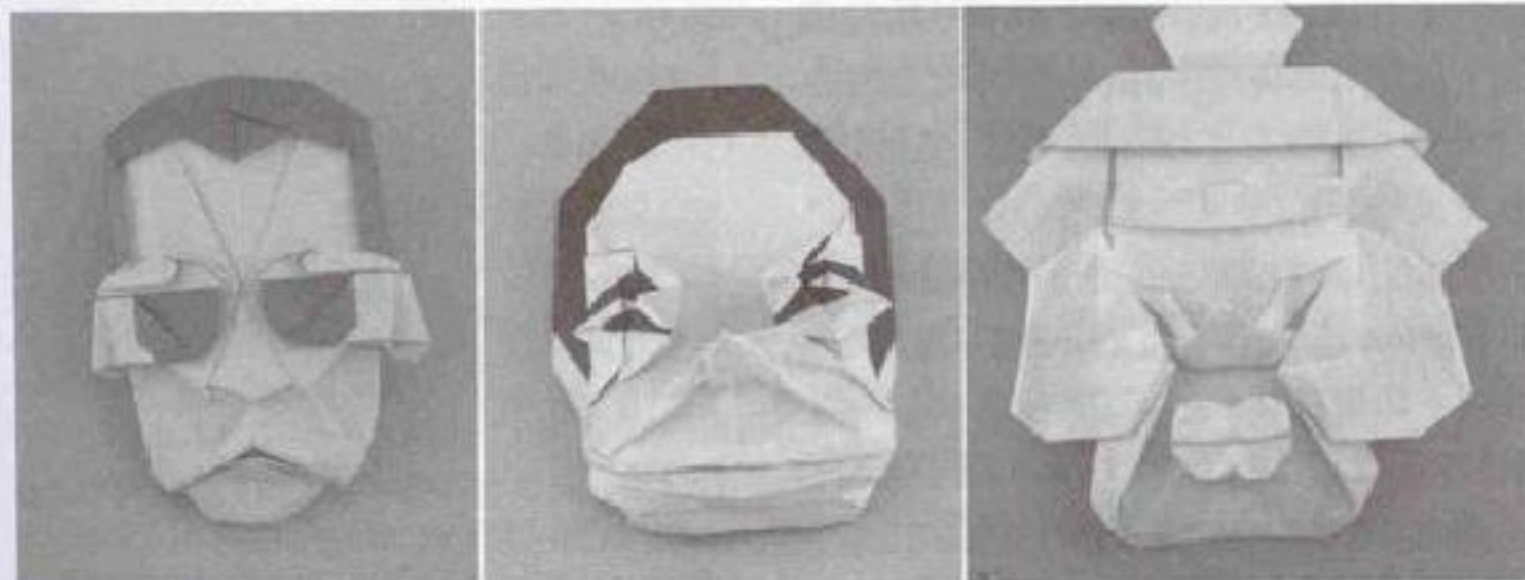
勝田)「バイト先に折り紙少年が訪ねてきた(その後、東京の例会に参加)。変な業界(TVという)があるんだな」

金沢)「放送後、大学クラスで話題に。今まで考えていたいろんなパーツを作品に試すことが出来た」

宮本)「大学で女の子に囲まれた。妥協して形にすることが必要だと感じた」とそれぞれ言葉少なに語ってくれたが、言葉にならない経験は今後作品となって現れてくるだろうから乞うご期待。なお、皆、自身のウェブサイトを持っているのでこの記事にならなかった多くの苦闘の記録はそちらを参照いただきたい。



こちらは放映されたエプロンからの「牛角」のロケ



没作品4 没となった折り顔の数々。勝田君は「タモリ」、金沢君は「東国原知事」、堀口君が「朝青龍」

宮本君の「朝青龍」



過去の折り紙に学ぶ 第7回

Learning from the Paperfolding of the Past

デビッド・リスター

Writer: David Lister

訳: 羽鳥公士郎

Translator: Hatori Koshiro

ロバート・ハービン著『Paper Magic』について・前編

A Commentary on "Paper Magic" by Robert Harbin. Part One.

ロバート・ハービンは、英国のみならず世界随一のステージマジシャンの1人でした。しかし、彼が1956年に出版した『Paper Magic』は、マジックについての本ではありませんでした。ここで「Magic」と言われているものは、折り紙だったのです。この本が書かれたのは、西洋のいわゆる「折り紙革命」のさなか、吉澤章がアサヒグラフに干支の動物を連載し始めた1952年1月と、ニューヨークでOrigami Centerが創立された1958年10月のちょうど中間にあたります。この8年ほどのあいだに、英国と米国の折り紙は根本から大きく変わり、呼称すらpaperfoldingからorigamiへと変わりました。

『Paper Magic』は、これまで出版された折り紙の本の中でも極めて重要な1冊だと言えます。ハービンは、1953年に病院に妻を見舞ったさい、1937年のマーガレット・キャンベル著『Paper Toy Making』を使った作業療法を見て、子供のころの折り紙の記憶を思い起こしました。キャンベルは日本に滞在したことがあり、この本には、西洋でよく知られていた作品だけでなく、日本の作品も含まれていました。ハービンは、この本のことをすばらしいと書いていますが、彼の情熱は満足さ

れず、もっと多くの作品を探すようになりました。そして、その2年後に出演したBBCのテレビ番組が成功したことで、ハービンは新しい折り紙の本を書こうと決心しました。

そのころ、ハービンは、ガーシオン・レグマンを通じて吉澤章の創造的な折り紙に触れ、それが刺激となって、この本の方向性も変わりました。ハービンは、それまでの本のどこにもない折り図では満足できないと考えました。たまたま、ハービンと仕事をしていたオーストラリアの若手興行師ロルフ・ハリスが、才能ある画家でもあり、彼はハービンの本のために、従来のような図ではなく立体的な折り図を数百点描くという骨の折れる仕事を引き受けました。彼の技法は効果的で、折り図は生き生きとして分かりやすく、ハービンがこの本に収録したシンプルな伝承作品には理想的でした。吉澤が点線と矢印を使う前のほとんどの折り図は、平板な幾何学的図形にほとんど意味不明の文がついているという分かりにくいもので、そのために折り紙の普及が妨げられていました。ハリスの線画は、吉澤の折り図記法がOrigami Centerで採用されるまでの中間段階として輝いています。

ハービンは、「Paper-Folding, Past and Present(折り紙の過去と現在)」と題する興味深い序文を書いています。これは、折り紙の歴史と、折り紙の理論と技法についての鋭い分析とを組み合わせたものです。まず始めに、彼は折り紙を次のように定義します。

「折り紙とは、1枚の紙を折って、作品と呼ばれる望みの形を作る芸術である。名人たちは以下の単純なルールに従っている。

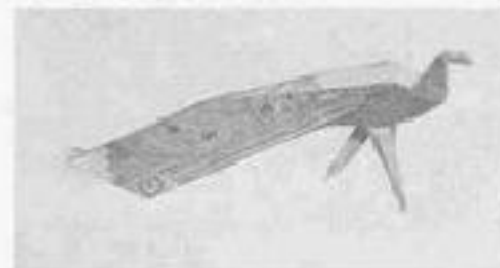
1. 作品は折るだけで、はさみも糊も使わずに完成させることができないといけない。
2. 作品の形は、色や特別な模様の助けを

必要とせずに、簡単に認識できなければならない。

3. 作品は、完成したあとでも、平坦に畳むことができないといけない。」

このルールの出所については何も述べられていません。ハービン自身が考えたのかもしれませんが、日本の折り紙作家が定式化したものを引用した可能性もあります。そうだとすると、これは日本の伝統的な折り紙のすべてに当てはまってはいません。今日でも、日本と西洋の両方で、はさみと糊の使用は適切な場合には受け入れられています。ハービン自身、このルールには例外があると認めており、カゴをさげたラバの作品では簡単な切り込みによって「完全な作品」になると言っています。それにしても、作品が平坦に畳めなければならないというルールは非現実的であり不必要でしょう。これでは、たとえば伝承の「宝船」(西洋では「中国のジャンク船」と呼ばれています)が排除されてしまいます。また、現代の立体的な折りの技法のほとんども、1956年の時点ではまだ発見されていなかったとはいえ、排除されてしまいます。といっても、20世紀半ばには、折り紙は1枚の切り込みのない正方形からはさみも糊も使わずに作らなければならないという考えが広がり始めており、前者2つのルールは明らかにそれを含意しています。

ハービンは次に、折り紙の起源を考察しています。まず、古代ヨーロッパにおい



The Peacock from an old five pound note, from "Paper Magic".

『Paper Magic』より旧5ポンド紙幣で折る「孔雀」



The cover of "Paper Magic".
『Paper Magic』の表紙

○David Lister(デビッド・リスター)=1930年生まれ。5才のときに父親などから折り紙を習い、それ以来興味をもつ。1953年ごろから本格的に折り紙の研究を始める。British Origami Societyの創設にも尽力し、1998年から2002年まで会長を務める。現在はBOSの副会長。



て、パピルスや羊皮紙を折ることがあったかもしれないと示唆しますが、これらの素材は折り紙に使うには固すぎるとして、105年に蔡倫が良質の紙を発明した古代中国に目を転じます。しかし彼は、紙が中国でさまざまな用いられた証拠を見つけることはできたものの、中国に折り紙があった直接の証拠を見つけることはできませんでした。彼はまた、扇や日傘に用いられる段折りの紙と、イギリスでトラブルウィット、フランスでパピエ・ミュルティフォルムと呼ばれる段折りの紙とを比較していますが、トラブルウィットの起源を中国に見いだすことはできませんでした。

彼がたどり着いた結論は、以下のようなものでした。「折り紙の生まれた地は、日本に求めざるをえない。そこでは、折り紙は父から子へ、数多くの世代にわたって受け継がれてきた。折り紙についての本も宝永年間(1704~1709)および1739年に現れている。」ここでハービンは「origami」という言葉を使っており、これが、西洋でこの言葉が使われた最初の例です。

ハービンは次に、ガーション・レグマンから受け取った情報を紹介しています。彼は、レグマンの手紙を引用しながら、1870年代か1880年代に日本のステージマジシャンによって羽ばたく鳥が西洋にもたらされたと述べています。あらかじめ折り目をつけた白い紙を持ち、まぶしい脚光で折り目が見えないようにして、一瞬にして鳥を折って羽ばたかせる様子が書かれています。不思議



Gershon Legman at the Yoshizawa exhibition in Holland in 1955. ガーション・レグマン。1955年オランダの吉澤展にて

議なことに、羽ばたく鳥は日本ではあまり知られていませんが、1890年以降のヨーロッパの折り紙の発展において大きな役割を果たしました。いくつかの本に折り方が収録されていますが、どれも、あらかじめ折り目をつけてから4隅を集めるように畳むという方法で折っています。レグマンは次のように書いています。

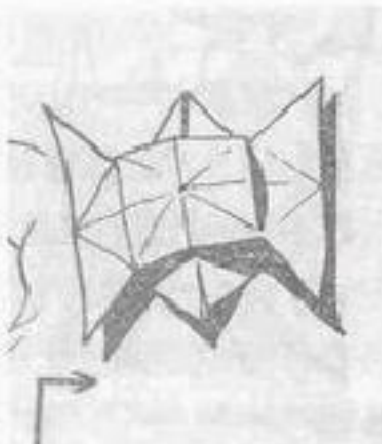
「明らかに、この情報は日本から得られたものだ。日本のいくつかの地方では今でもこの方法が用いられている。しかし、最近の日本の本を手にとれば、紙を順に畳んでゆくような、もっとシンプルで巧みな方法を見ることができる。これが、この作品を正しく折るときに重要なことだ。」

ここでレグマンが述べている折り方は、正方基本形から花卉折りを2度して鶴の基本形を作るという、今日通常おこなわれている方法です。

ここでハービンは、再びレグマンを引用して、吉澤について次のように書いています。「吉澤は『世界でも飛び抜けてもっとも優れた折り紙作家であり、ほとんど信じられないほど折り紙に打ち込んでいる』。」このレグマンの手紙は、おそらく1955年のアムステルダムでの展覧会と同時期に書かれたもので、これが『Paper Magic』の中に引用されたことが、吉澤がその後西洋で極めて高く評価される主な理由になったことは間違いありません。

ハービンは次に、ヨーロッパのほかの国々の折り紙に話題を転じ、とくにスペインと南アメリカに興味を向けます。19世紀半ば以降、スペインでは、北ヨーロッパや北アメリカとは独立に折り紙が急速に発展しました。スペインの偉大な詩人ミゲル・ウナムノが、スペイン語でパハリータと呼ばれる小鳥の作品に熱中し、小説『Amor y Pedagogia(愛と教育)』の付録にパハ

リータについてのエッセイを書いています。1870年ごろに鶴の基本形がヨーロッパに伝わると、ウナムノはその可能性を探求し、新しい動物



The Lover's Knot from "Paper Magic".

しました。この新し「Paper Magic」より「蝶ネクタイ」紙は、スペイン、そして南アメリカに広がり、ソロルザノ・サグレドのような作家によってさらに発展します。ある意味で、特に鶴の基本形の使い方で、ウナムノは吉澤の革命的折り紙を30年先取りしていたと言えます。ウナムノは1936年に他界しましたが、そのときにはハービンは折り紙の研究を始めておらず、スペインの折り紙も北ヨーロッパや北アメリカには伝わっていませんでした。しかしハービンはレグマンからかなりの情報を受け取り、彼自身ウナムノの娘フェリサと会って、彼女を通じてスペインの作品をいくつか知りました。

歴史についての考察の締めくくりとして、ハービンはフランス、アメリカ、イギリスにおける折り紙の位置づけについて手短かに触れています。(彼はドイツには言及していませんが、最近の研究によると、当時のドイツの折り紙はほかのヨーロッパの国々よりも進んでいたことが分かっています。)ハービンは、アメリカでは紙幣の折り紙が盛んだと書いており、イギリスについては、キャンベルの本を高く評価しています(もっとも、彼女はスコットランド生まれで、南アフリカに住んでいましたが)。特に、キャンベルが「基本折り」という概念によって折り紙を体系化したことを賞賛しています。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

小松英夫 Komatsu Hideo

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://www.origami.gr.jp/Libra/>にアクセスしてください。

7冊目『ビバ! おりがみ』前川淳作 笠原邦彦編著

"Viva! Origami" by Maekawa Jun and Kasahara Kunihiro

今回は、本連載でもたびたび名前が登場している『ビバ! おりがみ』を取り上げます。本書は1983年2月にサンリオから出版されました。「折り紙愛好家のバイブル」との呼び声も高い大変に有名な一冊でありますので、ご存知の方も多いことでしょう。

構成は2章仕立てになっています。第1章「流れ星から新おりづるまで」は、比較的シンプルな作品群を交え、前川氏自身の手による解説「新しい折り紙の分析」を紹介しています。「不切正方形一枚折りの極限」と題された第2章は、文章は少なく折り図中心の構成で、より複雑な作品が紹介されています。もちろんトリを飾るのは、表紙にも登場している前川氏の代表作「悪魔」です(写真1)。

すべての折り図には、その作品の展開図が大きく示されています。「腕に自信のある人は、工程図を見ずに、この展開図だけで、完成させてみるのも面白いでしょう」(p.17)と、「展開図折り」としての楽しみ方も提案されています。

とて、「設計」という新しい創作手法が提示された書として有名な本書ですが、以下にその考え方の骨子をま

めてみたいと思います。

<A系列とB系列>

前川氏はまず既存の基本形を構造的に分析することからはじめ、それらをA系列とB系列という二つに分類しました(図1)。それぞれ、折り線のなす最小の角度が45度のもの、22.5度のものを指し、現在では、前者は「蛇腹」(ボックスブリーツ)、後者は「22.5度系」などと呼称されていて、ときに対照的な手法と見なされることもあるものです。

<図形の最小単位>

『ビバ!』理論の核となるのが、この「図形の最小単位」という考え方です。具体的には図2のような直角三角形で、これらは先に述べた「B系列」の折り線構造から導き出されたものです。反対に、これらの単位三角形を組み合わせることで展開図を作っていくというのが、設計理論の基礎となります。

最小単位は「図形の原子」(p.14)とも表現されていて、前川氏の理論が「折り紙原子論」とも称されるゆえんです(のちに目黒俊幸氏が開発した設計理論が「分子」という概念を用いたことで、その対比として言われることもあります)。

<レブタイル>

では、どのように最小単位を組み合わせていけば望むような展開図が得られるのでしょうか。ここで援用されるのが「レブタイル(反復図形)」という自己相似性を持つ分割が可能な図形です(図3)。特に、レブ2の図形の中には最小単位の三角形をきれいに埋め込むことが可能で、タイリングの第1段階に利用することができます。このようにして未知のパターンを見つけることが容易になるわけです。

<骨格分割法>

得られた部分的な折り線パターンを、正方形用紙へ埋め込むのが第2段階となります。これを行うためのものとして、正方形をいくつかの図形に分割してパターンを配置する「骨格分割法」という方法が示されています。図4の「具体例」を見ると、これが一種の「分子」的な思考に基づくものであることに気づきます。もちろん、この段階では、目黒氏が提唱した「一値分子」の概念は存在しませんが、『ビバ! おりがみ』収録作品の多くが、分子的な解析も可能であることの背景に、こういった方法論があったと言えるかと思います。

以上が、前川氏の提示した設計手法ですが、現在の設計理論で重要視される



写真1 表紙。出版当時、前川氏は弱冠24才で、笠原氏と出会ってから4年後の刊行でした。1989年に出た新装版(右)は表紙写真が異なります

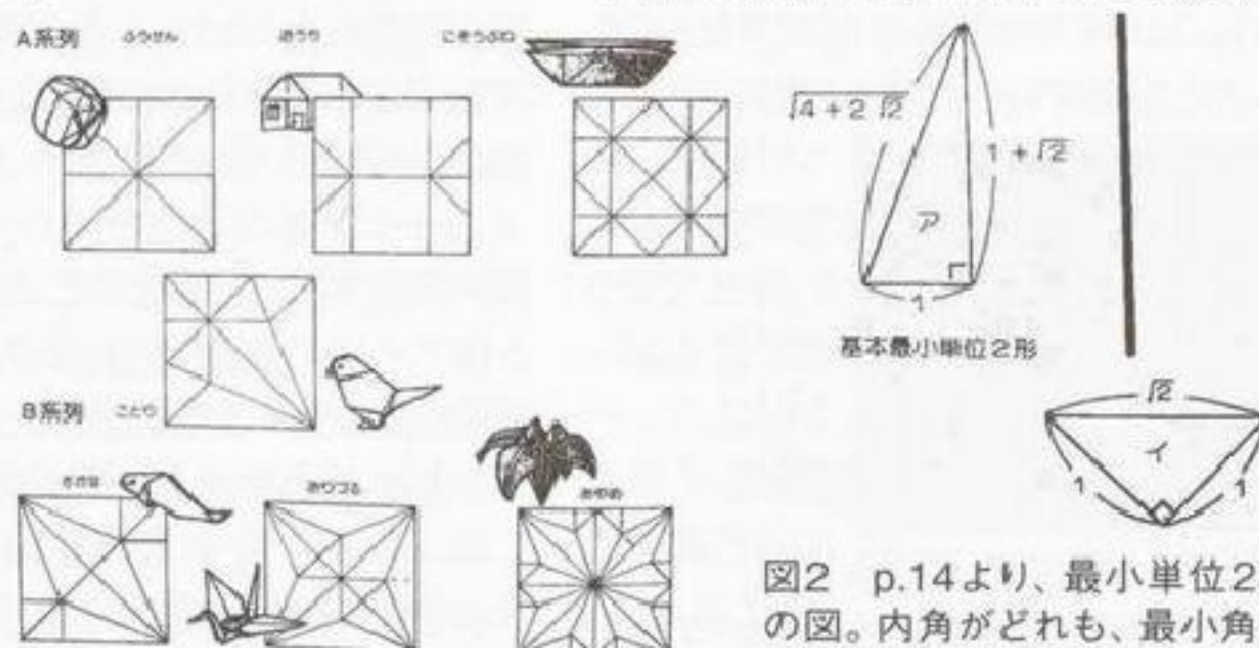


図1 p.28より、A系列とB系列の分類

図2 p.14より、最小単位2種の図。内角がどれも、最小角度(22.5度)の倍角となっているので、組み合わせることによって平面を埋め尽くすことができます



写真2 笠原氏と前川氏による「とら」の作例写真。ちなみに写真1の表紙写真の「悪魔」は、オリジナル版は笠原氏、新装版は前川氏の折りです

“円領域”や“帯領域”に相当する概念が登場しません。「枝分かれ」の多い作品の印象から、このことに意外な感覚を持たれるかもしれませんが、あくまでタイリングに理論の主眼があったためと考えることができるでしょう。

他にも、「第2次3角形」「付加法」「最小単位の拡張」「変形折り鶴」「片面性」「折り線に関する基本定理」など重要な用語や概念が紹介されていますが、本稿ですべてを取り上げるには紙幅が足りません。ここでは興味深いトピックの一例として、「骨組み形」と「仕上げ」の二項図式について見てみることにします。なお「骨組み形」とは、展開図に対応する折り上がりのかたち、すなわち現在で言うところの「基本形（ベース）」を指すものとして本書で使われている用語です。

92ページのコラム「見事な設計」では、「とら」と「きつね」の2作品を取り上げ、それぞれの特徴がすでに骨組み形の段階で捉えられていることが感嘆とともに記されているのですが、そこに「骨組み形」までで既に大筋が完成されている

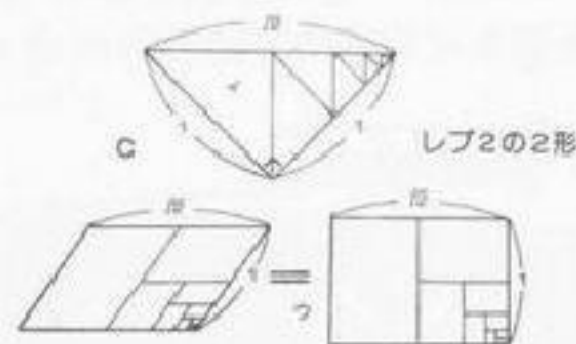


図3 p.15よりレブ2の図形

展開図などを利用して折ることを考えます。折る例は次の図のようになります。

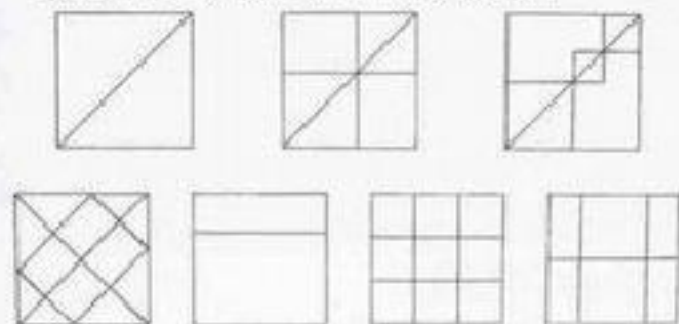


図4 p.46より骨格分割法の具体例

○小松英夫（こまつ・ひでお）＝1977年生まれ。図書館担当。『ビバ!』に出会ったのは小学4年生ごろでした。



以上、仕上げまでの細かい折りは、折り手の好みで自由にひねってみてよいものだと思います」という記述があります。

これは「骨組み形」と「仕上げ」を分けて捉えるという発想のもと、「仕上げ」はある程度折り手によって柔軟に変更されても作品としてのまとまりに影響はないという主張だと捉えられます。「とら」の折り図中にも「これから先の工程は、虎らしく折り整えていくことです。図解のものはひとつのサンプルに過ぎません」と書かれています。

これらの笠原氏の記述からうかがえるのは、設計手法がもたらしたインパクトの大きさです。当時は「いかに必要なだけのカドを折り出すか」が折り紙創作上たいへんな難問であり、対して最終造形にいたる「仕上げ」は試行錯誤による方法論が確立していた分、工夫としてやさしいものと捉えられていました。「骨組み形」（＝必要なカド）を決定する「設計」の力の前に、作品の出来を左右する要素として、「仕上げ」よりも「骨組み形」の方を重く捉えてしまったのも自然なことかもしれません。設計手法があたりまえのように普及した現在では、相対的に「仕上げ」の工程の重要度が上がっていて、笠原氏も本書にあるものとはむしろ逆の主張、すなわち「骨組み形は個性の主体ではない」というようなご意見をお持ちだそうです。（余談：そうは言っても、「仕上げ」にある程度の遊びを認める態度は、現在でも複雑な作品を手がける作家には比較的良好に見られます。これには展開図折りという発表形式の広がりもそうした感覚を支持する一因となっていると考えられます。）

なお、同ページでは、「とら」と「らくだ」について、前川氏による作例と笠原氏に

よる作例が併置されていて、その雰囲気の違いについて触れられています（写真2）。現在は、幾何学的なきっちりとした折りを好むという印象の前川氏が、意外にも微妙な表情づけを多用していることは興味深い点です。他の作品でも作例写真を見てどちらが折ったものかを推測してみるのもおもしろい読み方となるでしょう。

最後に、このような「基本形／仕上げ」の図式と、基本形に比べ仕上げの価値を重く見ない視線は、折り図の図解というかたちでも表れています。図5は、悪魔の指なしバージョンである「悪魔1」の最後の図ですが、仕上げの図解が相当に省かれていることが分かります。完成させるために読者は、いわゆる“にらみ折り”をする必要があるのです。

本書による技術的革新は、作家・愛好家に多大な影響を与え、そのフォロワーを生み出すことになりました。現在活動している30代以上のコンプレックス系作家は、なにかしらのかたちで本書の影響下にあると言っていいでしょう（かくいう筆者もその一人です）。

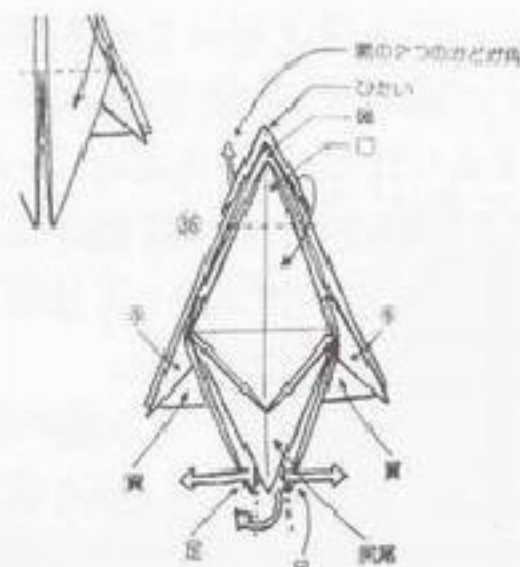


図5 「悪魔1」の折り図より。そばには「(36)以降の表情付けの折りは、もう省略します。写真や鬼の方の折り図を見れば、ここまで来た人なら楽しく折ってもらえることでしょう」との文章が

スキップで折紙散歩

Origami Sampo Skipping
Every Other Step

前川 淳 Maekawa Jun

第1回 日曜日の長い午後

The Long Sunday Afternoon

大人買いという言葉がある。おまけのついた菓子（食玩）などを、経済力にものを言わせて大量に購入することだ。先日、この大人買い的な散歩をしてきた。「経済力にものを言わせ」というには、いじましいところがあったが、日帰りで山口県を歩いてきたのである。

一度は行っておかなくてはと思っていた場所だったのだが、行こうと決めたのは前日の深夜だった。最近のわたしは、どうしても気分が弛緩している。怠惰が心中にとぐろを捲いている——とぐろを捲くというか、ふわふわと胸にたまっている。年度の初めは、気合いを入れ直す時期でもある。そして、なんやかんやのやるべきことを、期限のあるものからひとつずつ片付けるといのがわたしの（誰もがだいたいそんなものだろうけれど）日常である。ときに、各個撃破などというキナ臭い言葉を使う。その手の比喻をあえて重ねれば、かねてより気になっている件を電撃作戦で撃破すれば、進軍のリズムがつくかもしれない。…とかなんとか、都合のよい理屈で頭が占領され、わたしは強行軍を決意した。某日曜日深夜、午前1時頃のことである。

しかし、目的地はローカル線の駅が最寄りで、松本清張氏の『点と線』の犯人になったような気分でも時刻表を検討しても、時間調整はかなり難しいようであった。まあ、いざとなれば、タクシーも使おう。それこそ、大人買いだ。いずれにせよ、一番早い電車に乗



らなければならない。というわけで、一度眠ると起きられそうもなかったもので、そのまま時間をつぶして、最寄り駅から05時02分の電車に乗った。東京駅でつかまえた新幹線は、始発から3本目、のぞみ3号06時16分発であった。小倉到着は11時01分、昔に比べれば、5時間足らずと実に近くなったと言えるが、やはり遠い。下関まで戻って、山陰本線に乗り換え、目的地に最も近い阿川駅のホームに降り立ったのは、13時20分であった。

途中、小串という駅でも乗り換えがあった。乗客は乗り馴れた地元のひとばかりなのか、何の案内もないので、ワンマン運行の運転手さんに「これは12時46分発ですか」と訊くと、「そうですよ。どこまでですか」「阿川までです」「ああ、ナントカリーゾートですか」と返された。「ナントカ」は、じっさいにそう言ったのではなく、聞き取れなかったのだが、一瞬何と答えたらと思った後、「そんなもんです」という、意味不

明の回答をした。

目的地の近くには、最近ドラマや映画のロケでよく使われる角島（つのしま）という島があり、リゾート開発されているらしいことは知っていた。海上にまっすぐに延びる橋が絵になる島である。しかし、わたしの目的地は、ナントカリーゾートでも角島でもなかった。目的地は、折紙鼻という岬である。青森県の折紙山と折紙集落、長崎県福江市久賀島の折紙鼻と折紙集落に続いて発見した、第三の折紙地名である。青森や久賀島では、その名も折紙集会所や折紙神社など、さまざまな発見があり、ひととの交流もあったが、今回はまずなにもないだろうということは容易に推測がついていた。集落名に折紙がなく、小さくぽつんと折紙鼻という名の岬が、大縮尺の地図に密かに隠れるようにしてあっただけだからだ。しかし、じっさいにこの目で確かめなければという思いは消せなかった。一歩離れて見れば、物好きなだけだ



折紙鼻の地図
Map of Orikami Bana

We do have place names with "origami", for example Mt. Origami in Aomori prefecture and Cape Orikami in Nagasaki prefecture. I found the third one, Cape Orikami in Yamaguchi prefecture. To my surprise, the three points could be aligned on the same straight line? I went there with an Express Train, but it took me 24 hours to reach the site. There was nothing, but this made me secured.

が、使命感と言えは使命感である。

な お、この地名を発見した経緯は少し面白いので記しておこう。以前、青森の折紙山と長崎の折紙鼻が、魯縞庵ゆかりの折鶴の街・三重県桑名市から等距離にあり、その3点からなる二等辺三角形が折鶴の基本形を半分にしたものになるという話を、『折紙散歩』シリーズでも触れたことがある。この奇妙な偶然は、『点と線』ならぬ『Dの複合』を思わせた。『Dの複合』。『点と線』と同じく松本清張氏による、事件が同じ緯度経度に並ぶということネタにした小説である。同じ系統のお話として、遺跡がライン上に並ぶ「レイライン」なるものもある。わたしは、この種のトンデモ話が好きである。ピリーバー（信者）としてではなく、ある種のほら話として好きなのだが、ある日、折紙地名にもっとほかになにかないかと調べてみた。折紙山と折紙鼻を結ぶ直線に沿って、地図をつぶさに見たのである。その直線（地球上なので正確には円弧だが）は、ほとんどが海上にあるが、わずかに、平戸、東松浦半島、



折紙鼻(南から)
Orikami Bana (Cape Orikami) South view

山口県西北部、島根半島の出雲大社近辺で陸地をかすめていた。そして、その山口県西北部に、折紙鼻という岬があるのを見つけたのである。

意味ありげな偶然というのはあるものだ、我ながら驚いた。逆に、意味を見つけてしまうからこそ、偶然が面白いとも言えるのだろう。

さて。山陰本線の小さな無人駅・阿川駅に降り立ったわたしは、のどかな春の陽射しの中、地図を片手に岬に向かって歩き始めた。歩くこと1時間余り、折紙鼻を見渡せる場所にたどりついた。「あわび、さざえ、わかめ等の定着性の水産動植物はとてはいけな場所、「きれいな釣場で楽しい釣りを」する場所であった。…というようなことが書いてある看板があって、じっさい、釣場として知られたところのようだ。先客の釣り人もひとりいた。まあ、基本的には、海と潮風と岩以外にはなにもないところである。ただ、そのなにもなさ心地よかった。思わず『襟裳岬』を唄いたくなるぐらいであった。というわけで、しばらくのんびりしようとも思ったのだが、喉が渴いた。どこかでペットボトルの水でも買おうと思っていたのだが、ここに来るまで、買い損ねた駅前以外では自動販売機を見つけることができなかったのである。

とにかく折紙鼻に足跡を印すという目的を達したので、帰路につくことにした。そして、対岸に角島大橋を望む島戸の漁港で、色褪せた「原発絶対反対」の文字を見上げながら喉を潤し、



今回から『折紙散歩』は隔号になります。で、『スキップで折紙散歩』。スキップになっても、よろしく。

○まえかわ・じゅん 折紙創作・研究家。折鶴モノのコレクター。東京生まれで東京在住だが、1年の約1/3は、天文台の仕事のため長野・山梨で過ごす。好きなもの：阪神タイガース、星空、書店、喫茶店、幾何学的調和。

時計を見ると、まず無理だろうと思って15時48分発の列車に間に合うかもしれないとわかり、急ぎ駅に向かうことにした。

何度か、ヒッチハイクをしようとも思ったが、怪しいおじさんを乗せてくれるひとはそういないだろうし、早足に駅を目指した。地図を見ると、田んぼのあぜ道を突っ切ると駅への近道になりそうなので、その進路を取った。しかし、来たときはちゃんと見ていなかったのだが、駅とわたしの前には川が流れていて、川を挟んで列車を見送ることになった。これで、次の列車は約1時間後となった。最終の東京行きの新幹線まで2時間、時刻表を見る限り、乗り継ぎが悪くて間に合わない。と思っていたのだが、時刻表の見方に問題があっただけでぎりぎり間に合った。小倉発の最終の新幹線、そして新宿から最終の私鉄に乗り、日も変わって午前1時、わたしは、今回の散歩を決めたちょうど24時間後に家に戻ってきた。長い散歩である。なお、折紙鼻がなぜその名なのかは、まったくわかっていない。



折紙鼻(西から)
Orikami Bana (Cape Orikami) West view

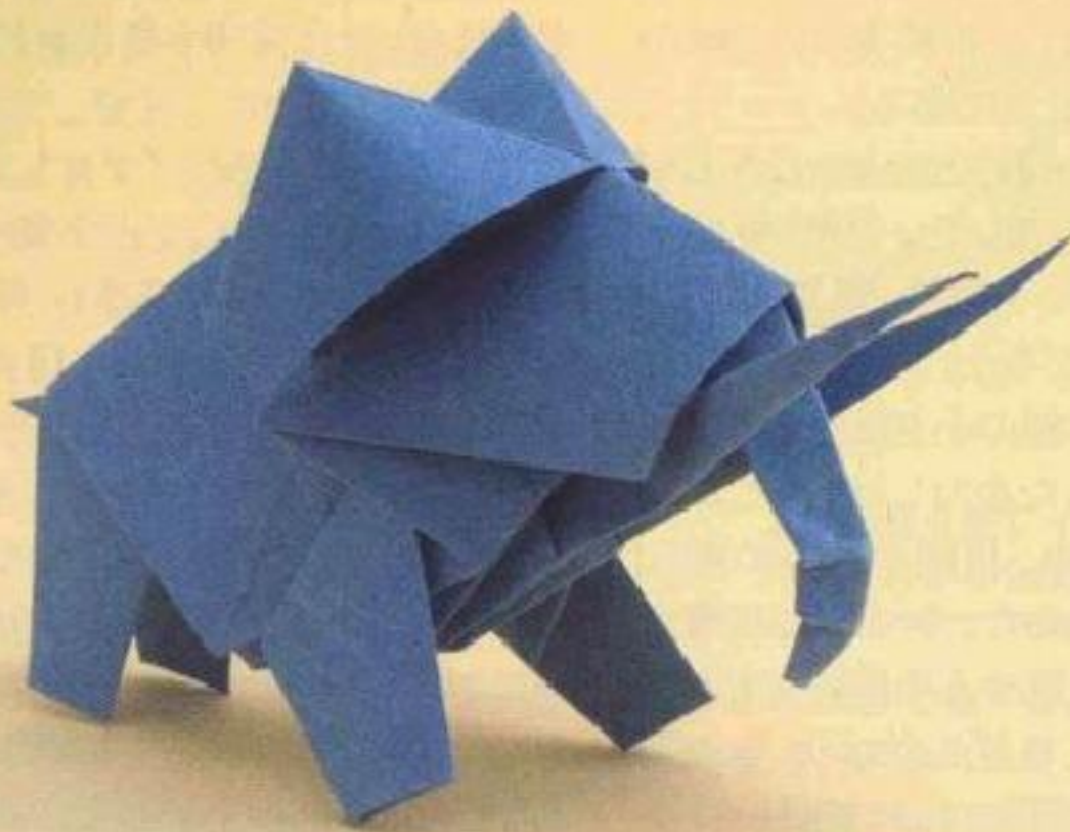
■関西コンベンションでは強烈な折り紙熱の放射にあてられてしまった、というかたも多いことでしょう。或る意味危険な非日常折紙空間(?)から戻ってくると、いつもの生活もちょっと違って見えるかもしれません。

「V字135度」「中折れV字135度」

作：布施知子 (P.4)

135° V-Shape Module, 135° V-Shape Module
with Additional Folds: Fuse Tomoko (P.4)

■各部品中央部に追加加工を施すことにより、全体がギュッと締まって絞り込まれているかのようなイメージに変貌します。空間を取り込んで大きく成長してゆく過程の果実と、成熟が進んで種子を放出する直前のような乾燥した表層、こんな対比が浮かび上がってくるような気がします。



「ゾウ」作：加瀬三郎 折り手：編集部 (P.8)

Elephant: Kase Saburo. Folded by an Editorial Staff (P.8)

■さまざまな仕上げ加工を受け入れ可能なほどに、適切な余裕・自由度を各部に備えた構造となっているので、これを利用しない手はありません。「空間に向かって造形を押し出す」ことの楽しさを純粋に、かつ存分に味わえる作品です。意外なところで意外な切り込みが効いているのも重要ポイント。

「ライオン」作：堀口直人 (P.34)

Lion: Horiguchi Naoto (P.34)

■球状に折り重なるようなたてがみ配置に加え、鼻先のボリュームや筋肉質な印象の四肢など、全身のすみずみにまで重厚な曲面構成がゆきわたっています。本当に足先から地面に圧力を及ぼしているのではないかと、思えるほどに存在感あふれる勇姿。





Eric Joisel

甲冑に身を包んで決めポーズのJoisel氏。次の創作はひょっとすると、日本の鎧武者だったりするかも？

「第9回折紙探偵団関西コンベンション 招待作家展示作品より」

作：エリック・ジョワゼル (P.36)

Works of Eric Joisel (an Invited Guest to the 9th Kansai Convention): Eric Joisel (P.36)



GIMLI (Lord of the Rings)

GOBLIN

■噂の超絶人物作品群がついに来日。胴鎧の徹底的な作り込みがあるからこそ、絶妙なリズムと誇張を盛り込んだデザインの手足が許容され、ひとつの作品として違和感なく認識されるのでしょう。そして、全身に豊かな表情がしみわたるまでには、すさまじいエネルギーと時間をかけて微調整が繰り返されているはず。



LEGOLAS (Lord of the Rings)

GANDALF

ARAGORN (Lord of the Rings)

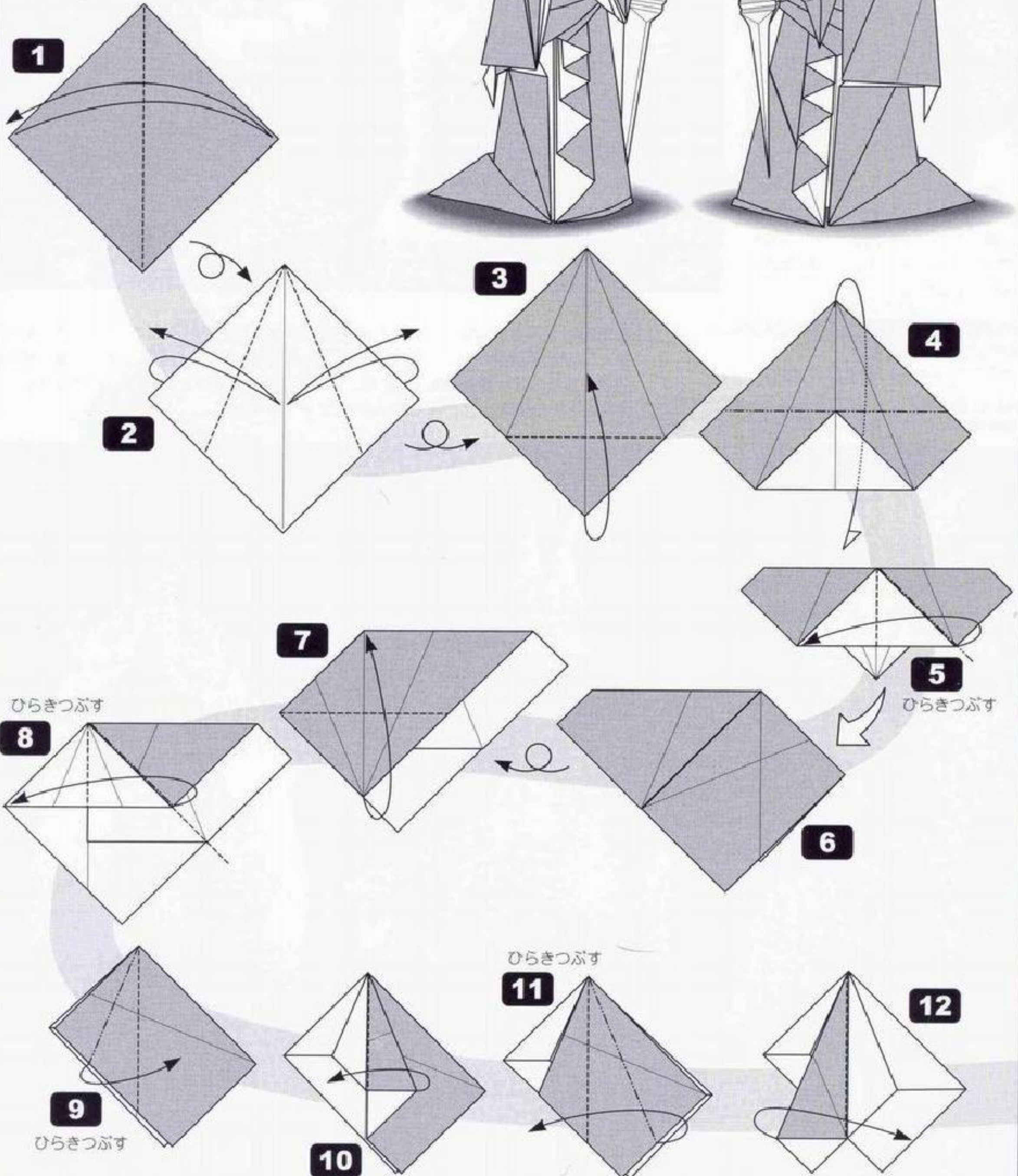
魔法使い (2008年改修版)

"Wizard" ©HOJYO Takashi 1992

創作・図：北條高史

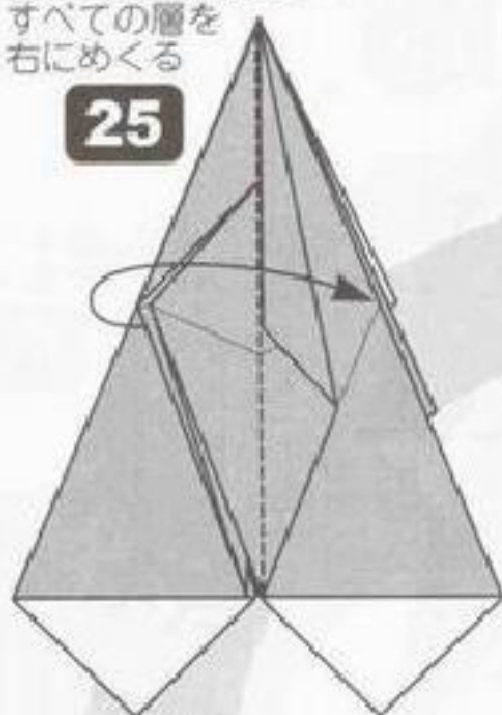
創作1992 改修2008/2/4 作図2008/4/13

表裏の色が異なる紙を使用する



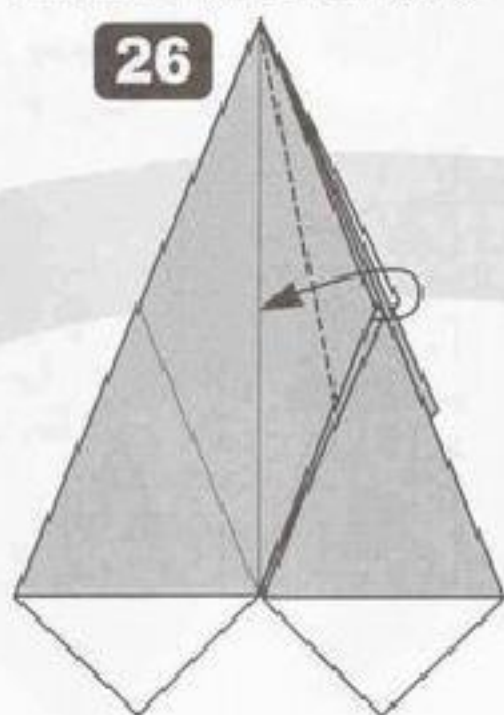
矢印の基点部分の
すべての層を
右にめくる

25



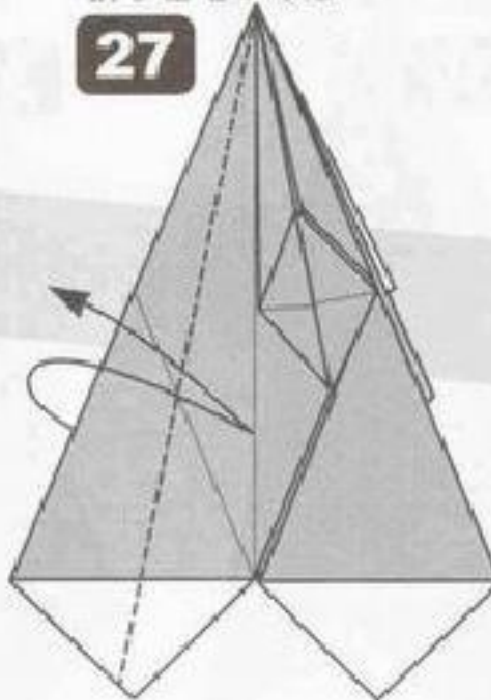
一番手前側のカドだけをめくり
フチを正中線に合わせて折る

26



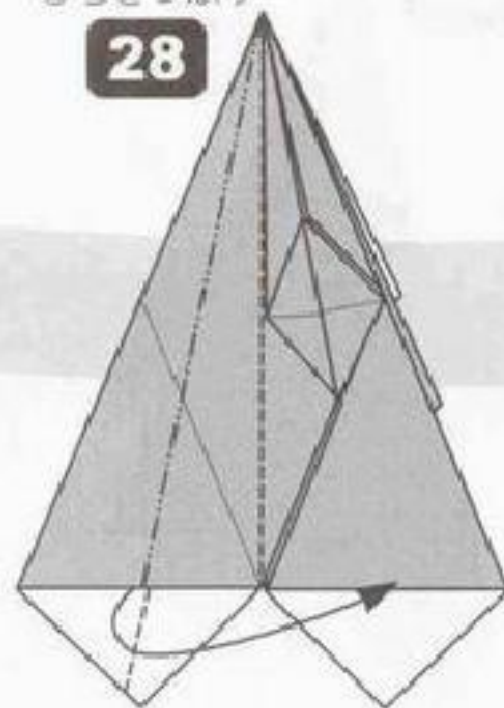
フチを正中線に合わせて
折り目をつける

27



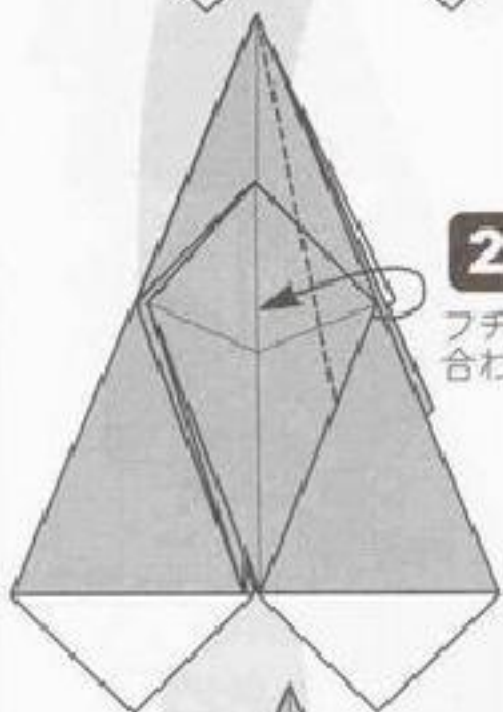
工程 27 で付けた線を使って
ひらきつぶす

28



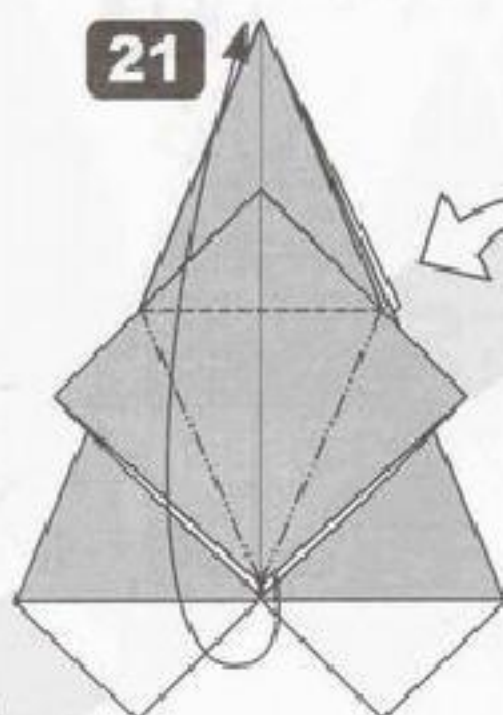
24

フチを正中線に
合わせて折る



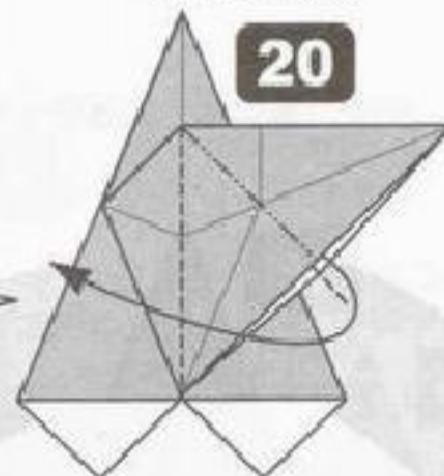
ひらきつぶす

21



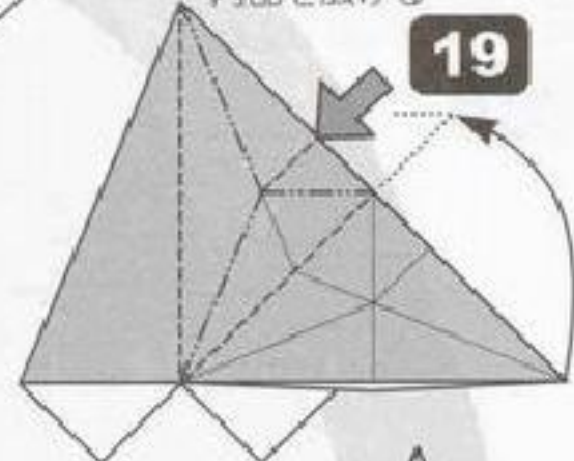
ひらきつぶす

20



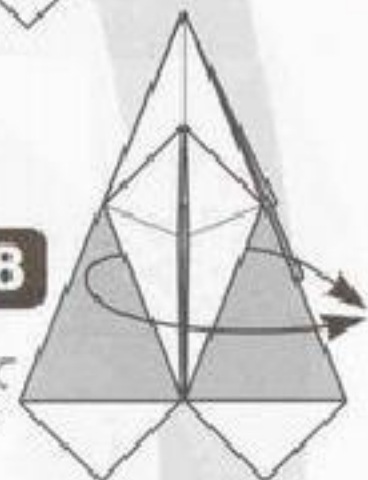
灰色矢印の部分
を押し込む
裏側も同じ山谷の折り
で
あやめの基本形のように
内部を広げる

19



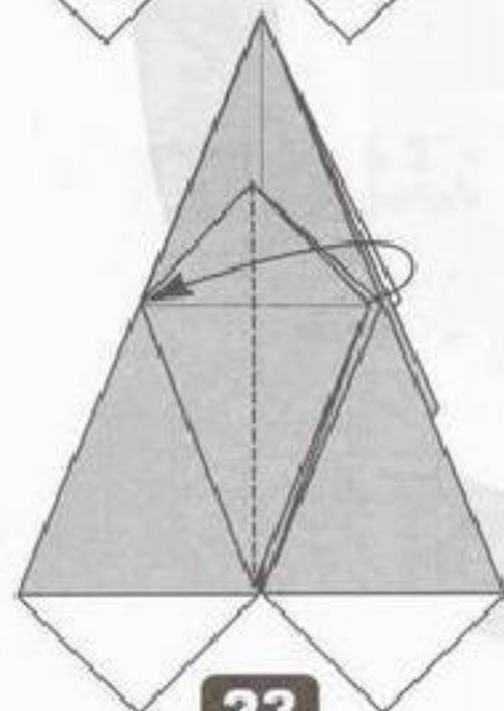
18

かぶさっている紙
(白い部分)をはがして
次の図のように広げる

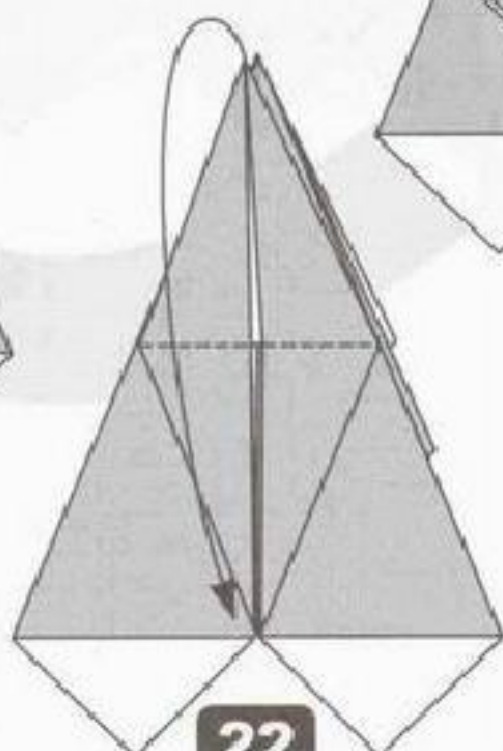


23

一番手前側のカドだけを
左にめくる

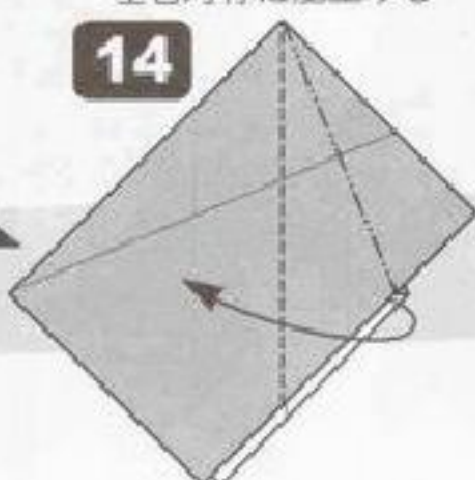


22



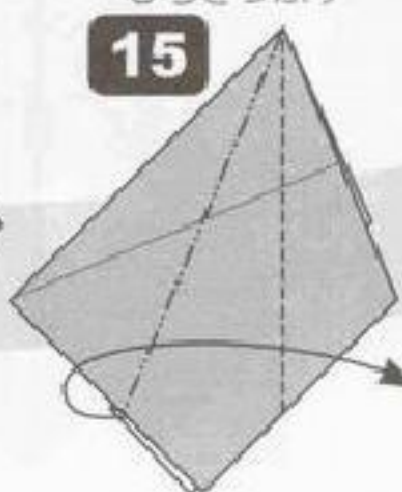
工程 9 ~ 10 と同様
に左右対称に加工する

14

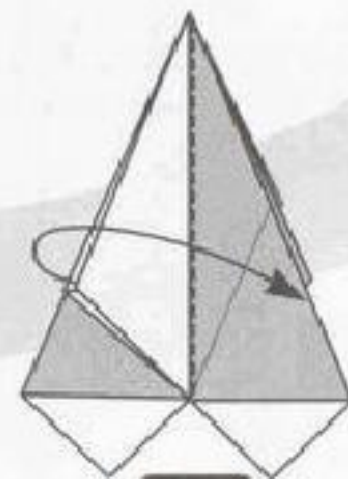


ひらきつぶす

15

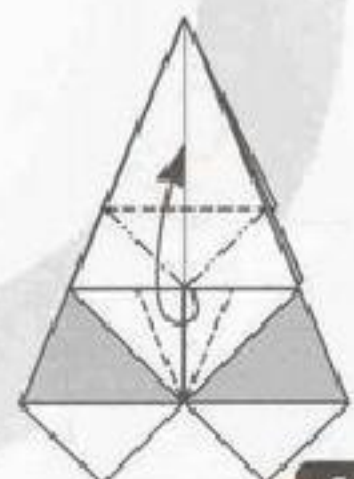


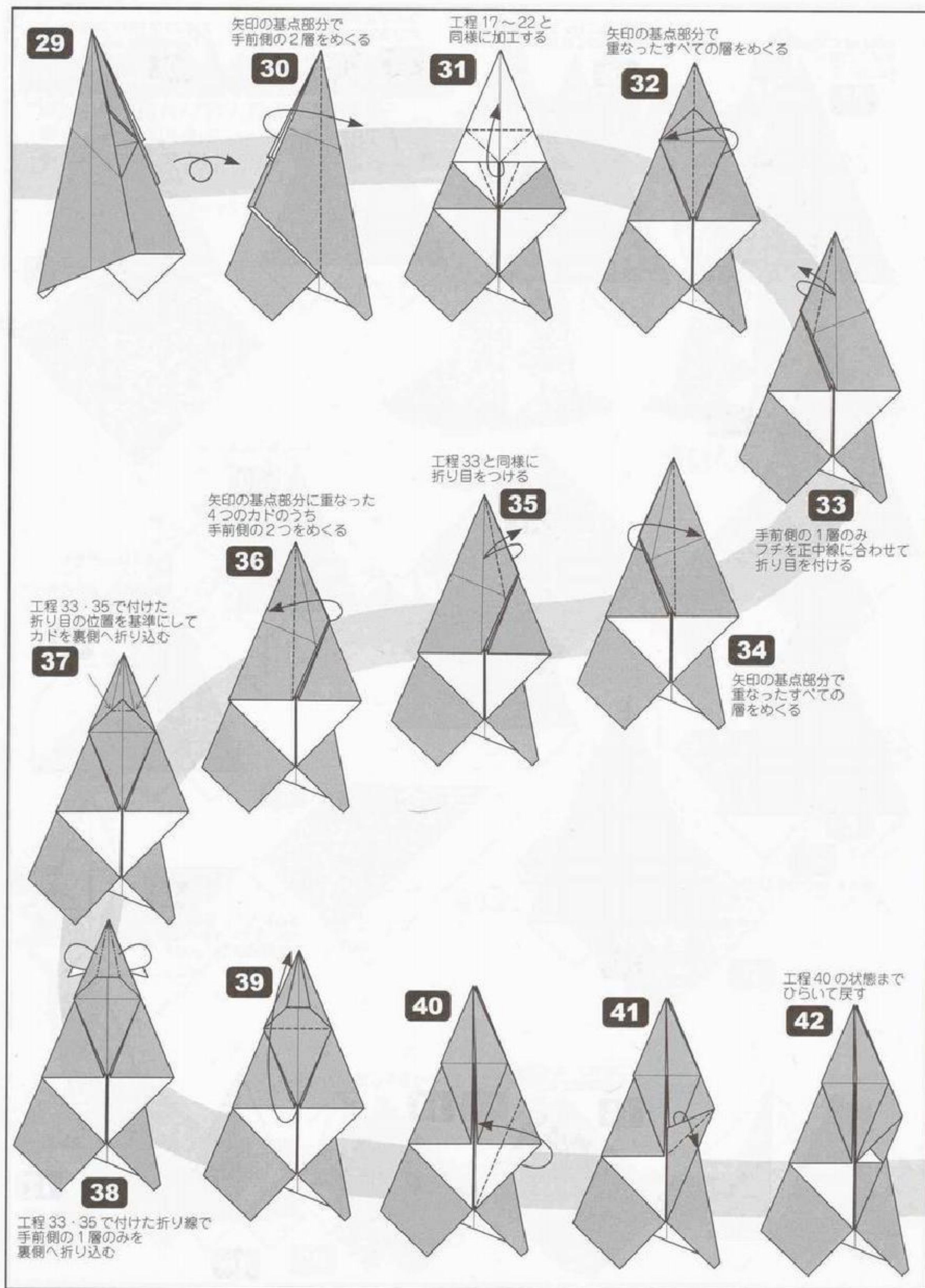
16

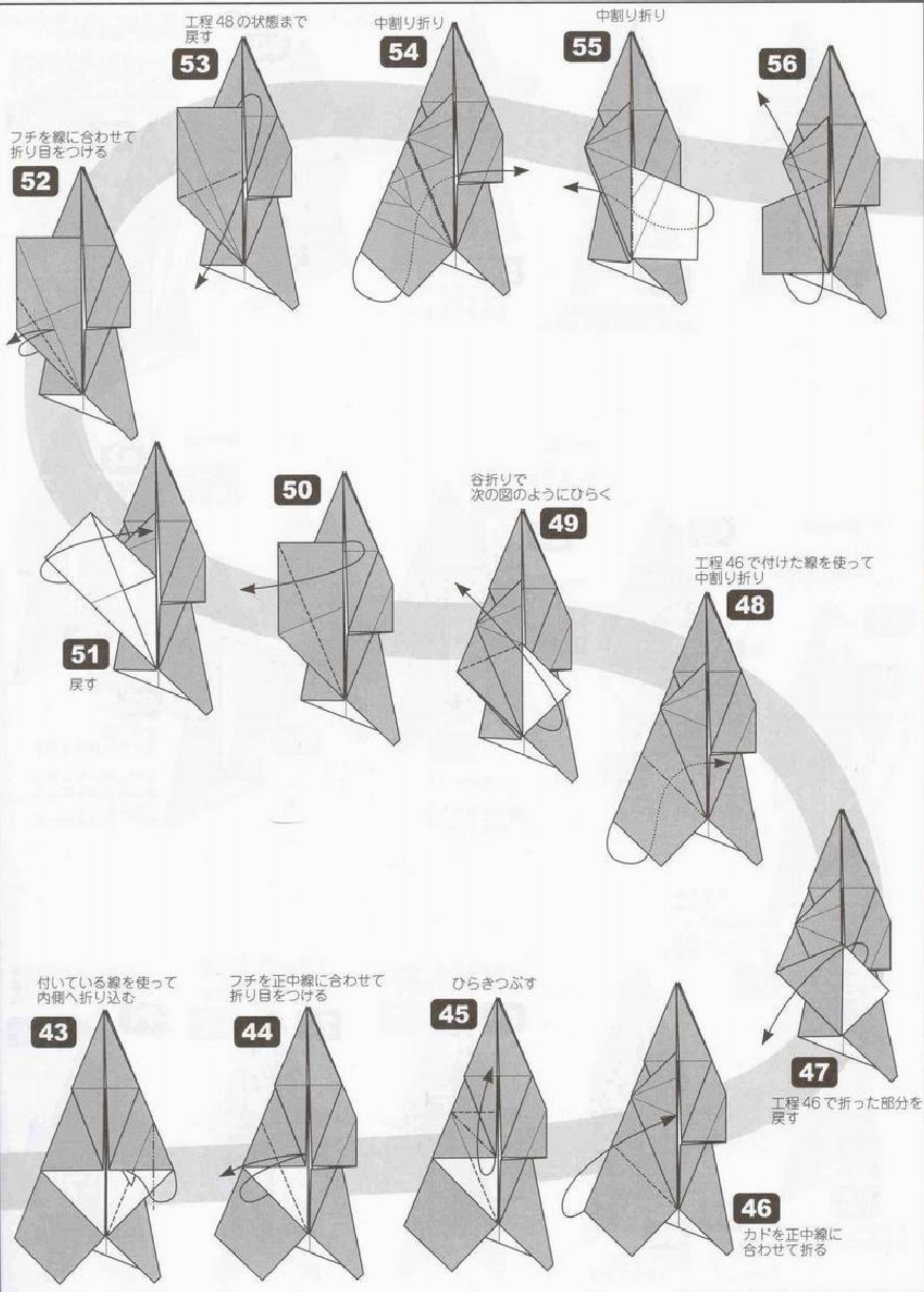


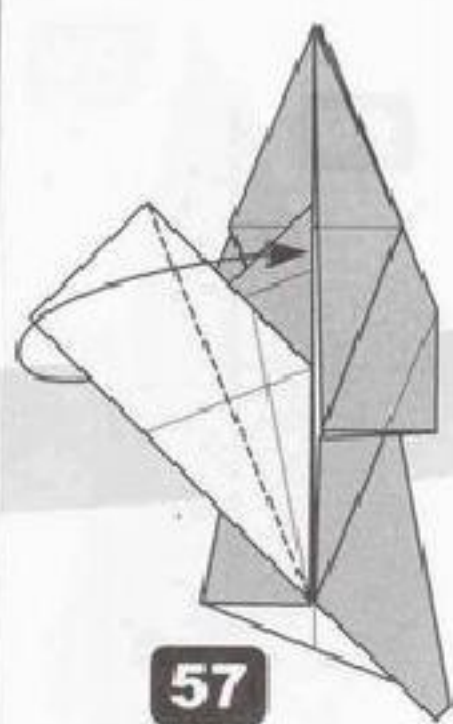
17

ひらきつぶす

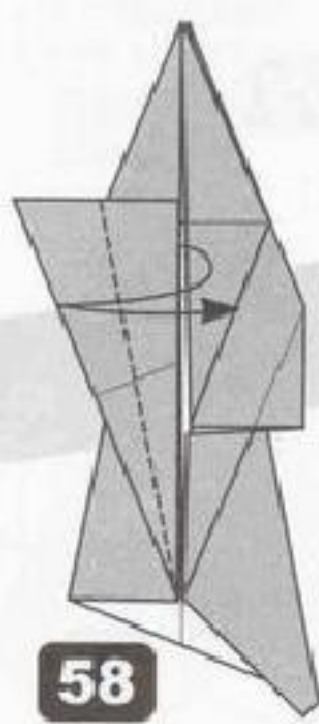






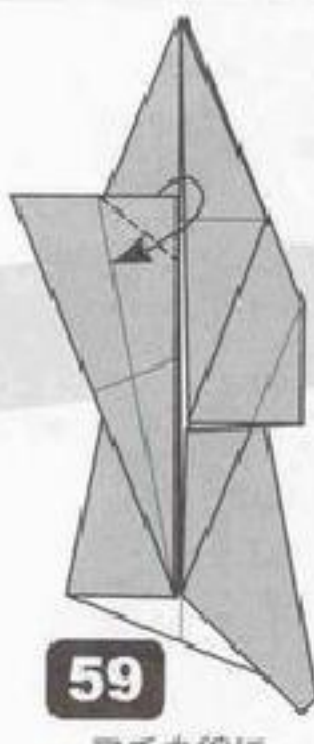


57



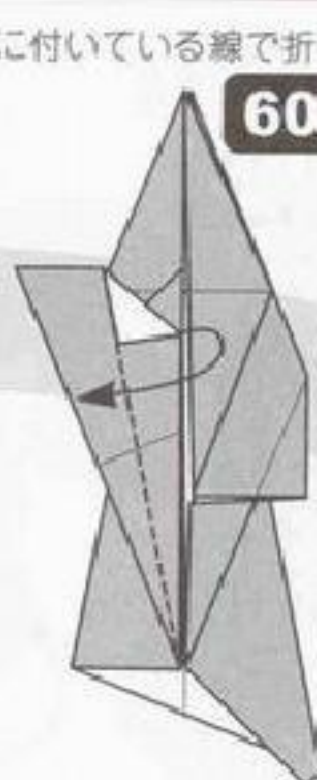
58

フチを反対側のフチに合わせて折り目をつける



59

フチを線に合わせて折る

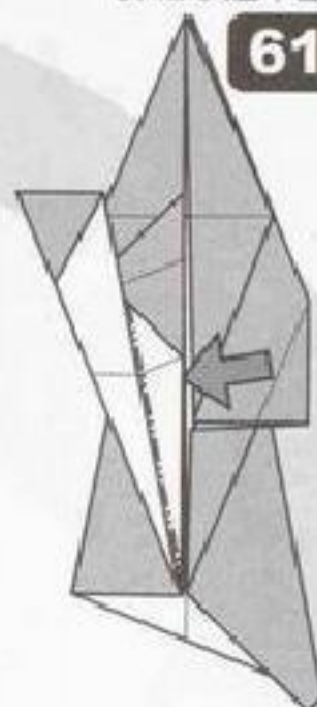


60

すでに付いている線で折る

工程52で付けた折り目に沿って一番手前側の層を沈め折り

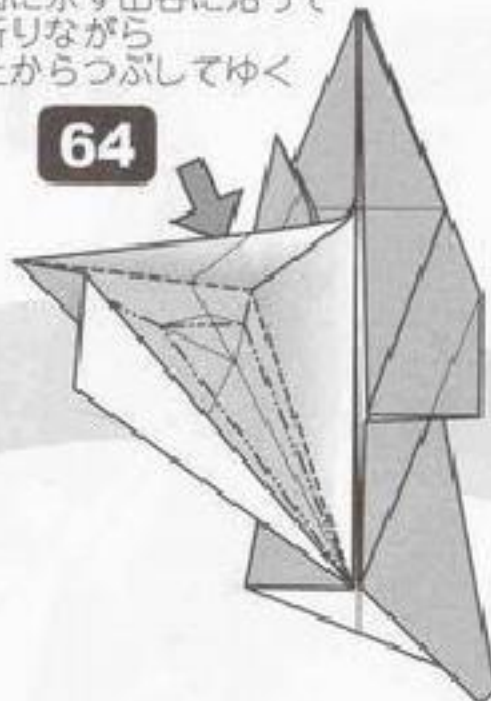
これだけでわかる場合には次は工程66に進む
次の図からはこの作業の詳細な途中図を示す



61

途中の図

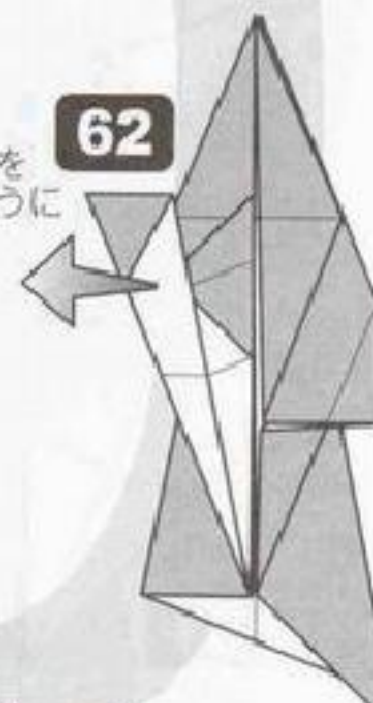
図に示す山谷に沿って折りながら上からつぶしてゆく



64

途中の図

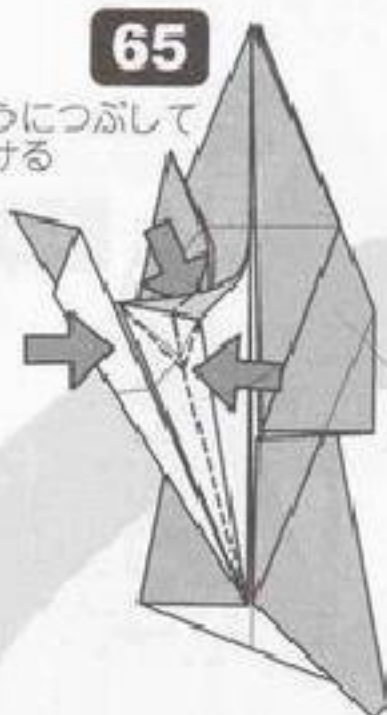
左端の部分を次の図のように引っ張る



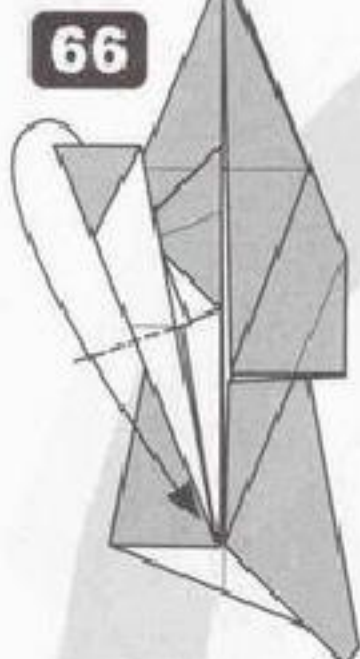
62

途中の図

矢印で示すようにつぶして平面におちつける



65

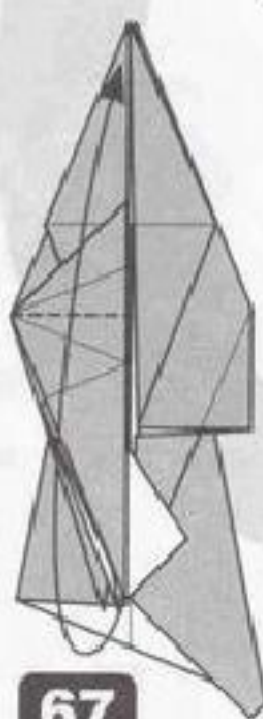
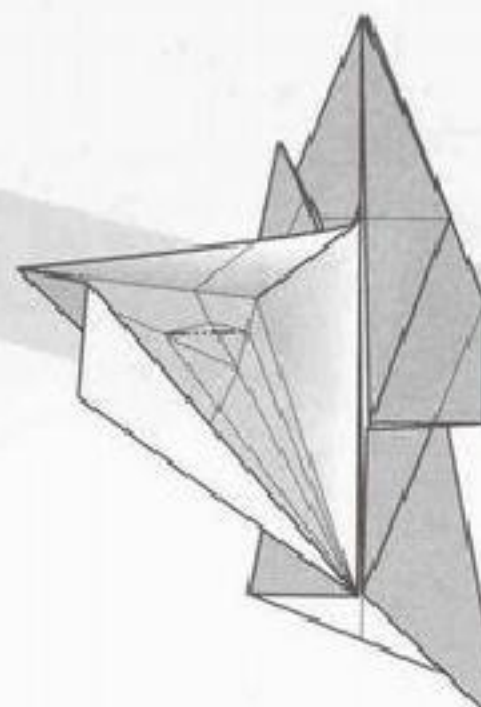


66

63

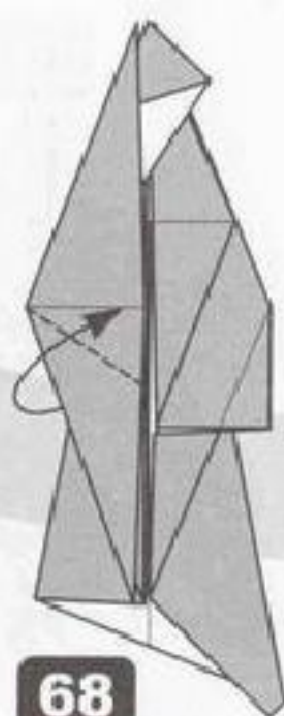
途中の図
立体的な状態を示す

すでに付いている折り目を基準にしてつまむように山折りの線をつける



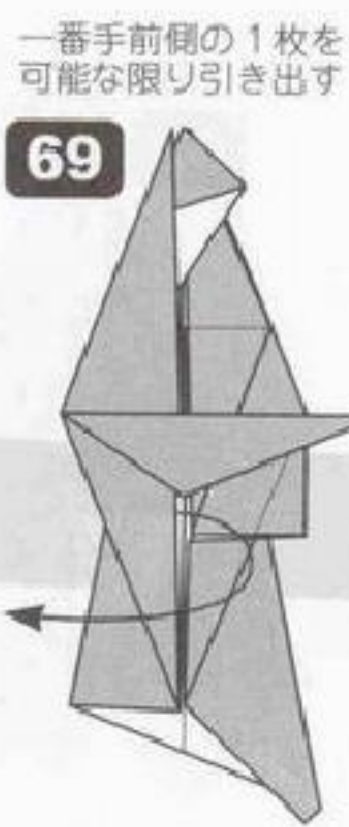
67

3つ重なっている突起のうち手前側の2つを折り上げる



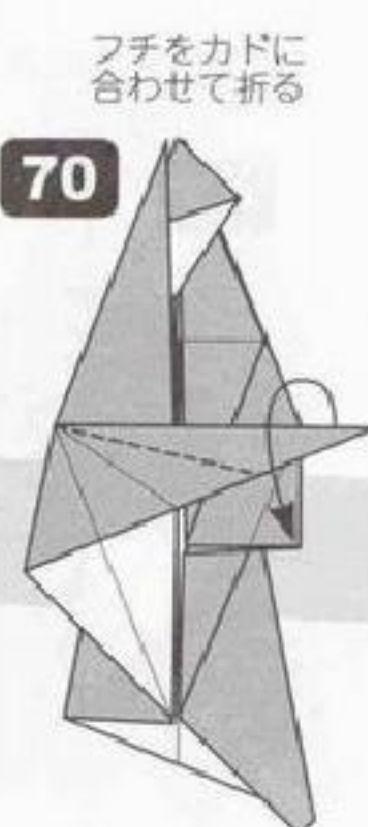
68

フチを線に合わせて折る



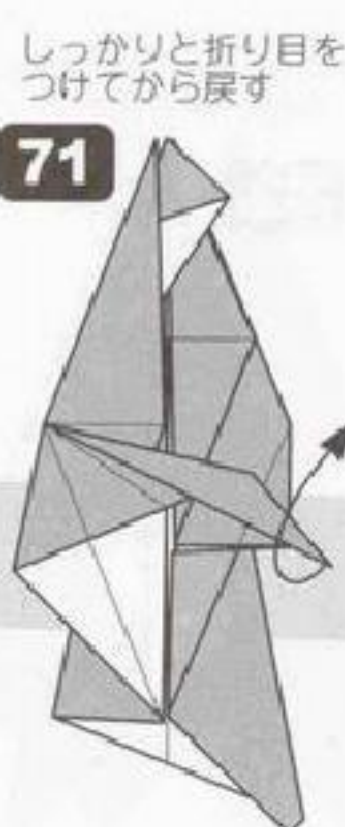
69

一番手前側の1枚を可能な限り引き出す



70

フチをカドに合わせて折る

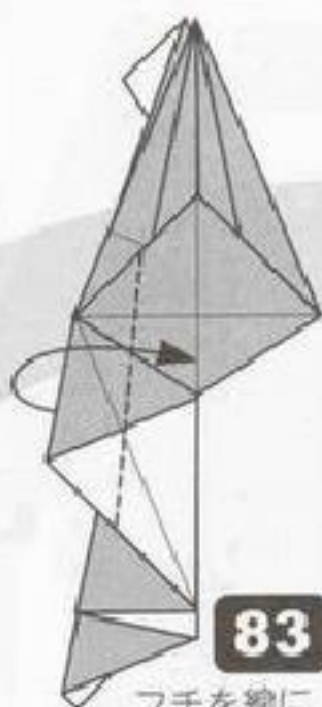


71

しっかりと折り目をつけてから戻す

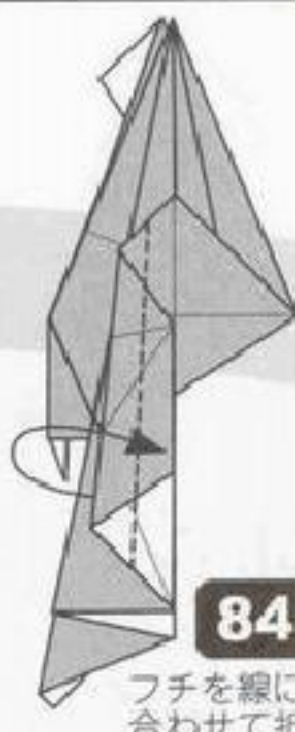
右半分を裏側へ折ると
左上の部分もつられて
右側に倒れる

82



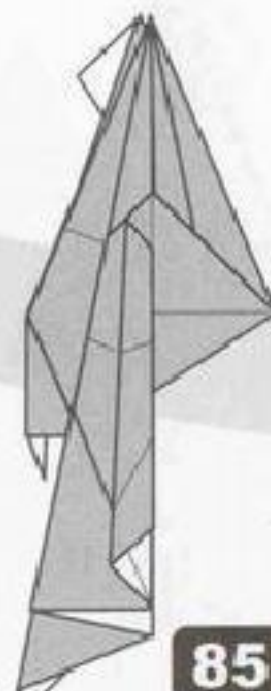
83

フチを線に
合わせて折る



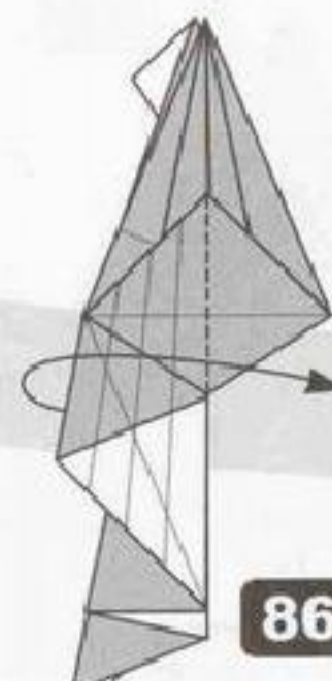
84

フチを線に
合わせて折る

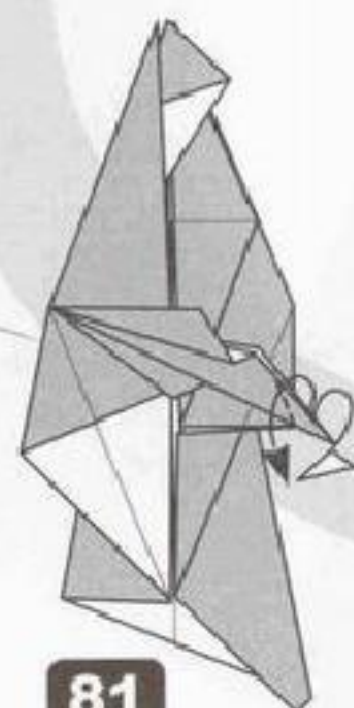


85

しっかりと折り目をつけて
工程 83 の状態に戻す

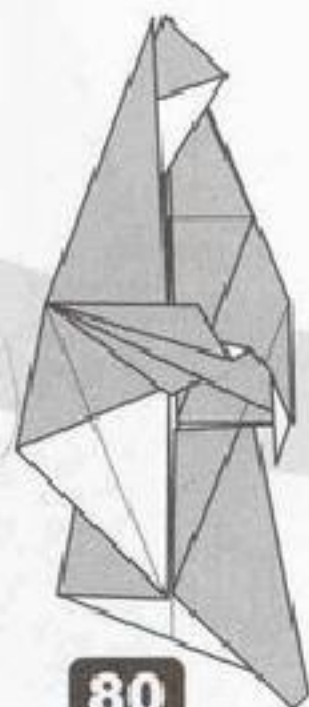


86



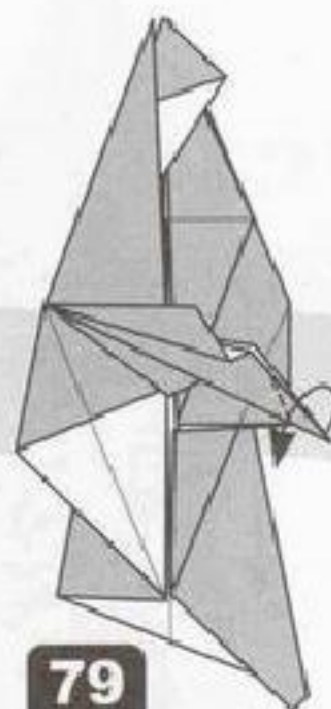
81

先端をかぶせ折り



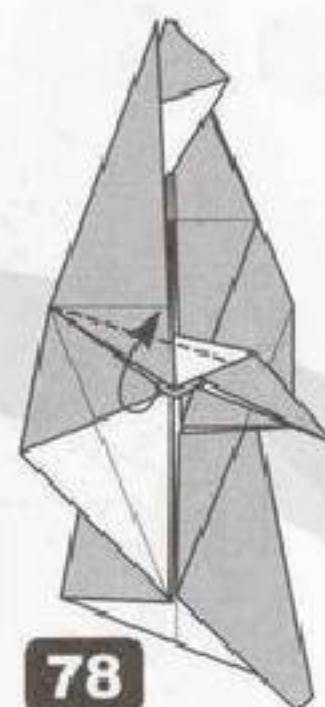
80

しっかりと折り目をつ
けてから戻す



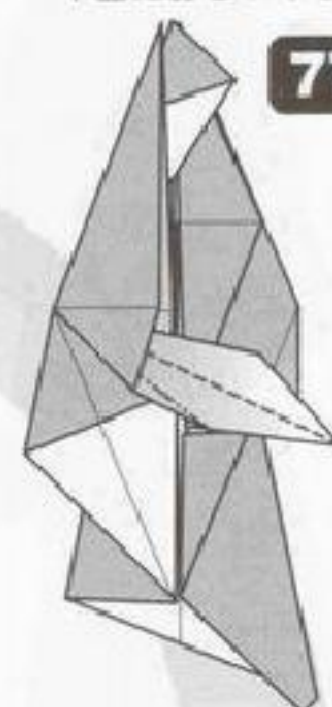
79

カドの先端を少し折る
折る位置や分量は
次の図を参照



78

フチを線に
合わせて折る

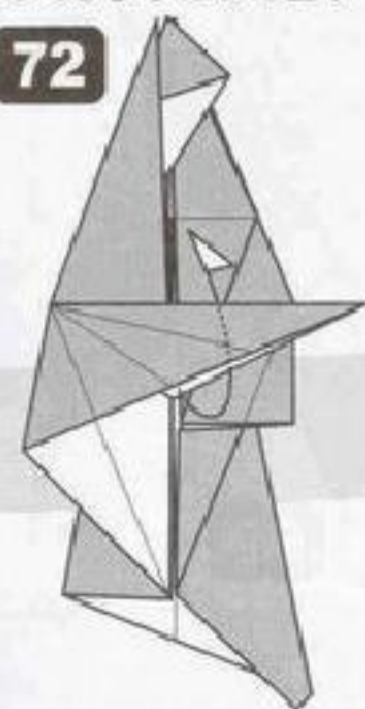


77

立体的な状態を示す
2本の折り目の山谷を
逆につけかえてから
平面におちつける

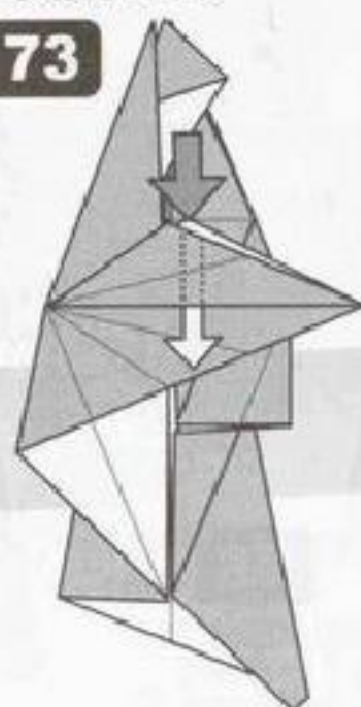
隠れている白い層を
裏側から上方へ
めくるようにして出す

72

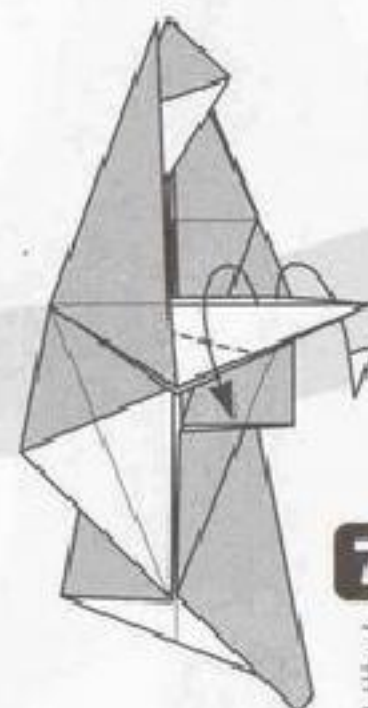
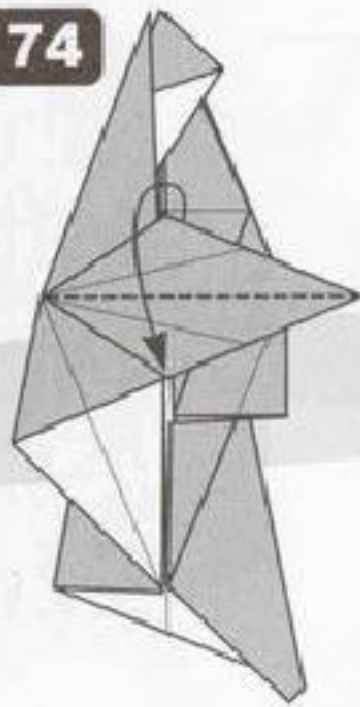


隠れている白い層を
下方へ押し込んで
手前側に出す

73



74

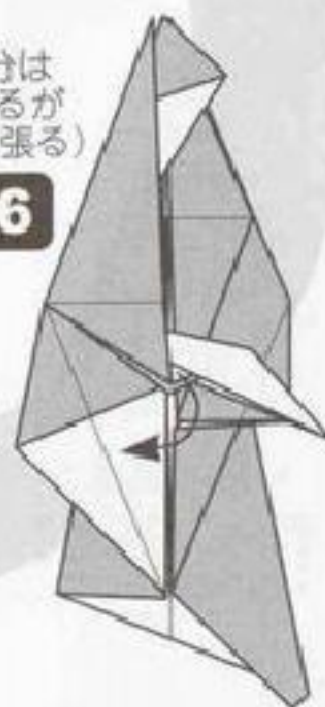


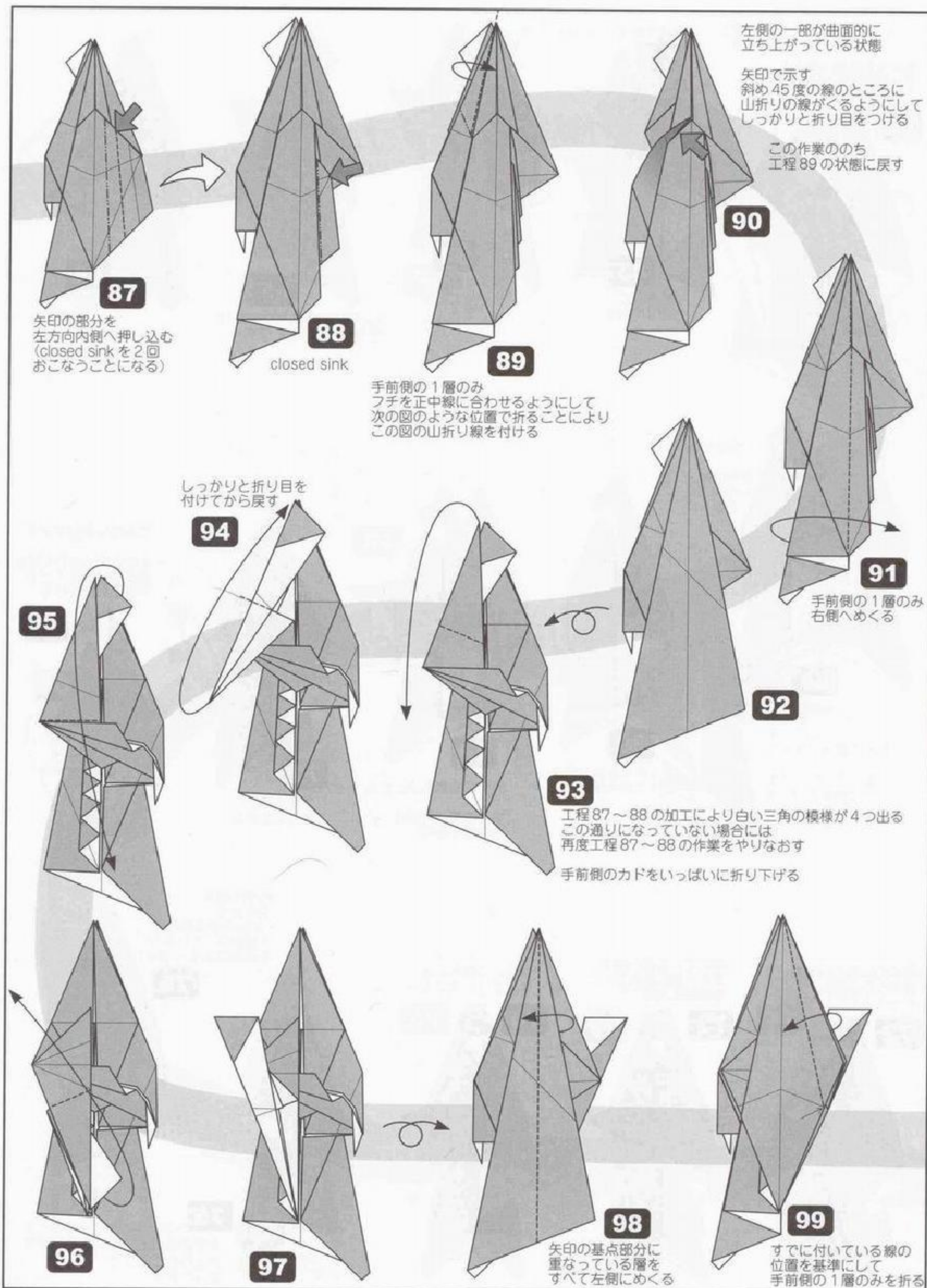
75

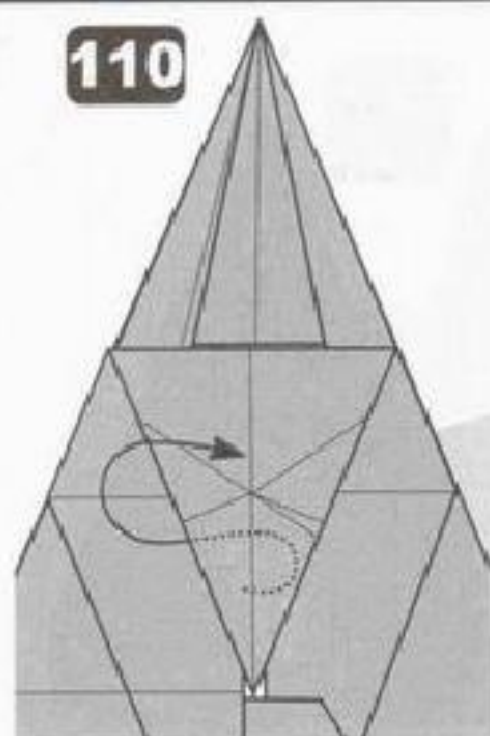
すでに付いている
折り目のところで
かぶせ折り

内側の紙を
引き出す
(矢印の基点部分は
2層重なっているが
手前側のみ引っ張る)

76

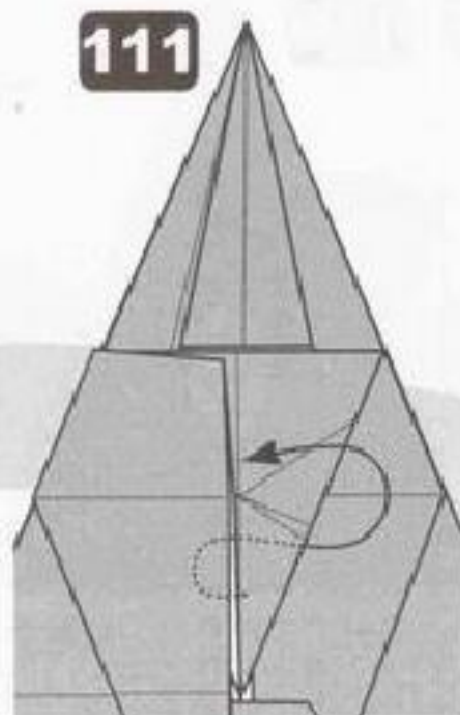






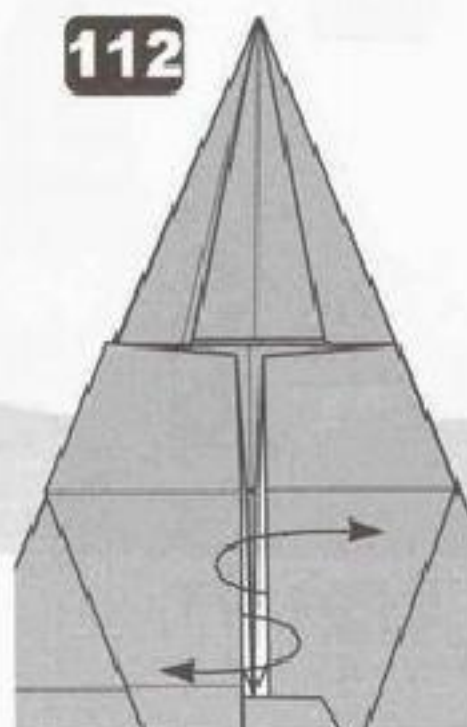
110

裏側の層を
引き出してかぶせる
次の図も参照



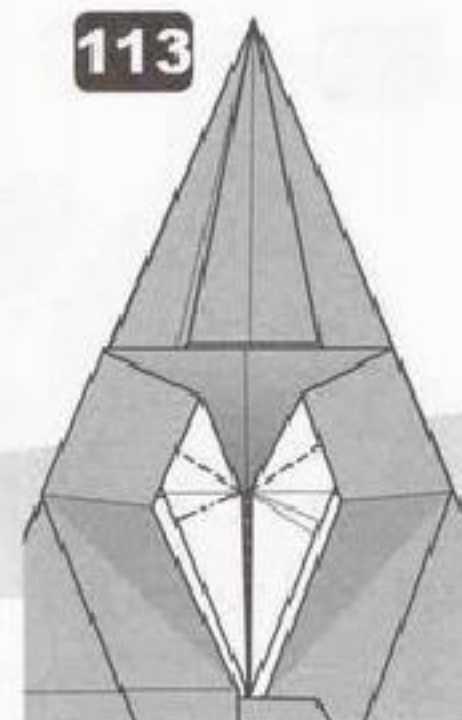
111

右側も
工程 110 と同様に
加工する



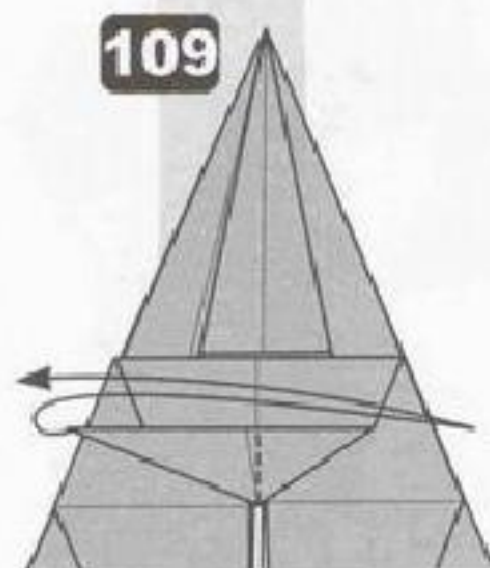
112

少しひらいて
内側を見る



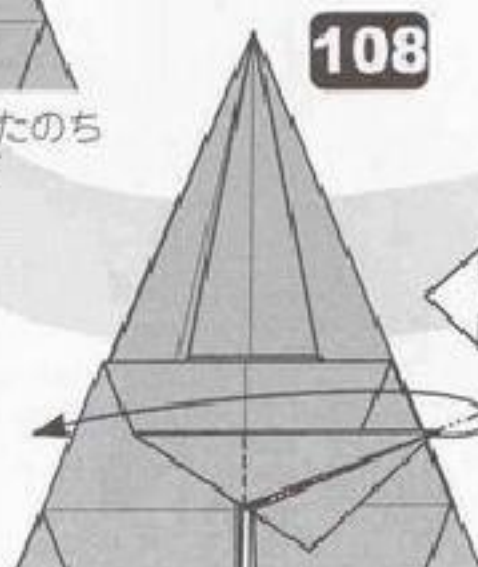
113

内側の白いカドを
すでに付いている折り線で
工程 109 のような形につまみ折り
そののち全体を平面におちつける



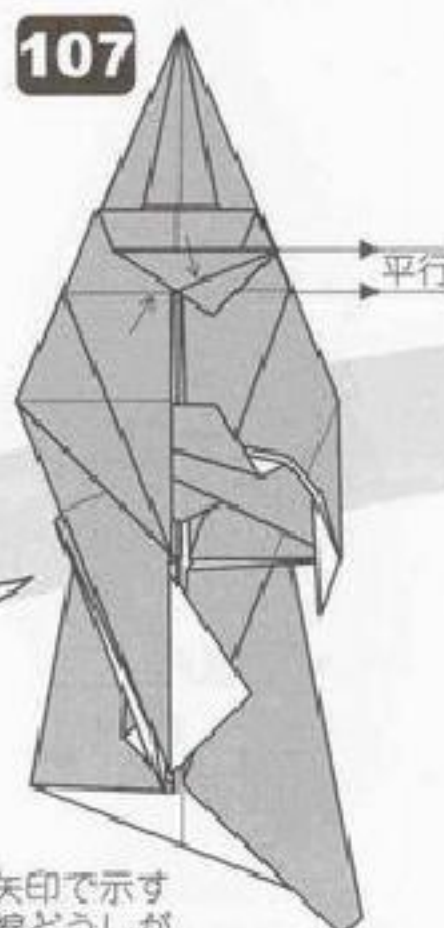
109

しっかりと折り目をつけたのち
工程 106 の状態まで戻す



108

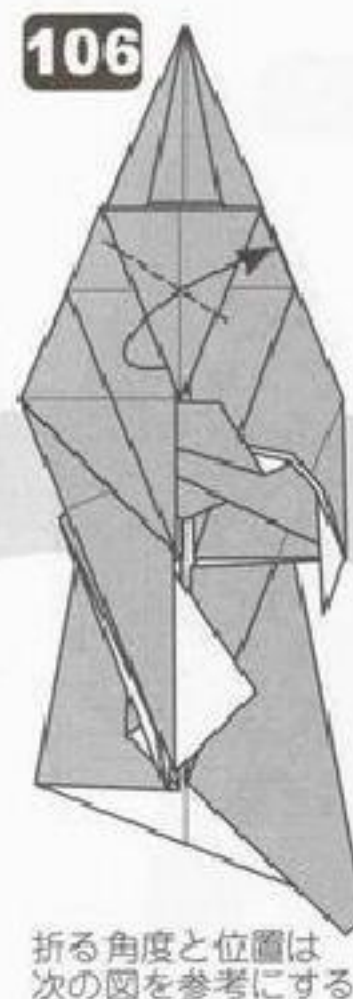
左側へめくりながら
ひらきつぶす



107

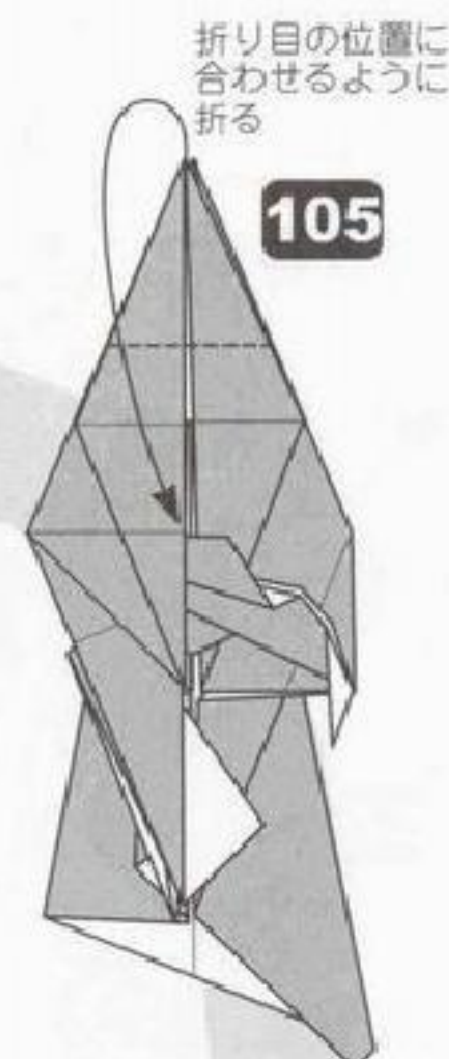
平行

矢印で示す
線どうしが
正中線上でぶつかる位置で
工程 106 の折りをおこなう
次の図では
作品の上半分を拡大



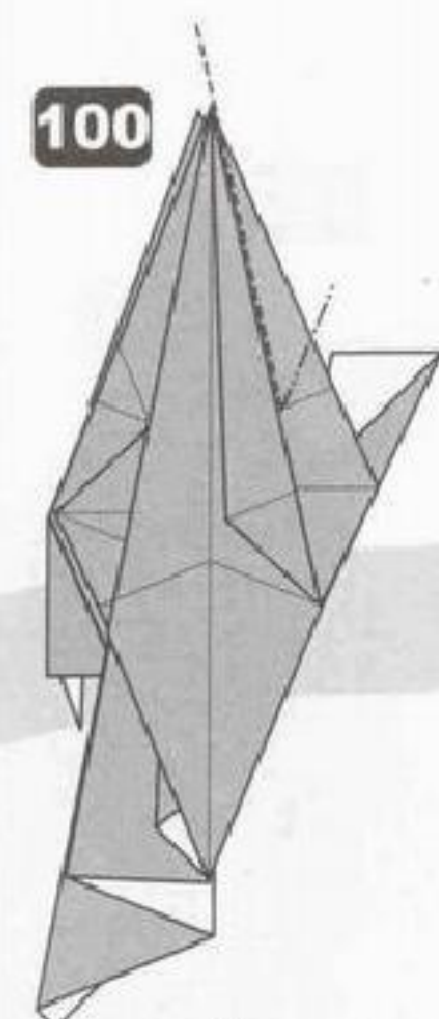
106

折る角度と位置は
次の図を参考にする



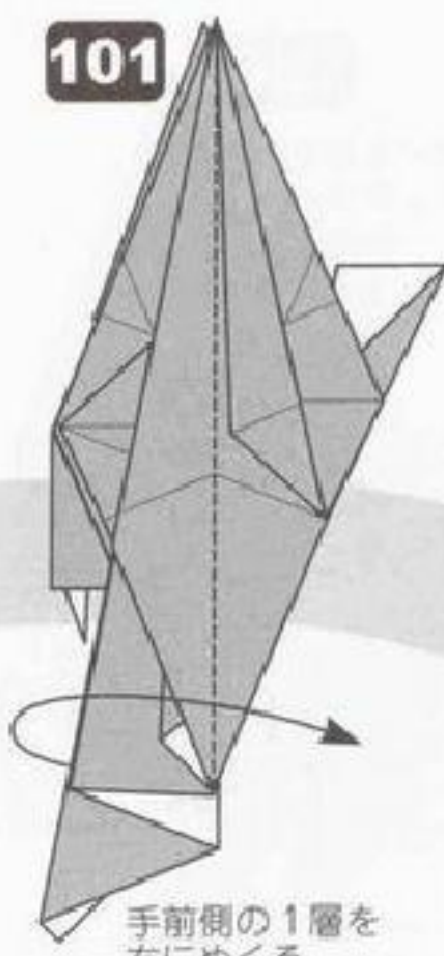
105

折り目の位置に
合わせるように
折る



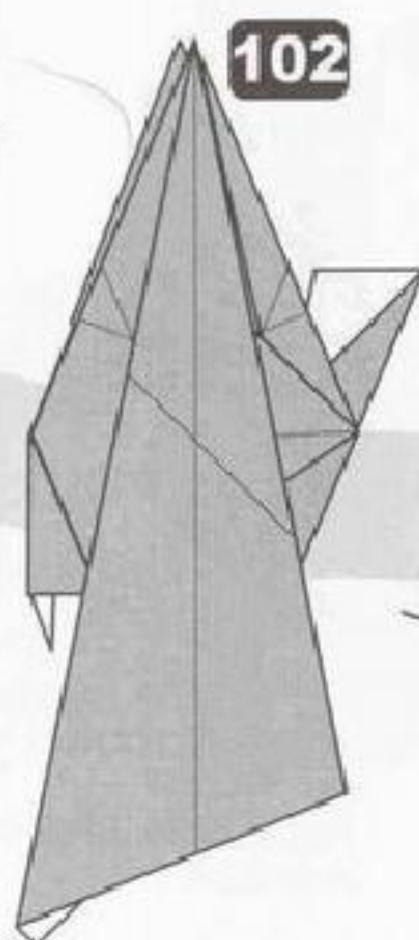
100

工程 89 と同様に加工して
だいたい同じくらいの角度で
折り目をつける

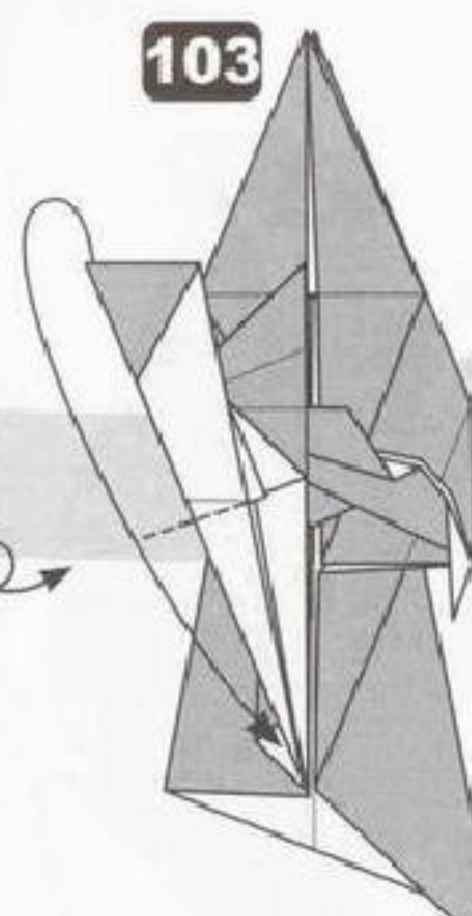


101

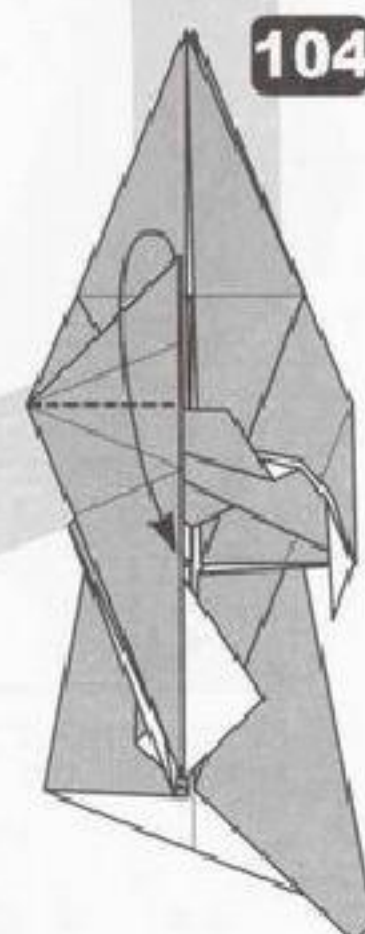
手前側の1層を
右にめくる



102

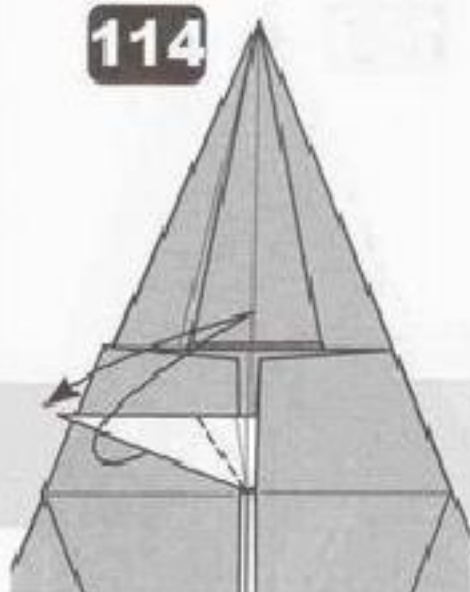


103



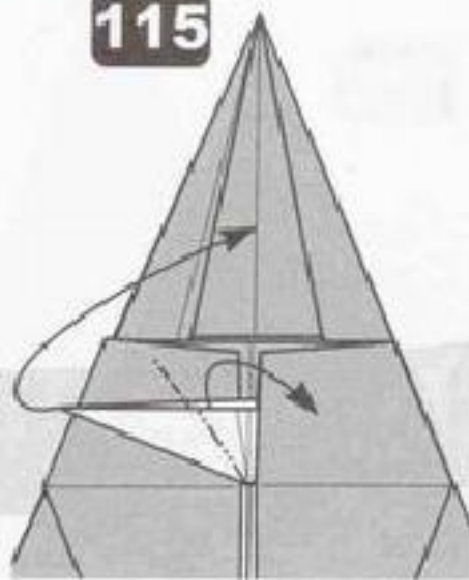
104

114



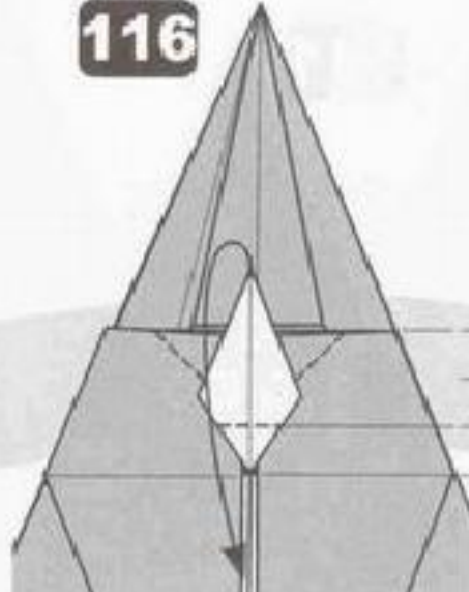
辺を正中線に合わせて
折り目をつける

115



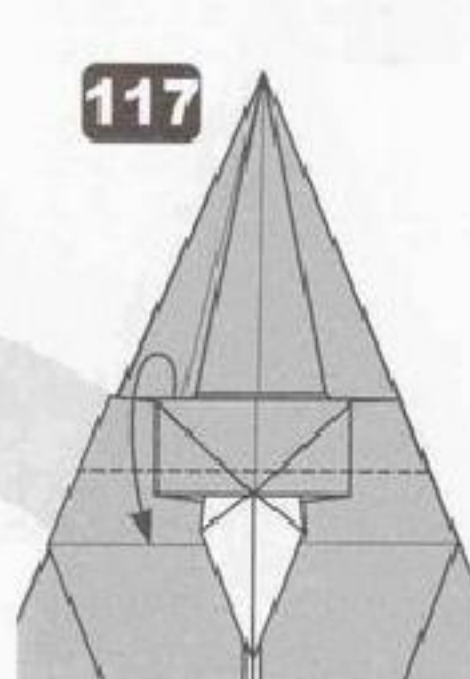
ひらきつぶす

116



3分の1ぐらいの位置で
カドを折り下ろす
つられてくる部分は
次の図のようにつぶす

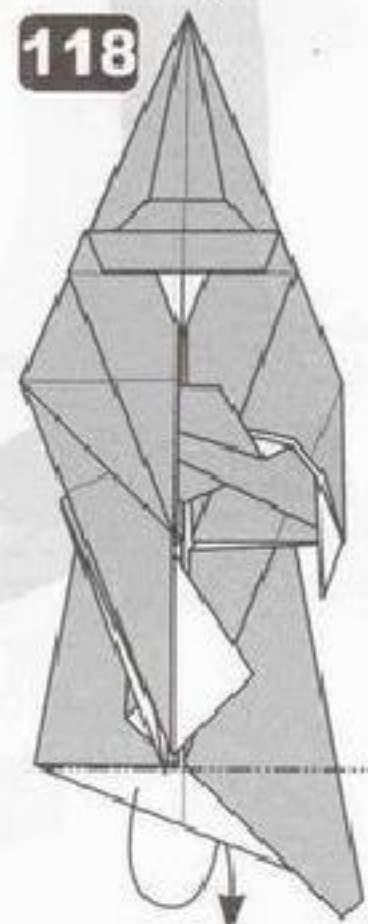
117



フチを線に合わせて折る
次の図では縮小して全体を見る

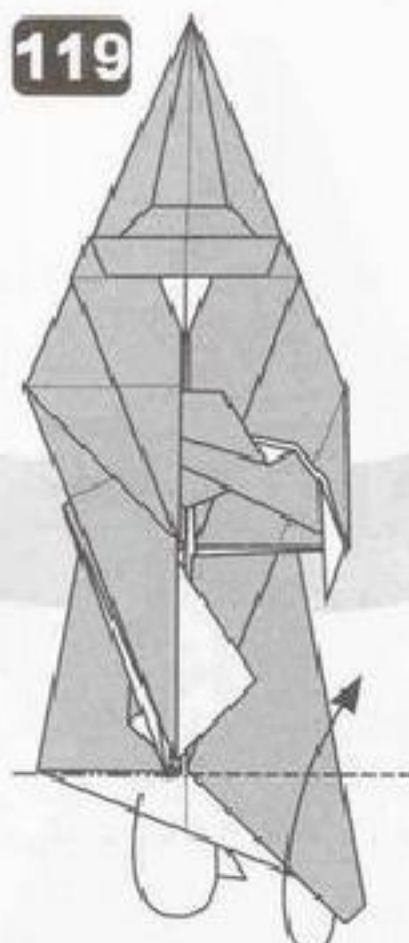


118



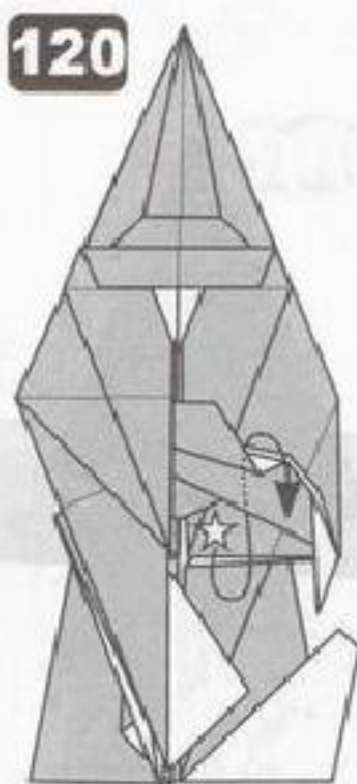
フチに沿って
折り目をつける

119



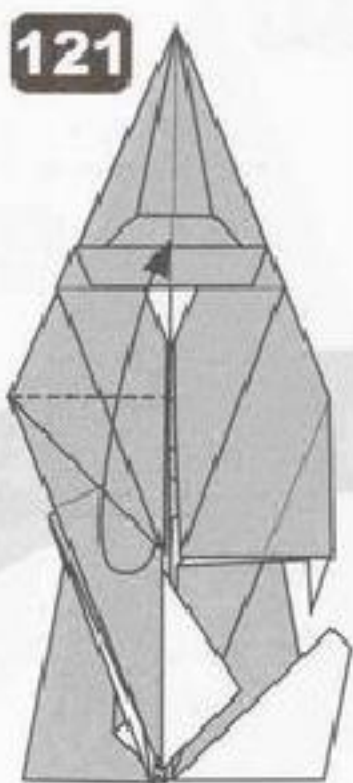
工程 118 で付けた線
を使ってかぶせ折り

120

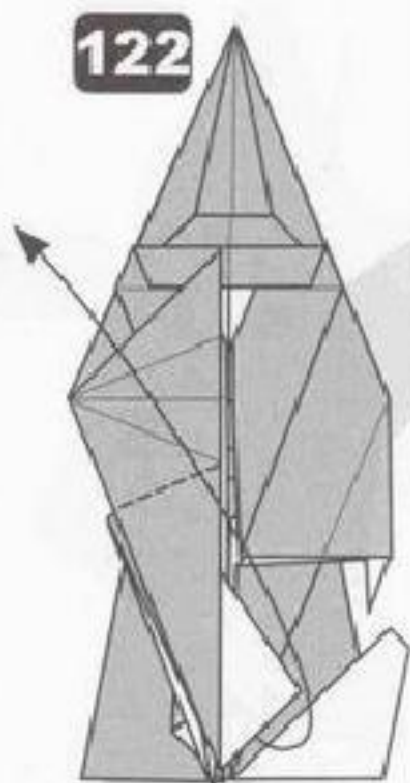


星印で示す層を
手前側に持ってきて
かぶせる

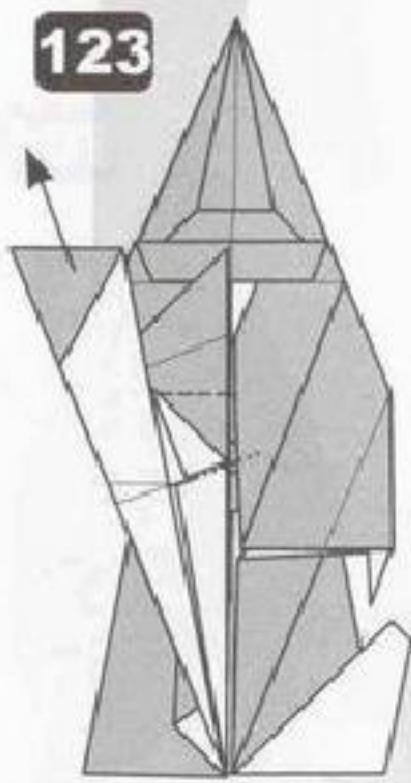
121



122

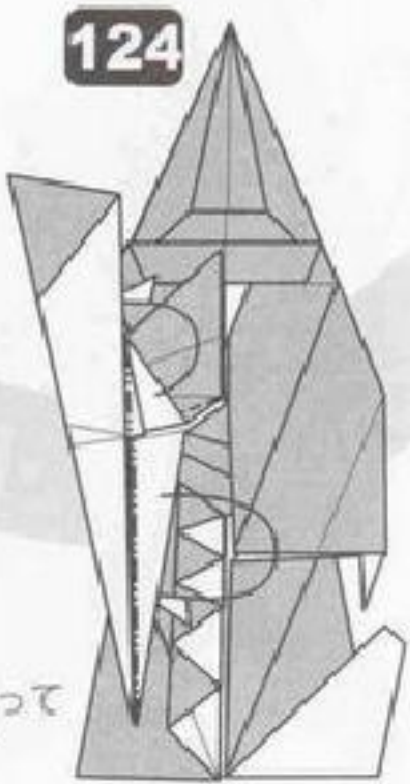


123



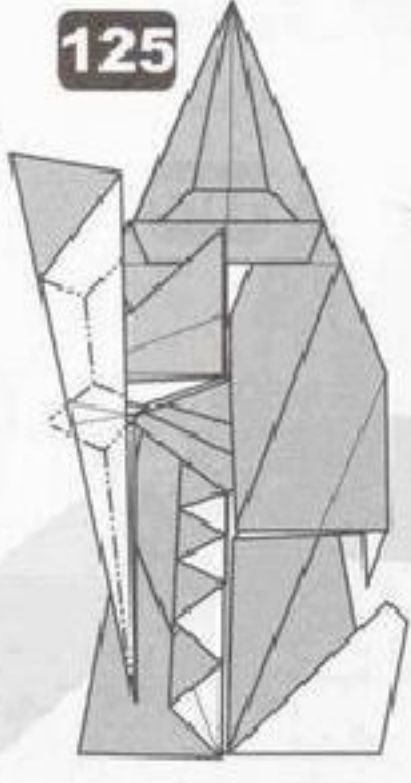
左上に少し引き上げて
立体的な状態にする

124



裏側に折って
細くする

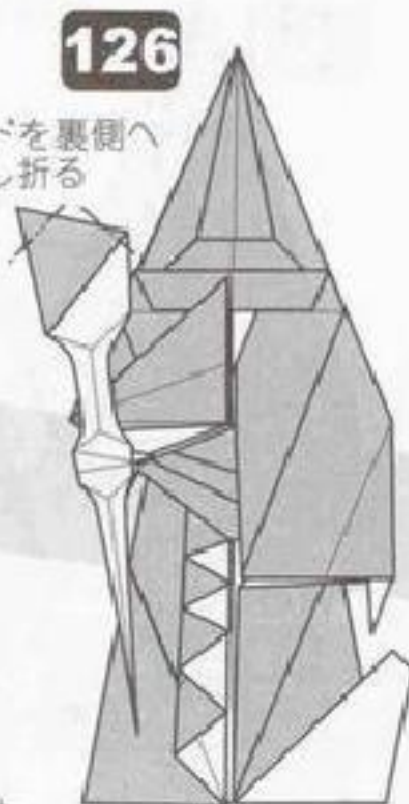
125



つまんで
細くする

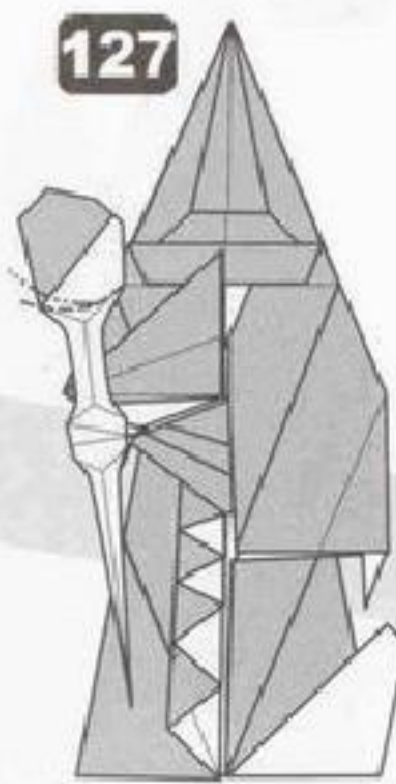
ここから工程 128 までは
魔法使いの杖の表現
の一例を示す
別の形の杖を工夫して
みるのも良い

126

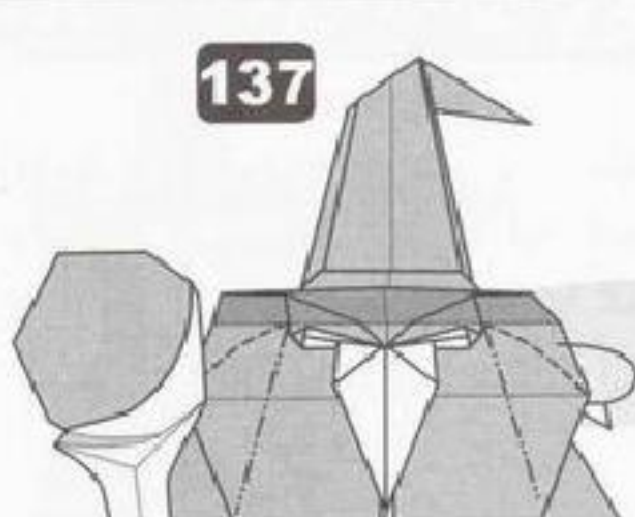


カドを裏側へ
少し折る

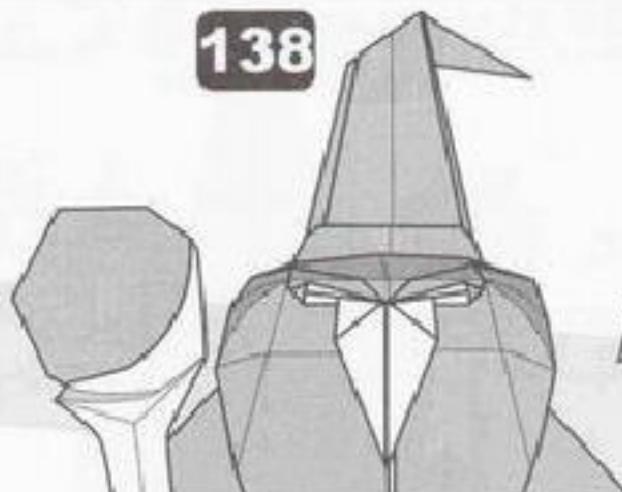
127



立体的に形を整えて
「杖の先に水晶玉が
付いている」
ようなイメージに
整形する



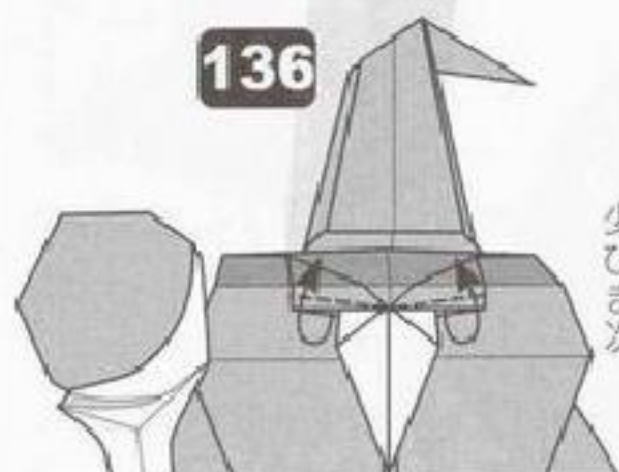
137
左右の両端を裏側へ曲げて細くすると同時に
工程 135 で垂直に立てた部分を調整して
帽子のつばのようにする



138
次の図では縮小して
作品全体を見る



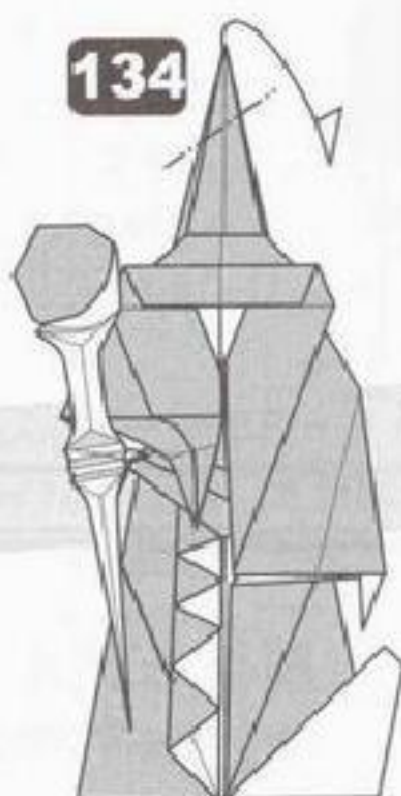
139
下端の部分について
円錐状にひらきながら
全体的にすらすらと
かぶせ折り
特に右の奥側の部分を
多くすらすらして
自立できるような
バランスにする



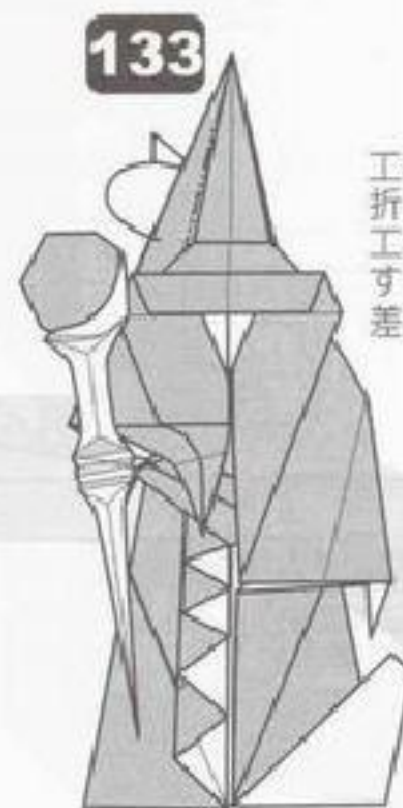
136
少しめくって
ひらきつづけて
まゆ毛を表現する
次の図を参照



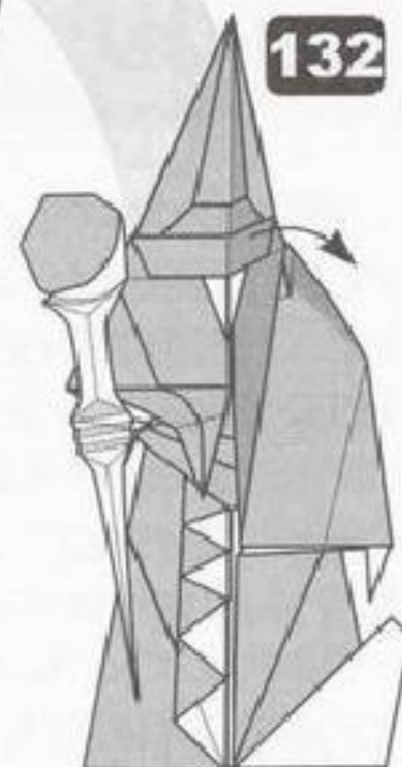
135
垂直に立てる
次の図では図の
上方を拡大



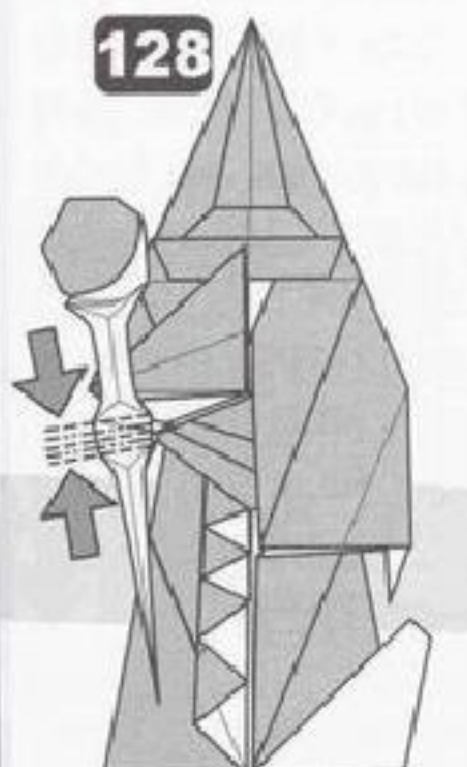
134
カドを裏側へ折る



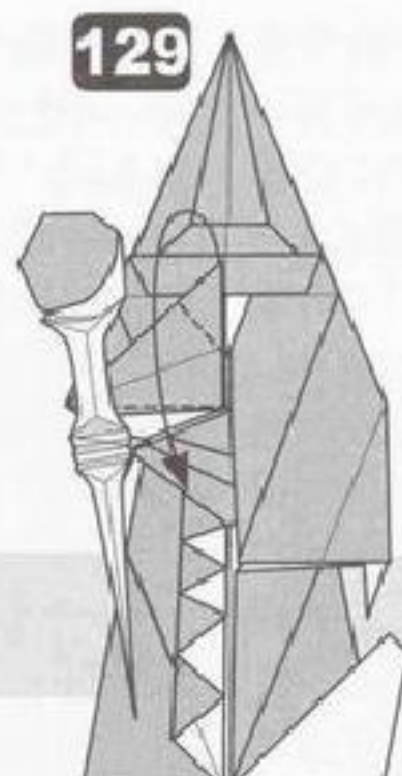
133
工程 100 で付けた
折り線を使って折り
工程 131 と同様に
すぐ裏側の隙間に
差し込む



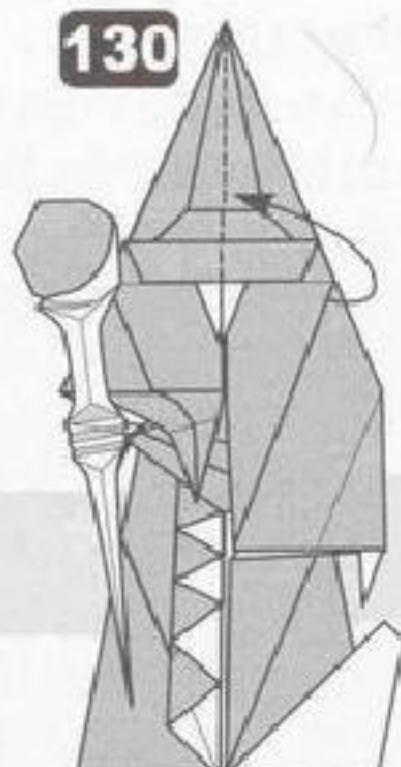
132
工程 131 で加工した
部分の周辺は
少し曲面的に盛り
上がった状態となる
工程 130 でめくった
部分に戻す



128
杖部分を上下から押し
蛇腹状の折り目をつけて
握りこぶしを表現する



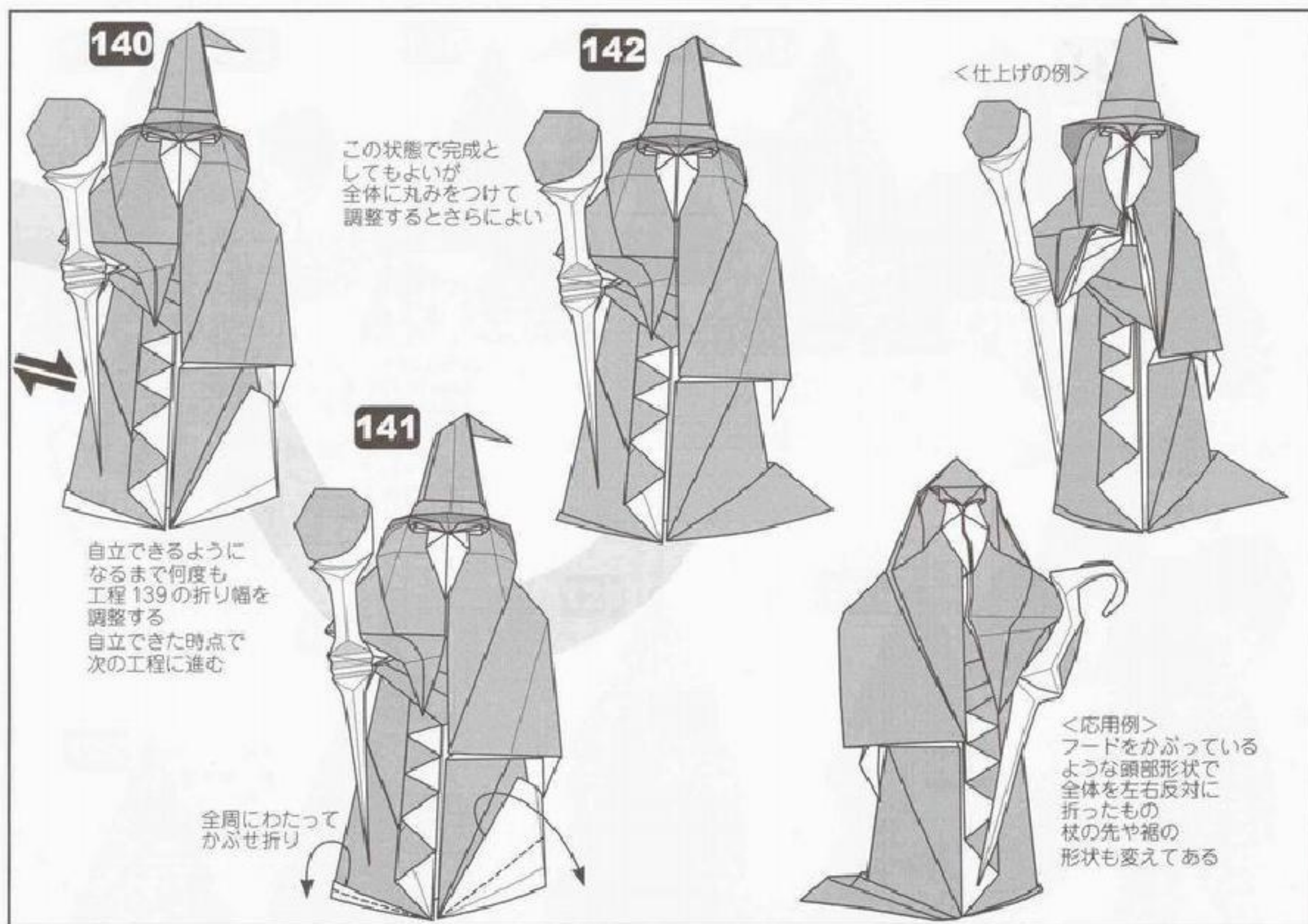
129
白い部分を覆い隠すように
折り下ろす



130
次の図のように
少しめくって
下の層を見る



131
工程 89 で付けた
折り線を使って折り
すぐ裏側の隙間に
差し込む



折紙三昧 ④

Origami-Zanmai (This Origami and That)

創作モデル

Modeling Strategies for Models

前号のクローズアップで堀口直人氏の「創作過程のモデル化」についてのレポートが掲載されました。堀口氏は、第9回関西コンベンションでも創作法についてのレクチャーと意見交換の講習を企画していて、この手の議論に積極的です。創作過程をモデル化することについては、私自身も興味を持っている分野なので若干、私の視点を整理しておこうと思います。

折り紙は、紙を折り畳んで何か形を定着させる造形手法ですので、言うまでもなく、折りの幾何学的特性や紙の物理的特性によって出来上がる形が左右されます。この30年くらいの間に折りの幾何学的特性についての理解は急速に進みました。理論的に理解が進んでいることは、多くのコンピュータープログラムが試みられていることから

はっきりわかります。

さて、演繹的に形をつくるという意味で、はっきりとモデル化された最初の仕事はおそらく、目黒俊幸氏の「実用折紙設計法」(1991年4月～1992年2月、折紙探偵団新聞7号～12号)だと言っていると思います。特に、モデル化という意味では10号で示された対象の形を幹と枝に還元する視点が重要なものでした。一般にこのモデルでは、目的の形が樹状図(tree)として先に正確に定義されているため、如何に目的のtreeを作るかという技術的な側面が強調されます。最近では、館知宏氏の「三次元折紙設計入門」(2008、日本折紙学会 第18期会員特別配布資料)で、対象を3次元のメッシュ造形に還元する方法が示されています。目的の形(機能)に対する評価を予め行っているという意味でこれらは非常に工学的なモデルで

す。一方、創作のモデル化という意味では出来上がった形を「見立てる」というものがあります。これは筆者が強調してきたものですが、実はこちらの方が歴史的には普通に行われてきたものです。しかし、創作モデルという視点で理解出来るようになったのは、やはり折りの幾何学的特性が近代的に理解され始めた『ビバ!おりがみ』(1983)以降でしょう。この視点では、形に対する評価(見立て)が後に来ますので、技術的には折りの幾何学が生む“形の多様性”に興味を持ちます。多様な形から有用なものを選ぶという意味から、こちらを進化的モデルと言って良いかもしれません。

次号から目黒さんの新連載が始まります。ご期待ください。

西川誠司 Nishikawa Seiji

File-28

加瀬三郎さんご逝去

Obituary: Kase Saburo



相模甚句が得意であった加瀬さん

1926年東京都生まれ。先天性の視神経萎縮症のため失明。29歳から折り紙を独学で習得。盲目の折り紙大使として精力的に国際交流を進めた。

「この子はね、私がいなければだめなのよ。」加瀬さんのお母さんからよく聞かされた言葉だ。そんなお母さんの前に出ると加瀬さんは何も言えない子になっているようだった。

加瀬さんと初めてお会いしたのは、私が日本折紙協会(NOA)の事務局員になる前だった。当時の事務局は、故長野耕平氏の会社(びぼ社)の中にあった。まだ私は折り紙界の右も左も分からない頃であった。

次にお会いしたのは、NOAが五反田(東京)のTOCビルの中にあったサンリオのお世話になって、サンリオの会社の中に事務局が置かれてからだった。この頃になると、私は事務局員として働き、雑誌『おりがみ』の編集と制作をしていた。時々事務局にやってくる加瀬さんを、五反田の駅まで迎えに行き、事務局まで案内するのは、私のもう一つの仕事であった。駅から事務局まで10分少々。加瀬さんは、私の肩に軽く手をのせて軽快に歩いた。途中いろいろと楽しいお話をしてくれたことが懐かしく思い出される。

はじめは、全盲の折紙作家ということで、一体どんな方だろう、どのように対応していいのだろうなどと悩んだものだが、その心配は徒労に終わった。加瀬さん

は、まるで全て見えるような素振りで付き合ってくれていた。それは加瀬さんの気配りであった。

時々、加瀬さんは目が見えるのではないかと思えるほど、絶妙な表現をされていた。ある時、花火が上がった。「今のは玉やですね」と、見える私たちを驚かせたこともあった。そんなことから、「本当は見えるのではないか」という言葉を耳にしたこともあった。しかし私は、加瀬さんの手の甲に、塀などで擦ったかすり傷があるのを多く目にしていた。

加瀬さんの折り紙を教える方法には、独特のものがあつた。笠原邦彦さんのパンダが一世を風靡した頃に、私は、加瀬さんが座布団折りをどうやって折るのか、教えるのかと興味を持ったことがあつた。観察していた結果、その折り方に驚かされることとなった。それは次のような方法であった。

はじめに四角く上に半分に折り、次に右側のタテのフチを下のフチに合わせて折る。反対側も同じようにして左のタテのフチを下のフチに合わせて折る。次に、重なっている部分の内側の1枚を、引きはがすようにしてひろげる。広げた部分の下になっているカドを山折りから谷



おりがみはうすでの個展の案内ハガキ

折りに折り変える。これで座布団折りのできあがりだ。この折り方は、確かに手の感覚を頼りにしてもきれいに折れる。その簡単さに、とても感激させられたものだ。

初期のNOAのシンポジウムに参加したときは、歯の痛みに悩まされていた私を、マッサージで治してくれたことがあつた。加瀬さんの本業はマッサージ(鍼灸)師だから、マッサージをしてあげるといことは普通だったのかもしれないが、当時まだ私は駆け出しであったから、折り紙の大先輩に対して、申し訳ないやら有り難いやらという気持ちだった。

おりがみはうすがオープンしてまもなく、加瀬さんの個展を開く機会に恵まれた。今号の我楽多市で紹介した、アフリカ象がメインになって展示された会場は、連日加瀬さんのファンで賑わい、私を喜ばせてくれた。

最近あまりお会いする機会が無かったが、ある頃から加瀬さんは、海外へ積極的に出て行かれるようになり、私も年に何回か参加する、各国のコンベンションでお会いすることが多々あつた。

昨年、加瀬さんは名誉都民という大きな栄誉を授与されたが、以前にも勲章を貰ったりと、折り紙界では貴重な存在だった。とても残念でならない。まだ、何処かのコンベンションでお会いできるような気がしている。ご冥福をお祈りします。



2005年オーストリアで開催された「MASTERS of ORIGAMI展」にて筆者と



他の招待者達と一緒にサインをする加瀬さん

展開図折りに

Crease Pattern
Challenge!

挑戦

第53回

ライオン

Lion

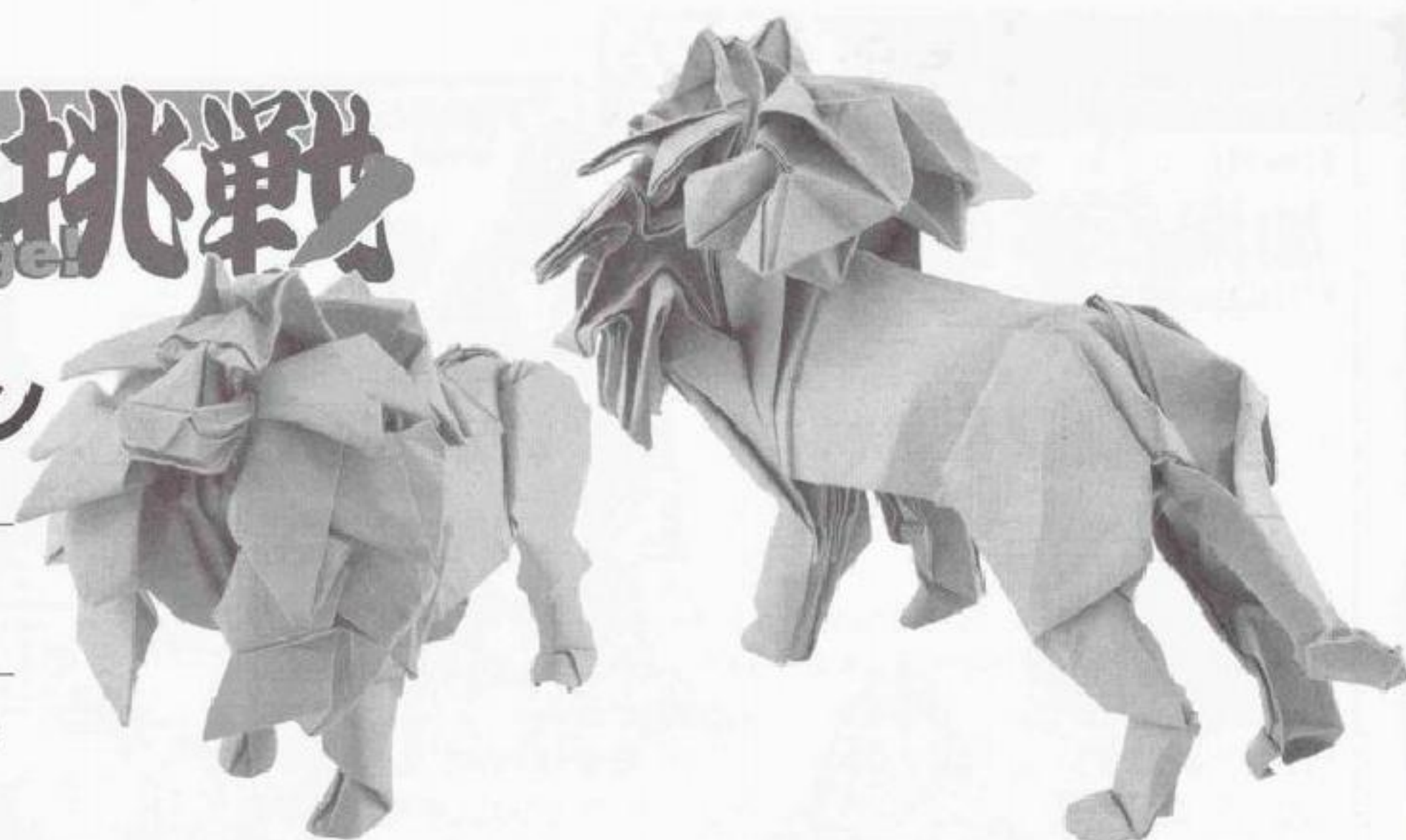
堀口直人

Horiguchi Naoto

Created : 2008.1.15

Paper Size : 60×60cm

Length : 25cm



今号のクローズアップ記事にもありますように、先日TVチャンピオンに出場する機会を得たわけですが、その番組の一番最初の勝負である「陸の生物」対決用に作った最初の作品がこのライオンでした。しかし、諸事情で陸の生物ではこの作品は使うことができなくなってしまいました。しかし私個人の思いとしては、ようやく世の中にためらいもなく発表できるような作品を創作できたこともあり、なんとか公的な発表の場を作ってやることはできないだろうかと思案しておりました。今回このコーナーを借りてこの作品を発表することで、無事にその願いが成就でき、創作者としてもホッとしております。

展開図としては単純な24等分の蛇腹になります。左半分が最初のステップ、右半分が最終的な折りたたみ段階です。左半分に関しては特に問題はないと思われます。

右半分については脚のカドを表側に持ってくる作業になります。展開図では分かりにくいですが、工程としては、まず脚のカドの後ろにある1マスのカドを45°の角度で押し込み、さらに尾のカドを半分の幅に折った後、脚のカドを45°の角度でひねりあげるようにして表に持ってきます。

この時、おしりの部分がかなり厚くなります。通常の折り紙用紙程度の紙の厚さであればなんとかなると思われますが、厚手の紙を使用する場合は、左半分の展開図の下側にある45°傾いた正方形を中央

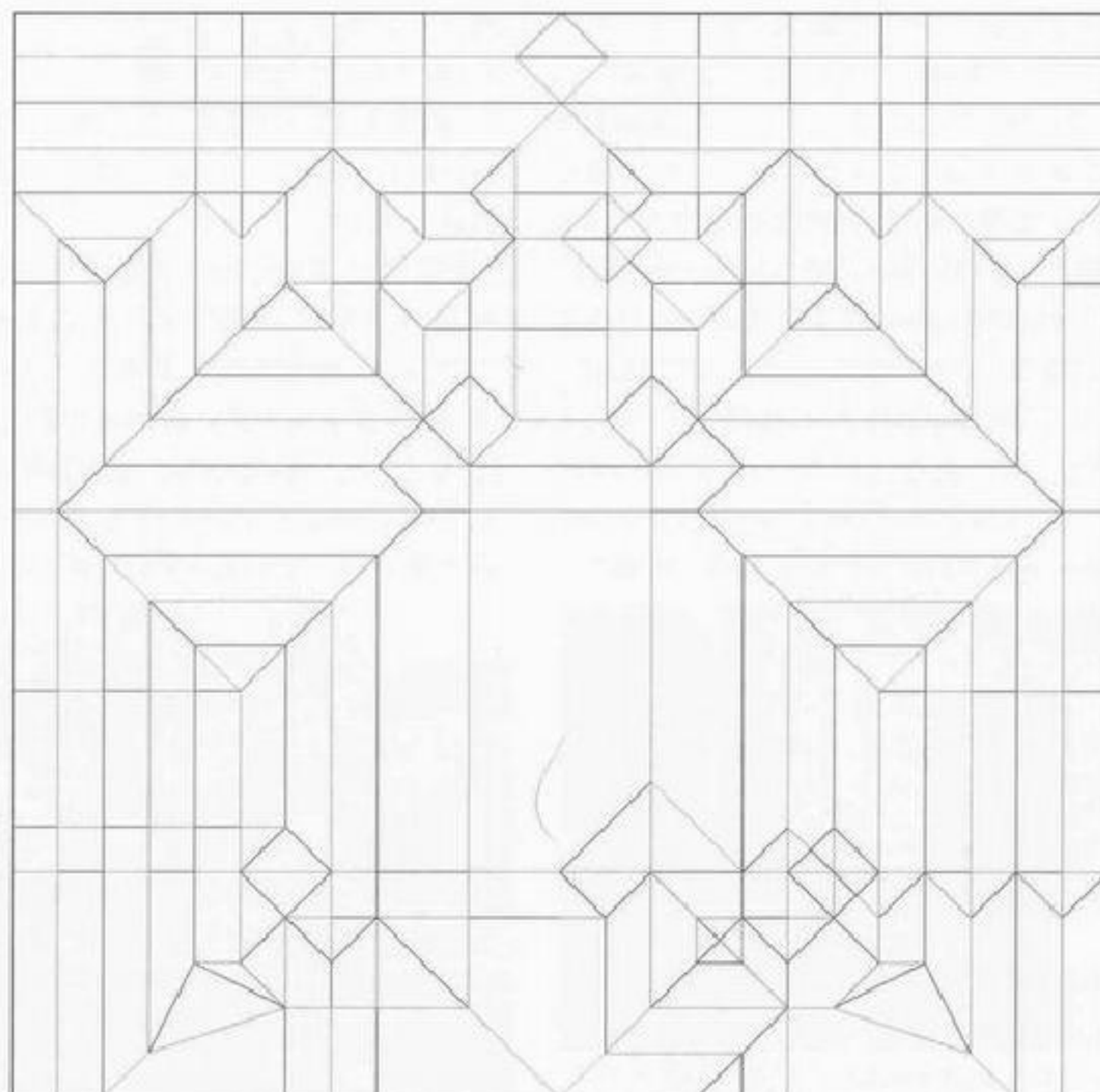
に2マス寄せて、右半分の処理をした後に外側に余った紙のヒダをずらして別のところに持って行ってごまかして下さい。作例もそうしています。

頭部については右側で沈め折りしたカドが眼と耳になります。半分の高さでつぶし折りした後、鼻側のヒダが眼、尾側のヒダが耳になります。頭部は立体的な処理になります。

たてがみについてはかなりの紙の量が

ありますので、展開図の段階から変化させて、各自お好きなように仕上げて下さい。この作例では、他の方のライオンの作例とは違ったたてがみの流れを出せないかと考えましたが、まだまだ改修の余地があるように思われます。

使用する用紙の大きさに関しては15cmでもいいのですが(実は15cm対決に回すため、これの簡略版を用意していました)、24cm以上の方がよいかと思います。





Information

シンプルな作品からスーパーコンプレックスまで、バラエティに富んだ講習がいっぱい。作者自ら講師になる教室では、最新作や未発表作品に直接触れることができる。折紙探偵団ならではの楽しいコンベンションの季節が今年もやってくる。

◆参加申し込み方法

同封の申込用紙に必要事項を記入し、郵便またはファックスで日本折紙学会事務局までお送りください。

事務局＝〒113-0001 東京都文京区白山
1-33-8-216 TEL&FAX/03-5684-6080

本誌の購読等に関わらず、折り紙が好きならどなたでも参加できます。お知り合い同士声をかけての参加をお待ちしています。申込用紙が複数必要な場合は、コピーをとって使用してください。

■教室受付順位の決定方法について

教室受付順位とは、希望の教室申し込みを受け付ける順番です。番号が若いほど、希望の教室を受講できる可能性が高くなります。順番は、昨年と同じ方式で決めさせていただきます。これは、申し込みを早めにして、ボランティアによる事務処理の軽減に協力して頂くために行っております。

まず、6月25日到着分までの申し込み用紙で、シャッフルをして教室受付順をつけます。これにより、25日到着分までの申し込みを、同着として扱わせて頂きます。この順番は、16日と17日で逆になります。例えば、25日に到着した申し込みが100人だとすると、16日に1番だった人が17日に100番になります。

それ以後の申し込みについては、申し込み締切の8月10日に2度目のシャッフルをして、残りの番号を振り分け致します。この番号も、16日と17日目では(このグループ内で)順番が逆になります。早めのお申し込みにご協力お願い致します。

◆特別講演会(15日)

講演会の参加費は無料ですが、聴講のみの場合も事前登録が必要です。申し込み用紙の「講演会のみ参加希望」にチェックを入れ、事務局までお送りください。

講演者は吉野一生基金招待者の2人(36ページ参照)と京都大学准教授の横小路泰義さん。横小路さんの専門はメカトロニクス(機械工学)で、現在人間並みに器用なロボットの手をつくるという目標に向けて、折り紙を折るロボットを研究されています。近年のロボット技術の発展を知るとともに、わたしたちが普通に楽しんでいる折り紙を折るということが、いかに複雑な作業であるのかを知る、興味深い講演になるでしょう。

◆講師募集

探偵団コンベンションのメインである折紙教室。この教室は、参加者の皆さんの協力により成り立っています。自信作をお持ちの方、お気に入り作品がある方、皆に教えてみませんか。初めての方も大歓迎です。自分の創作作品ではない作品を教えたいという方には、作者の使用許可を取るためのお手伝いをさせていただきますので、遠慮無くお問い合わせください。

ベテラン講師の申し込みも大歓迎。折紙指導員資格を持っている方は、実力を発揮するまたとない機会になります。

詳しくは、同封されている「講師参加のご案内」をご覧ください。

第14回 折紙探偵団 コンベンション 参加者募集開始

2008年 8月15日(金)、16日(土)、
17日(日) 会場:東洋大学(東京・文京区)

14th Origami Tanteidan Convention

2008 August 15-17 at Toyo University, Tokyo.

本誌到着から受け付け開始となります

◆折紙指導員資格と 指導員向け講習

折紙探偵団コンベンションでは、日本折紙学会が認定する「折紙指導員」の認定試験を受けることができます。現在、この資格を取得している方は64名。各地で活躍されています。今回も受験者を募集します。受験資格は、日本折紙学会の会員であること。受験料は無料ですが、合格後の登録料として3,000円が必要となります。

また、今大会では、指導員向け教室も計画しています。指導員として活動する際に役立つ知識や情報を得て、今後の活動をより豊かにして頂こうという企画で、指導員資格を持たない方もご参加頂けます。

◆お楽しみ懇親会

会場は、今年も東洋大学のキャンパス内にあるスカイホールになります。スカイホールは高台にある校舎の16階で、夜の街並みがとてもきれいに見える場所です。

老若男女の区別なく折り紙の話題で盛り上げられるひととき。堅苦しさの無い折り紙好きのための親睦パーティーです。

毎年恒例なのが、全員参加型のゲーム。今年はおりがみはうす20周年という事から、おりがみはうすカルトクイズを予定しています。賞品は、幻の絶版本をはじめ、折り紙好きにはたまらないものを用意します。勝ち残りたいという方には、事前調査をお勧めします。多くの参加をお待ちしています。

◆第2回JOAS創作折り紙コンテスト

昨年に引き続き、折紙探偵団コンベンション開催に合わせ、創作折り紙コンテストを開催する。今回は3つの部門を設け作品を募集している。皆さんの自由な表現をお待ちしている。

●主催 日本折紙学会

●応募資格 国籍・年齢・経験等一切不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要なし。コンベンション参加不問。

●作品条件 各部門のテーマに沿った未発表の創作折り紙。技法は不問。8月17日以前に、出版物・ウェブ等で公表された作品は審査の対象外となるので注意すること。

◇干支部門:「うし」、

◇特別テーマ部門:「空(そら)」

◇おりがみはうす部門:テーマの規定なし。

ひとり各部門につき1作品のみ応募可能(情景作品の場合は、情景全体で1作品として扱う)。原則として、縦・横・高さ各30cm以内に収まる大きさであること。

●応募方法 作品募集要項(応募用紙付)を、折紙探偵団ウェブサイトまたは郵送で取り寄せの上、規定の手続きを行う。郵

送希望の場合は、返信用封筒に80円切手を貼って送り先を記入の上請求のこと。

●表彰 各部門より1作品を選出表彰する。

◇おりがみはうす賞:「ギャラリーおりがみはうす」の協賛による賞。おりがみはうすが審査する。

◇特別テーマ部門賞・干支部門賞:日本折紙学会評議員の審査およびコンベンション開催期間に、参加者による投票によって決定する。評議員による審査は、造形だけではなく、構造の合理性や手法の新規性なども評価の対象となる。

各賞の受賞者には、記念の楯ならびに副賞として賞金1万円が授与される(中学生以下の場合、副賞は図書券)。

●日程 募集期間:2008年6月1日～7月31日 結果発表:コンベンション閉会式(8月17日)にて発表および表彰。

14th Origami Tanteidan Convention

We Japan Origami Academic Society is going to hold The 14th Origami Tanteidan Convention on August 15-17 at Toyo University, Tokyo. More than 350 origami-lovers will enjoy many origami classes, classes in origami studies, and attractive events. In addition, you can share origami experiences with advanced designers or eager beginners.

We exempt all foreigners from the admission fee of the 14th convention. We will welcome all of you to our convention 2008.

Further information will be available in the magazine and our web site.

Also you can contact us by e-mail at webman@origami.gr.jp.

「第14回コンベンション折り図集」原稿大募集

TEL&FAX:03-5684-6080 (事務局)
e-mail: conv@origami.gr.jp

コンベンションに合わせて発行される折り図集への投稿作品を、広く募集します。国内外を問わず年をおうごとに投稿作品数が多くなっています。今年も編集部は大いに期待しています。自慢の楽しい作品(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特にありません。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要ありません。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく「第14回折紙探偵団コンベンション折り図集」を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくは

アレンジの作品で、自作の折り図に限ります。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの創作者の了解を取った上で、名前も明記すること。)原稿はデジタルデータが基本となります。手描きの場合は状況(編集作業工程の問題で)によって対応致します。

●折り図投稿マニュアル入手方法
ダウンロード:折紙探偵団HPの「新着情報」ページよりダウンロードできます。/郵便での取り寄せ:返信用封筒に送り先を記入の上80円切手を貼って、請求してください。

◆応募締め切り:2008年6月末日

Convention Book Vol.14

We are having, fortunately, the season of the JOAS 14th Origami Tanteidan Convention very soon again. As we do so every year, we call for the diagrams from folders all over the world. Here are the conditions of acceptance of your diagrams:

- The diagrams you send are not yet published.
- The diagrams you send are in the form of digital data (we STRONGLY encourage sending diagrams in either Adobe Illustrator or Freehand format).

If your diagrams are accepted for publication in the 14th Convention Book, we will send you one copy of the 14th Convention Book to express our gratitude. The official deadline is the end of June, 2008, but we STRONGLY, again, encourage your early submission. The data should be sent to the following e-mail address: conv@origami.gr.jp

We look forward to seeing your original, unique diagrams, as usual.

◆第12回 吉野一生基金招待者決定

吉野基金招待者が決定したのでお知らせしよう。まず一人は、前号でお知らせしたヘルマン・バン・グーベルジャン氏(ベルギー)に決定した。「新聞を読む人」などの作品で知られた作家で、107号に紹介された「シブス・バッシング・イン・ザ・ナイト」あの作者でもある。もう一人は104号の「ペーパーフォルダーの横顔」でも紹介した新進気鋭の作家、シボ・マボナ氏(スイス)に決まった。106号の「ニジイロクワガタII」等、精巧な昆虫を得意としている。また最近ではアシックスの折り紙を使った広告を手がけたりと活躍している。



▶マボナ氏の「セミ」

◀72号に折り図が掲載されたグーベルジャン氏の「鶴」。折り上がった作品は上半分だけで、下半分は内側が鏡に映っている



◆OSN25周年記念大会に参加して 布施知子



JOASの25周年記念大会で贈られた

オランダ折り紙協会(OSN)の25周年大会に呼んでいただいた。JOASからお祝いの盾を運ぶ役目を仰せつかった。盾は大会に大きく花を添えるもので、思いがけない贈り物はみなさんを驚かし、喜ばれるもの

だった。日本大使館からは折り紙用紙の寄付があり、開会には書記官が参列、スピーチがあった。OSNに行く前に数人から、女性ばかりだから驚かないようにと言われていたが、25周年ということもあってか、イギリス、ドイツ、フランス、ポーランドからの男性参加者もあり、女性ばかりが目立つわけではなかった。しかし、会長のPieterさんによれば、オランダ人男性会員の数は片手の指くらいとの事。創作する人はまだ少ないようだった。複雑系の動物などは展示に少なかった。しかし女性会員の折り紙に対する熱意は高く、理解力もスキルレベルも高かった。切ったり貼ったりのペーパークラフトの

教室があったり、サプライズパフォーマンスとして太極拳の体験教室もあった。また一夜にぎやかに折り紙ファッションショーがあり、NOAからの参加者がウェディングドレスで喝采を浴びていた。パワーとぬくもりのある会だった。OSNが今後ますます年輪を重ねていけますように。



▲ワーグナーのオペラのような、と一番人気だった衣装



▲ファッションショーより川崎桜ネットのドレス

◆2008年度MFPPコンベンション 前川 淳

昨年の西川誠司さんに続いて、MFPP(Mouvement Français des Plieurs de Papier: フランス折紙協会)のコンベンションに招待され、5月1日から5月4日までの会に参加してきた。ちなみに、MFPPは、今年でちょうど30年になる歴史のある会である。

招待者は、わたしのほかにイギリスからマックス・ヒュームさん、そして、桃谷好英・澄子夫妻も特別に参加された。

折紙探偵団関西コンベンションと日程が重なって、エリック・ジョワゼルさんとちょうど入れ違いになったのは少し残念だったが、パリの空の下ではセーヌ河も時もゆるやかに流れていて、存分に交流を楽しんできた。じっさい、講習の時間もランチの時間もたっぷり余裕があって、会場はエッフェル塔を

望む閑静な住宅街にあり、参加者は70名程度、ゆったりと楽しめる会だった。

勝手な思い込みもあるのか、フランスらしいなあと思ったのは、バンサン・フロデュールさんの技法を使った、アッセンフォルデル夫妻の帽子や服だった。湿らせた紙にしわをつけてつくるという技法で、外で身に付けても何の違和感もないお洒落なものになっている。土曜日夜の懇親会では、アラン・ジョルジョさんの軽妙な司会のもと、みながこの帽子を被ってゲームを楽しんだ。折り紙を「共通語」にしてつながり、その違いや国柄も楽しむ。折り紙によって、知見が広まり、世界中に友人ができる。こんなに素敵なことはない。



▲左から、前川、マックス・ヒュームさん、桃谷夫妻 (Photo by Lee Chang)



▲懇親会は、みな紙の帽子をかぶって

◆AEPコンベンション2008 川村みゆき

5/1(木)~4(日)の間、マドリードの北西、古都レオンで開催されたスペインコンベンションAEP2008に招待講師として参加させて頂きました。初日の夜に同じく招待講師のブライアン・チャン氏(アメリカ)やロマン・ディアス氏(カナダ)、サアディア・ステルンベルク氏(イスラエル)とともに各自の創作に関する講演がありました。4人とも作風が違って興味深く、中でも、人物の顔を沢山作っているステルンベルク氏が、濡れた紙を自分の顔に押し付けてどんな皺ができるか試したという話が印象的でした。

2日目は市内観光を兼ねつつ銀行のギャラリーで開催中の折紙展を見学しました。コンベンションの世話人マヌエル・シルゴ氏の繊細な昆虫作品や、同じく世話人のエンジェル・サボナロ氏の巨大ユニット作品、地元のお祭りのジオラマなどが圧巻。沢山のフォルダーの方々の作品もあり、見ごたえ

のある展示でした。その後レオン市長と会見後、会場に戻って講習会です。2時間づつの講習が3~4クラス同時進行ですが人数制限もあり、120人の参加者全員が教室に入ることはなかった。チャン氏やシルゴ氏のコンプレックス系や、ヘルマン・グーベルジャン氏(ベルギー)のアクション折紙が人気で、人数制限の無かったグーベルジャン氏のクラスでは立ち見の人でひしめき合っていました。

3日目には地元のテレビの取材を受け、放映されるかもということで皆テレビの前に大集合でしたが結局話題には出ませんでした。残念。夜にはアコーディオンの伴奏で毎年歌われているという替え歌「パハリータ」を皆で歌いました。スペイン語なので読めませんが、海外組も手拍子で大盛り上がり。夜中には徹夜で折っている人々飲みに出かける人々などでロビーは遅くまで賑わって

いました。

2時に昼食10時に夕食という時間割に最初は驚きましたが、全体的にゆったりと予定が組まれていて、フリーの部屋で突然始まる講習を受けたり沢山の方々とじっくり話をする事ができてとても楽しいコンベンションでした。世話人のお二人や、マドリード在住のメンバーの方々には、初日に飛行機が遅れたためホテルやプログラムの変更などで大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。



折り紙展の会場

◆伏見康治さんご逝去

折り紙界はまた大きな先達を失った。日本折紙学会顧問に就任いただいていた伏見康治さんが5月8日亡くなった。老衰とのことであった。享年98歳。

原子力の平和利用・研究の推進に尽力し、日本学術会議会長も務めた物理学者の伏見康治さんは、大学人として一線を退いた後、折り紙にも興味を持ち、名著『折り紙の幾何学』



白寿のお祝いで元気な姿を見せてくれた伏見さん

(日本評論社 1979)を著すと、一躍折り紙界には無くてはならない存在となった。伏見さんは1994年に大津で開かれた「第2回折り紙の科学、科学的折り紙国際会議」の基調講演で「折紙探偵団新聞」を片手に、最新の発展を語られるなど、若い折紙研究家や愛好家に常に優しいまなざしを送っていた。

◆2008 オリガミ・デザイン・チャレンジ

2004年よりロバート・J・ラング氏を中心となり行われ、いくつもの傑作を生みだしているオリガミ・デザイン・チャレンジが今年も参戦者を募集している。

今年2008年のテーマは「恐竜を除く古生物」。恐竜の折り紙作品はたくさんあるが、それ以外の生物も魅力的な題材が多い事からこのテーマが選ばれた。新生代の哺乳類から爬虫類、節足動物やバージェス動物類等、幅広い分野から題材を選んで欲しい。また、原則として不切正方形一枚折りであることが条件となる。

投稿された作品は、OrigamiUSAと

日本折紙学会のコンベンション等で展示される予定。

過去に行われたテーマの作品は、ラング氏のウェブサイトで見ることができる(<http://www.langorigami.com/art/challenge/challenge.php4>)。

※事務局ではオリガミ・デザイン・チャレンジへの参加をお手伝いします。作品を展示用の札を同封の上、日本折紙学会事務局宛にお送り下さい(6月20日必着)。投稿された作品はOrigamiUSAのコンベンションに参加する山口真氏が、運ぶ予定です。

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=500円(中学生以下300円)/講習会=14:00~/研究会=16:00~

- 6月7日(土)/講師堀口直人/作品:未定
- 7月5日(土)/講師:未定/作品:未定

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスG棟 204・205/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~16:30

- 6月21日(土)/G204講師近藤哲也/作品:あじさい/G205講師加藤美津枝・水野健/作品:蘭部式ユニットによる創作カエル
- 7月19日(土)/講師:未定/作品:未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

会場=神戸女学院大学文学館L-34教室

(いつものデフォレスト館ではなくコンベンション会場の建物です)/参加費=なし/時間=13:00~16:00

- 6月28日(土)/講師:立石浩一/作品:パンダ(Robert Lang作)
- 7月19日(土)/講師:立石浩一/作品:オオコウモリ(Michael LaFosse作)

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

●7月6日(日) 会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=500円/時間=10:30~12:00/問い合わせ: 054-254-4541(増武内 山口16~20時)

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ/参加費=大人300円、子供100円/時間=13:00~16:00/●6月29日(日)(予定) ●7月27日(日)(予定)/講師:未定/作品:未定

＜伏見康治さん＞名古屋市出身。東京大理学部卒。量子統計力学専攻。大阪大教授、名古屋大プラズマ研究所長などを歴任。78年から82年まで日本学術会議会長を務め、83年から参院議員を1期務めた。また、人道・平和主義を呼び掛ける「世界平和アピール7人委員会」のメンバーとしても活躍した。

編:次号で伏見康治追悼特集を予定しています。

JOASホール今後の予定

- ◆6月21日(土)「知子の部屋」布施知子/参加費=2,500円/12:30~16:00
- ◆6月29日(日)「ある折紙作家の教室」神谷哲史/参加費=3,000円/11:00~16:00/講習作品「コドリ」
- ◆7月19日(土)「知子の部屋」布施知子/参加費=2,500円/12:30~16:00
- 参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。これをできない場合は電話でも受けれます。上記の予定は講師の都合により変更される場合があります。事前にお問い合わせください(03-5684-6040)。
- ◆6月22日(日)「第4回折り紙の科学・数学・教育研究集会」/参加費=500円/時間=12:30-16:00
- 問い合わせ先:webman@origami.gr.jp

編集後記

■悲しい別ればかりが続くこのごろである。■よくしていただいた方ばかりだからなお辛い。■ご冥福お祈りします。■進化を続ける現代折り紙。若手が次々と現れ、頼もしい限りだ。■今年のOrigamiUSAコンベンションにはその若手グループが大挙(?)して押しかける。■今号のクローズアップで紹介した4人に加え、東海友の会からも2人が参加する。皆、大学生だ。■交流は発展の原点、結果が出るのが楽しみである。■今後も、できるところまで、先達の方からの思いを受け継ぎ次の世代に伝える中継ぎとしての役目を担っていきたいと思う。(や)

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字)

折紙探偵団

2008年5月25日発行 第19巻1号 通巻109号
発行所/日本折紙学会
〒113-0001
東京都文京区白山1-33-8-216
Phone & Fax / 03-5684-6080
発行人/前川 淳
編集人/山口 真
編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史
デザイン/おりがみはうす
翻訳/立石浩一
発売元/おりがみはうす
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.109 / Published on 25, May 2008 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Haku-san Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Wizard(rev. 2008)" Produced by Hojo Takashi / Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Maekawa Jun / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

広告のコーナー



おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>
E-mail = info@origamihouse.jp
このページの商品の取扱いはずべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第13回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.13

日本折紙学会 編/2,000円/送料420円
B5判/全256頁/39作品収録

好評発売中!

世界の新作折り図ばかりを集めました。第6回TVチャンピオン決勝戦で神谷氏が折った「ライオン」、本誌「折紙探偵団」に展開図が発表された小笹氏の「翼のあるライオン」、昨年の招待者ニコラス・テリー氏の「ネズミ」、モズリー氏の動くユニット「バルサー」収録。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第12回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.12 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作52作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回~第9回の折り図集は全て絶版です ※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

限定版 折紙探偵団Tシャツ	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ。 色は黒のみで布は厚手。	XS, S, M, L, 各サイズ 定価 2,000円/2着まで送料500円 ※数に限りがありますので、ご注文の際には在庫を確認してください。
----------------------	----------------------------------	--

商品名	価格(税込)	送料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm/10枚入/70kgの 洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,200円		恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図

※紙製品は定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)。送料には梱包材代が含まれています

書籍2冊の送料は 530円 書籍3冊の送料は 670円 (例外を除く・下記参照)
例外:「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合(例:折り図集12.13と色紙百花1冊)のみ 530円

上記以外の場合はお問い合わせください/書籍と紙製品は別発送となりますのでご了承ください

只今制作中 発行日は未定です。気長に待っていて下さい
小松英夫折紙作品集/小松英夫・著 じんわりと進行中。待て次号。
北條高史折紙作品集/北條高史・著 あの名作がバージョンアップ?
折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬の折り紙第一人者の遺作集

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

GALLERY **おりがみはうす**
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

商品の申し込み方法 冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。
先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を送らせて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**
加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

■商品を複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

広告有効期限:2008年7月25日

¥300
(税抜き)

手染め
友禪

金魚

かわいい金魚を散りばめた
色とりどりの友禪和紙です。



¥300
(税抜き)

手染め
友禪

涼風

日本の夏の柄を染めた
涼しげな友禪和紙です。



株式会社トーヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所

日本折紙学会発行 定価 635円 (本体605円)